加加松



第27回 川柳塔まつり特集

No.1135

十二月号

お ます。 詳 イーナ 令 知らせ 和 細は15頁をご覧下さい。 **4**年 大阪にて 1月旬 Ш 開催予定 柳 塔 町 社 T



2022年(令和4年) 本社句会 開催日程表

会場:ホテルアウィーナ大阪

開催日	時 間	会 場	
1月6日(木)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F
2月7日(月)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F
3月7日(月)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F
4月4日(月)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F
5月9日(月)	13:00~17:00	金剛の間(中西)	4 F
6月6日(月)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F
7月8日(金)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F
8月10日(水)	13:00~17:00	金剛の間(中西)	4 F
9月7日(水)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F
1011 11 (1)	同人総会 10:00~1	11:00 生駒	3 F
10月1日(土)	句 会 11:00~1	7:00 金剛(全室)	4 F
第28回 川柳塔まつり	懇 親 宴 17:00~2	20:00 葛城(全室)	3 F
11月7日(月)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F
12月7日(水)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3 F

第7回現代川柳の集い

島 蘭 幸

れる第7回現代川柳の集いは、新型コロナウイルス の感染が拡大している状況を鑑み、中止となりまし 岩手県の日本現代詩歌文学館で4年に一度開催さ

声も多くありました。 が聞きたい」「今年は出席する予定でした」という でなりません。 本現代詩歌文学館館長賞に新家完司川柳塔社理事長 令和元年 が選ばれていただけに、中止は残念 「完司さんの表彰式がみたい、 お話

の中から、最も優れた作品集を選んで顕彰する、

集い」開催年の前年までに刊行された川

柳句集

H

が出来ました。 集い」は中止になりましたが、事前投句4題の 名を加えた六名で大会賞の三賞を決めること 選句はすでに終えていましたので、当日題の

抱いているいつか壊れるものなのに 守田 啓子(青森

[第7回現代川柳の集い賞]

(一般社団法人全日本川柳協会賞) 挽歌弾く一本松のヴァイオリン

菊地 正宏

(岩手)

[岩手県川柳連盟賞]

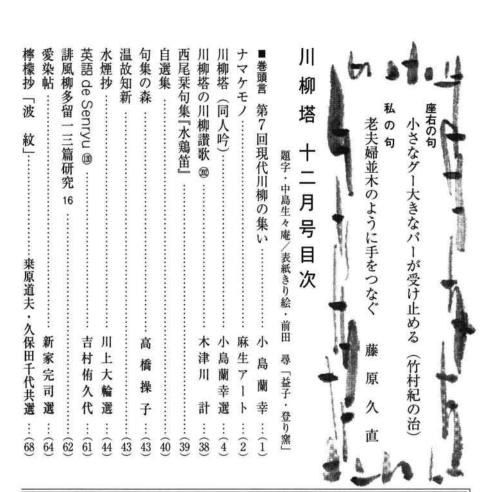
哀しみの海を分け合う慰霊祭

り楽しく選をすることが出来ました。4年後の第8 私は宿題「楽器」の選をしましたが、佳句が多くあ 回現代川柳の集いが、ますます楽しみになりまし 応募者は前回をはるかに上回る四五三名でした。 荻原 鹿声 (栃木)

新家完司『令和元年』より5句

津軽弁も出雲訛りもおともだち あの世にも桜並木があるように 古典的酒場で笠智衆になる 葡萄ひとふさ王さまのように食う 春風をふわり纏って飲みに出る

本川柳協会へ是非ご寄贈して下さい。よろしくお願 したら、 い致します。 最後にお願いがあります。川柳句集を上梓されま 日本現代詩歌文学館と、 一般社団法人全日



ナマケモノ

麻 生 アー

心を培ってくれたことも事実です。 なったことも確かであり、 のナマケ心を正当化させる恰好の口 イイ人生観のようでありますが、 逆らわない生き方、と言えば一応カッコ す。只、自然に流れてゆく人生、 てそんな生き方をして来たように思い リギリスで、 マケモノ。イソップものがたりでいうキ 動?でもないのでしょうが私は大変なナ 郎は大変努力の人でありました。 いきなり私ごとで恐縮ですが、 その事は亡き母葭乃によってなされ 生まれついてこの方徹底し 真に宗教的 反面私 実と ま

山を移す信仰に生きんかな サンデー晴五女はバイブル持って出る 水仙白く我をいましむ 信仰の寺は昼寝によいところ 交渉に邪魔な正直者を連れ(葭 乃) の 尚富を地に積まんとすもんじゅの炉 尚富を地に積まんとすもんじゅの炉 たキリスト教の教育でありました。

	深読みは止そう素直に握手する 大羽雄大		ひろびろと荒野のままであれ男 (新家 完司)	座右の句	■編集後記(ひとこと/栃尾奏子)朱夏・勝弘 …(20)	十二月各地句会案内(18)	柳界展望(16)	二〇二〇年度(令和二年度)川柳塔社総務部報告(15)	第3回 国民文化祭・わかやま2021 入選作品(14)	川柳句集『師弟』50句(13)	各地柳壇(佳句地十選/牧野芳光・松原寿子)(図)	せんりゅう飛行船⑫ 新 家 完 司 …(9)	水煙抄鑑賞 山 田 葉 子 …(8)	川柳塔鑑賞 山 野 寿 之 …(96)	インスピレーション・ナビ 印象吟 大 西 泰 世 …(94)	『麻生路郎読本』余滴 ® 乗 原 道 夫 ::(92)	第27回 川柳塔まつり誌上大会	初歩教室「短 い」 居谷真理子 …(74)	- 路隽(「ピクピク」 鴨谷瑠美子選 …(73)	
-	Charles of the last of the las	W 1		4																

み仏をハラハラさせて生きて来たわが坐すは弥陀の膝なり策無用

亡母や私の場合は先に宗教があって其て見ました。 て見ました。

私は思います。 きつく処から産まれて来た境地であると場合は、先ず川柳がある。その川柳の行処から句が産まれたのに対して、亡父の

||した。|

路郎の作品数句をごらん下さい。した

その日ぐらしも軒に雀がこぼるるよ君見たまへ菠稜草が伸びている子よ妻よばらばらになれば浄土なり

見渡すとユダのこころをみんな持ち凡聖一如元旦のこころ知る無常とや猫も錦魚も死んで見せ無常とや猫も錦魚も死んで見せ

楽しんで行きたいと思っています。ただきながら人生という「旅」を大いにいもの。私も皆さまのご指導ご鞭撻をいいずれにしても人生という「旅」は面白いずれにしても人生という「旅」は面白

川柳塔平成11年8月号 867号)

— 3 –



小

島

蘭

幸

選

永 井 松 柏

オンザロックの氷に座礁した野望 今治市

ポケットに不協和音を溜めている

過不足のない歯車として生きる 白頭になるまで熱い鉄を打つ

父の木に登り父の轍を追う 団塊が重い荷物になっている

豚饅は十時 ケーキは午後三時

大阪市

平

井

美智子

過食への道の途中の回り寿司

美辞麗句食べて苦味の残る舌

発泡酒片手に夢の話など 貧乏も肥満も自慢するナニワ

張り替えた障子に思い出せ初心 ブリ大根つついてお湯割りが美味い ゆっくりと明日を並べている夜更け 枚方市

年賀状という日本のごあいさつ

鈴虫が鏡の奥に棲みはじめ

部屋の灯を消して月など見ていよう

抽斗の胡桃いっそう頑なに 潮だまりから音楽を掬わんと 想像の円はいつでもたくましい 陸橋を渡る夕日の心意気

尾 奏

子

栃

我が家にもデビュー電動餅つき機

除夜の鐘日本明るくなりますか

幸せじゃないか二人で蕎麦を食う 大阪市

日が早い酢昆布食べながら

あれよあれよという間の人生だった

十中八九わたしはきっと生きてます

耳鳴りの耳を丁寧に拭いておく

分かりやすく言えば分かりにくい人 どうやら私が一番変わっているらしい

市

桒 原

道

夫

4

義

谷

П

会くまい行き着く場所は同じが コーヒーも生き方だってアメリカン 地争もバブルも知らぬ子等で良し 保護色の安らぎ保護色の孤独 枕元 赤鉛筆と同人誌 松江市 オムライスしたり顔して呼びにくる 逆らった代償肉体は丸い ジャンプして届かずレクサスが欲しい にいじおはよう老人の日のメール は増へ祝敬老のお饅頭 コオロギよ施設の姉は眠ったか 虫の音よ今日は指揮者が代わったか 雷にふるえる犬を抱いている 単籠りの鬱大谷がかっ飛ばし 内科歯科眼科明日は泌尿器科	と阪市
古 手 川 田 橋	髙
川田橋	杉
耕	
光 冶 山	カ
選政の選政に住むのもいいねノーマスクス十を過ぎたらアディショナルタイム足して2で割れば痛みも悲しみも白鵬が負ける楽しみもう見れぬ溢れる想いとても手紙に書き切れぬ千羽目の鶴は殊更丁寧に希ちゃんは昔太陽族だった常ちゃんは昔太陽族だったがちゃんは昔太陽族だったがちゃんは昔太陽族だったがちらでも無い脈が握る主導権であるしの言葉が重い鎮痛剤というな皮下脂肪があると死ぬこと覚悟せねば歳とちらでも無い脈が握る主導権であると死ぬこと覚悟せねば歳とちらでも無い脈が握る主導権であると死ぬこと覚悟せねば歳ときること死ぬこと覚悟せねば歳とある人へ書き足す遺言書を尊厳死も書きまだ死ねぬ間き直ってみれば人生こんなもの開き直ってみれば人生こんなもの	好き勝手できる独りの不幸せ こんな筈じゃなかった そんな事ばかり
尾村木	
み 紀 い の の さ り 治 お	

受け売りの話がウケて恥ずかしい 言いますが焦って老いた訳でない 悲しみの底でもお腹空く私 澄んだ川私の灰汁が流せない もう一年もう一年と彼岸花 カタカナを煮ても柔らかにはならぬ 事故を見て免許返納決意する 胃カメラは何度飲んでも慣れて来ず 横になるだけ心配は無用です 良い友でいたい良い事ひとつする 晩年という適当なしめくくり コーヒーはゆっくり余生急がない 秋風にまだ食べている冷やっこ つゆ草の中で遊んでいるひとり 名声も人の命も消えて露 分相応の幸せでいい かすみ草 夫婦でも日々の挨拶欠かさない チャンスまだあるかもひょいと手を上げる スマホ忘れ不便と同居する自由 謎解きは明日にしようかページ折る カフェインのいたずらでした午前二時 藤井寺市 豊中市 明石市 奈良県 谷 松 糀 JII 尾 谷 谷 瑠美子 美智代 和 郎 憲 灯が見える入院してる人の窓 掛け時計止まり三日目孫が来た 飛行機雲 草むしりできず楽しむ秋の草 大根おろしピリリと辛く暑い秋 シャキシャキと朝のリンゴの音も秋 母の胸非常階段ついてくる 平穏は母と並んで見た夕陽 幸せは暦をめくる日々がある 治ったら旅でも行こうねえあなた ときどきは縒れて絆を深くする 何もない所で転けて歳という 丸洗いしたい地球よ脳みそよ 自己主張それぞれ違う彩を織る ゆったりとまあるく話す声美人 真っ当に生きる水にも味がある 締め括るその一言がまだ出ない 先短い人生ならば笑おうぞ 列島のインフラの老い根は深い デジタルが暮らしに入り込み困る ノーベル賞好奇心持てとの至言 午後四時半の定期便 和歌山市 西宮市 岡山県 藤 Ŀ 亀 岡 澤 田 哲 照 紀

代

子

子

マスクして無害央画の中に主き東京都川本真理子	子	犬山市	関	本	かつ子
マスクして無ち央画の中に主き					7
こうかし 新戸田田の中心を	目の前の柿も取らない通学路	路			
レシピ通り作る娘の横顔を見る	感染数減ってメールが忙しい	V			
一週間分の寿命をまとめ買い	駆けつける距離に子供がいる安堵	る安堵			
ビル街の神様いつも急ぎ足	あの時は二十ね遠い日の五輪	輪			
富士山の雪化粧 冬への覚悟	県名で競う新米特売日				
八王子市 川 名 洋	子	愛知県	早	Ш	遡行
宝物心許せる友一人	病む妻を置いては行けぬ旅ごころ	ごころ			
県境を恐る恐ると越している	飢餓の子を思えばできぬ食べ残し	べ残し			
だとしても八十路の意地を出し生きる	逆走をしても懲りない免許証	証			
在るがまま在るがままでと呪文かけ	ちょっと待てばみな半額になるものを	なるものを			
明日の為ウォーキングとスクワット	靴履いてからあれが無いこれが無い	れが無い			
名古屋市 山 本 三樹夫	夫	富山市・	島		ひかる
朝風呂で体を清め医者へ行く	気が付いた母は私のことだった	った			
神様にまだ逝かないと告げておく	セピア色の五輪写真を見て飽きず	飽きず			
鈴虫の音色が誘う衣替え	愚痴としか聞けぬ夫の情けなさ	なさ			
モーニング錠剤までがセットされ	好物が出ると豪勢だと奇声				
価格上げ選挙の後に回してこ	有り難さ解って欲しいプチ家出	家出			
犬山市 金 子 美千代	代	可児市 .	板.	Щ	まみ子
一日が早い何にもしてないが	十月も暑さに困る温暖化				
やるせない夫とダブル義弟の死	自粛して今日も似たよな煮ころがし	ごろがし			
孤独死でもいいポックリと逝けるなら	第六波来ないのならば露天風呂	風呂			
つまらないなあ郵便のない土日	目に見えぬ寄る年波と向かい合う	い合う			
ワクチン二回ついつい油断するマスク	ガチャという言葉の意味をやっと知る	やっと知る			

シャッター街夢はシックな店並ぶ 旅先で受ける訃報のもどかしく 奈良市 宇 賀 史 郎 落とし物マスクが増えた散歩道 ご近所をリハビリ散歩ご同病 进 内 げんえい

ピンポーン鳴れば姿勢がシャンとする 密を避け土日行き先思案する

あんな人いたな思い出風化止む

空白の日記に綴じているコロナ 無意識にあそこの隅やここの棚

奈良市

大久保 眞 看板に釣られて行けば密の店

澄 聞くよ聞く肩がかーるくなるんなら Щ 本

代

収穫をジャンケンポンで分けている 遊ぼうと発破をかけに来るやんちゃ

湯をさせば出来る一品ありがたし 切り花の香りに病床が和む

名月を愛でる二人の手にスマホ

傷心へ父は無言で注いでくれ

三密ルール守り続けて認知症

ぐるぐるり夏の疲れと鬼ごっこ

秋の森 威風堂堂もらう活 コスモスに本気を出せと突っつかれ

気が付けば老化がぴたりへばりつく

奈良市

*

田

恭

昌

— 10 —

キャンパスをコミック闊歩して平和 レトルト料理並べ侘しい一人膳

空っぽの心に沁みるアドバイス はしゃぐ心見えない釘に刺されてる

夫はビール私はミルクごくごくと

飼い猫が行儀良くなる食事前 人恋し秋風のせいにしておく 声挙げて言い訳したい時もある 曲者はアラ久しぶり立ち話 縦ジワが2本怒っている眉間 頬骨の形で日焼けするマスク 塩辛い唇なめているマスク

奈良市

加

江里子

敬

橋

奈良市

髙

御堂筋銀杏並木のあってこそ

芋の香も知らずに落ち葉ゴミにされ

まるで恋秋刀魚気になるマーケット 外国より安全だった宇宙旅

子

規制緩和外のビールの美味いこと

朝顔のえくぼ私の邪が消える

ふりこ

生駒市

飛

永

十二月片手拝みで鳥居抜け御開帳汚染社会の風を吸い釈迦よりも人気が高い子規の句碑	いつか来た道で迷っている夕焼け刻み葱買わねばならぬ指の怪我 奈良県 中 原 比呂志	V願うワッペン貼ったトラキチ車ワクチンを拒み一体何を待つ見舞えずに亡くした友に目を閉じる生きているだけの幸せ限りある	会員県安福和夫 とかれ早かれ認知症とか痴呆とか をうですかやっぱりそういうことですか そうですかやっぱりそういうことですか	安 土 理	香芝市 山 下 純 子
明らかに嫉妬だったと思う目だ頭ってこんなに重いのか首よ(筋力低下の雌病)、	イモ虫にパセリ取られてまた植える差し上げるために炊いてる栗おこわ 和歌山市 柏 原 夕 胡	過去は過去まっさらな夢抱いている 立き父母がにっこり雲に乗っている あれそれの話で笑い合う夫婦	新を出す唯それだけで助け舟 知らぬふりこれもやさしい助け方 もうとまだ八十歳の心意気 精一杯生きた背中を子に残す	谷 川 崇	奈良県 中 堀 優

のびやかに衰えるよう本を読む一日に一度はお肉少し食べ一日に一度はお肉少し食べ二人して黙って栗をむいている	雑踏に紛れる前にするマスク	蘇るドラマが胸を熱くする黄金に波うつ稲穂胸を張る耳を澄ませば花の吐息がきこえそう	和歌山市松原寿	バッグ 古久保 和歌山市 古久保 和	急ぐまい残り物には福と言う気忙しい世情気遣い無用です転んだら両手突っぱり立ち上がれ転んだら両手突っぱり立ち上がれま前にはお前の行く道帰る道 田 准
	雪		子	子	-
書き上げて気持の整理つけているきんもくせい風のつぶやき運んでる若く見えても後姿は正直で若く見えても後姿は正直で選ばれた後の態度も見ています	傘寿の夫婦互い忖度今じゃ死語	ワクチン接種コロナと共に命がけマスク越し目が語りすぎひるみます楽的出ず笑うしかない顔見知り	ボリープがくびり殺され愉快なり体重計血圧計に見張られて	脳ミソを苦返らせる去なきや 教老の日に身を置いて忸怩たり 敬老の日に身を置いて忸怩たり 京都市	節制し持病に勝った笑い皺を上ノクロの写真が語る爆心地を丸くした。一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、
	Щ		藤	清	石
	田		井	水	田
	葉		文	英	隆
	子		代	旺	彦

孝 純 内

病経て食事メニューに妻の知恵

言い訳はとうに忘れた秋の蝶 大阪市 石 田

淋しけりゃこの指とまれ赤とんぼ 満月と夜更かしをして酒五合

うろこ雲の助手席に乗り秋うらら

秋拾うどんぐり一つ夢二つ

天国行き切符求めて日日行脚

大阪市

島

福貴子

十月に真夏日これも温暖化

答が出ないモヤモヤみんなコロナの所為

エンディングノート遅遅と進まず先延ばし

八十路来てもう走れない競えない 大阪市

岩

崎

公

誠

何であれ緊急事態は解除され

黙食にルールはなくてただ食べる

歩くこと生きる力と励む日々

せっかくのおすそ分けだが堅すぎる

あの頃は美人だったと妻自慢

サークルが始まり出した嬉しいわ 大阪市

岩

﨑

玲

子

贅沢は県をまたいだ景色見る 噂ひとつマスクのおかげ広がらず

女です最期の写真選ってます 流れ星見ていて欲しいあの人も

> 銃をもつ国多すぎて酸性雨 一病が二病になって老いを知る

大落暉あすの安穏願います

大阪市

字

都

満知子

私の命の立ち位置を思う

発表会でした七十路のピアノ

たくさん弾いてすこうし弾けたピアノ

わっと咲く春の球根仕込みます

久し振りですねと主治医が笑顔で

便利ですとなり病院とスーパー 終章で銀髪だけを褒められる

コロナ禍でどなたさまにも義理を欠く

解除日に居酒屋に行くアホですわ

無策だな医療難民つくる国

秋風と共に政府も衣替え

大阪市

榎

本

三百万取られたと聞き絶句する コロナ禍滅少続き活気付く

秋夜長締切り迫る五七五 ノーベル賞野球ドラフト晴れやかに

メトロ線孫につきあい5往復

田

— 13

大阪市

江島谷

勝

弘

あの時のまたねが最後十回忌 権卵斑かくすマスクが好きになり 手間暇かけて待っているのも味の内	大阪市 田 中 ゆこ人して記念の食事この至福を取して夜もよく寝る高齢者を見して夜もよく寝る高齢者を取りためのでである。 一人して記念の食事にの至福をがます	大阪市 田 中 廣平均寿命過ぎて離さぬ歩数計 大阪市 田 中 廣平均寿命過ぎて離さぬ歩数計 国会中継マスクばかりが目立ち過ぎ	大阪市 高 杉 千 カード 大阪市 高 杉 千 カード・ 大阪市 本 大阪市 恵 杉 千 カード・ 大阪市 大阪市 坂 本 大阪市 本 大阪市 坂 裕 大阪市 坂 本 大阪市 坂 裕 大阪市 坂 本 大阪市 恵 杉 千 大阪市 高 杉 千 大阪市 海 大阪市
	ゆ み 子	子	步之
秋めいて離れた子等をよく思う ・サッチンは今日のわたしがまんまでる 難民に見え小さい頃の写真 メダルには届かぬ人へする拍手	点々と悔いを残して生きている赤い服背筋伸ばせばまだ着れる赤い服背筋伸ばせばまだ着れる赤い服背筋伸ばせばまだ着れる	大阪市が高い、大阪市が高いが、大阪市が高いが、大阪市が高いが、大阪市が高いが、大阪市が高いが、大阪市が高いが、大阪市が高いが、大阪市が高いが、大阪市が、大阪市が、大阪市が、大阪市が、大阪市が、大阪市が、大阪市が、大阪市	大阪市
	原	中	寺 津
	田	井	本村
	す み 子	萠	志 華 実

いトンネル明かり見え	大阪市
	平
	賀
	国
	和
なんで罰神棚掃除ころげ落ち	

積ん読も無駄でなかった閉じ籠もり コロナ禍の長い

親ガチャ」など言わせぬ公助あって欲し

難民の長い行列胸痛む

和の心と文殊の知恵が要る日本

子の世界できて入れぬママ孤独 いらん事言うて余計に仕事増え

友達が出来て楽しくなった塾 遊びなら上手く教えられるのにな 親子やな朝の体温まで同じ

赤ちゃんの泣き声聞きたい老人ホーム

大阪市

宮

﨑

シマ子

淋しくなってきたら大きい声でうたう 紙一枚節約をして溜めたのに

赤とんぽ昨日と同じ道をくる バンザイだ柳友からの小包だ

大阪市

Ш

本

加お里

ほどほどに生きてきました傘寿まで 草刈りでぽっくり逝った九十三 楽しまん生老病死するまでは

よく伸びる爪を切りつつ演歌聞く

つだけ大きな儀式待っている

弘

大阪市

美

自粛解け心の霧も晴れてくる

若

本

鵙が来たコロナなんかに負けるなと

マディソン郡の橋君となら渡る

秋深し隣の猫の恋狂い 晩学に身の程知るも明日信じ

はや寒に 去年は何を着たかしら 元気な内動ける内と日々思う

肝心な話忘れた長電話 童謡が静かに脳をリフレッシュ

言い聞かす今が一番若いんだ

子等の前頑張りすぎず老い受ける

うんざりすまい今がこの世の正念場 マスク越しでもみんなの笑顔すぐわかる

友からの逢えないままに栗届く

堺

市

柿

花

和

夫

泉下での再会期して友送る

園児らのバスに手を振る車椅子 だれにでも秋波を送る薄の穂 倶会一処八十路の坂をどっこいしょ

風待ちの港で結ばれた二人

大阪市

横 Ш 里

子

— 16 —

市

井

万紗子

ハザードマップトイレの壁に張っている黙食という拷問に耐えている家ごもりアンネの日記よみかえす死を賭して反戦さけぶ時はいまメビウスの帯に迷ってからの縁メビウスの帯に	堺	腹凹み切り良くなった足の爪捨て置いたパンツが履けるようになり	目標は体重一割減らすことひもじさは最初の十日あと平気	痩せたくて一日二食ダイエット	堺	大臣の顔ぶれどこか冷めている	災害に弱い日本こんなにも	元気だよテレビ電話は有り難い 	家の中せかせか歩く癖がある	父さんの笑顔こぼれる平和な日	堺	丑年もこれが最後の年女	早や師走 賀状年玉準備する	孫に説くお祝返し半返し	関わりが嫌で独立独歩です	噂話言った言わぬで揉めている	均
いる	市	ŋ			市						市						市
	澤				坂.						齋						源
	井				上			*)			藤						田
	敏				淳						さくら						八千代
	治				司						5						代
ナイトスクープ大笑いする君の影もしかして空でうたた寝風邪ひくよもしかして空でうたた寝風邪ひくよ	河内長野市	生きるっていいな三世帯の食事終焉まで華でありたく辞書を繰る	納得はしたが燻る老いの意地腹割って話す相手は仏さま	やっと秋銀杏並木が笑いかけ	貝塚市	亡夫からもらった指輪みなガラス	徘徊を犬が家まで連れ戻す	千片のジグソーパズル妻の留守	残高とがっぷり四つの余命表	お茶席を終えて一息モカの味	池田市	下積みの長さが光るほんまもん	朝ドラの中に青春重ねみる	明日はわが身か環境破壊からのツケ	次の日にふわっと名前思い出す	ご無沙汰のすき間を埋める大ジョッキ	堺市
	河内長野市 大	生きるっていいな三世帯の食事終焉まで華でありたく辞書を繰る	納得はしたが燻る老いの意地腹割って話す相手は仏さま	やっと秋銀杏並木が笑いかけ	貝塚市 石	亡夫からもらった指輪みなガラス	徘徊を犬が家まで連れ戻す	千片のジグソーパズル妻の留守	残高とがっぷり四つの余命表	お茶席を終えて一息モカの味	池田市 太	下積みの長さが光るほんまもん	朝ドラの中に青春重ねみる	明日はわが身か環境破壊からのツケ	次の日にふわっと名前思い出す	ご無沙汰のすき間を埋める大ジョッキ	
	長野市	生きるっていいな三世帯の食事終焉まで華でありたく辞書を繰る	納得はしたが燻る老いの意地腹割って話す相手は仏さま	やっと秋銀杏並木が笑いかけ		亡夫からもらった指輪みなガラス	徘徊を犬が家まで連れ戻す	千片のジグソーパズル妻の留守	残高とがっぷり四つの余命表	お茶席を終えて一息モカの味		下積みの長さが光るほんまもん	朝ドラの中に青春重ねみる	明日はわが身か環境破壊からのツケ	次の日にふわっと名前思い出す	ご無沙汰のすき間を埋める大ジョッキ	市
	長野市 大	生きるっていいな三世帯の食事終焉まで華でありたく辞書を繰る	納得はしたが燻る老いの意地腹割って話す相手は仏さま	やっと秋銀杏並木が笑いかけ	石	亡夫からもらった指輪みなガラス	徘徊を犬が家まで連れ戻す	千片のジグソーパズル妻の留守	残高とがっぷり四つの余命表	お茶席を終えて一息モカの味	太	下積みの長さが光るほんまもん	朝ドラの中に青春重ねみる	明日はわが身か環境破壊からのツケ	次の日にふわっと名前思い出す	ご無沙汰のすき間を埋める大ジョッキ	市内

アスファルトの路地に微かな虫の声	悲しみの家に読経の声今朝も	連日の訃報に生を顧みる	河原すすき昔の歌が恋しかろ	豊作を願う真っ赤な彼岸花	高槻市 島	磨り減ったのだろうか背が低くなる	お久しぶりと話が弾むナマ句会	完璧は無理だと悟り楽になる	笑顔でいたら損はしないと言う古老	人を笑顔にさせる名人です赤児	高槻市 片	どうしよう魂の声聞こえない	コロナ禍の恋ってまるで蜃気楼	出口ないコロナに夢も枯れてゆく	今の世は聞く耳持たぬ人ばかり	人生の森で学んだ生きる道	岸和田市 雪	汗流す他にいい手はないだろう	スマホなし同情までもしてくれる	予定表たったひとつを温める	西の空誰の演出なんだろう	輪をぬけてやっと私をとり戻す	岸和田市 岩
					田						Щ						本						佐
					千鶴子						かずお						珠						ダン吉
					马						お						子						吉
宣言解除油断が無いか自己チェック	第6波考え過ぎと笑えたら	巣ごもりの合間合間に散歩する	勝って飲み負け引き分けも飲んでます	渡された買物メモにハートの絵	高槻市 松	断捨離をしても懲りないパック買い	年寄りが立ち年寄りに席譲る	スマホから喜怒哀楽をもらい受け	脱炭素ライフスタイル変えなけりゃ	マスク越し真意届かぬもどかしさ	高槻市 原	選挙して中身どれだけ変るやら	老いの耳わかった顔し笑っとく	愛嬌よりしたたか大事今の世は	エプロンを着けるとすぐに主婦の顔	目を閉じる明日の夢を見たいから	高槻市 富	秋日和孫に教える蕎麦の花	その話ゆうべも言うてましたやろ	不要不急の用事もわりにあるもんだ	棚づくりだけでも汗だくの夏日	ベランダのすだれ外せぬままに秋	高槻市 初
											水												
					岡						***						田						代一
					06924						洋						保						E
					篤						志						子						彦

地球の裏側の人とラインつながってるリアル 猛省をしても消せぬ小山田さんの過去 針仕事こんな楽しいことはない 多分コロナ6波のきざし大都会 朝起きて痛いとこなし今日は晴れ 喋りたいかけ放題にしたスマホ 核のゴミどこに捨てるの再稼働 また新語大豊作の流行語 お浄土も秋はこれから見頃かな 兄弟にモネとピカソの違い見る 恐くない鬼の絵を描く甘えん坊 手土産にどんぐり持って来る五歳 膝に乗る猫と時間を愛おしむ 孫達に振り回されて過ぎて行く よくもまあ老人ばかり昼のバス 両手広げて朝の空気を存分に 老いてなお趣味が多くて飛び回る 走る事もだんだん減って老いを知る 口許もきっと美人に違いない 豊中市 豊中市 高槻市 一市市 池 安 Ŀ. きとう 出 H 田 こみつ 忠 純 修 子 子 巣ごもりが続き足腰弱るのみ 級友の名が急に出なくてドッキリす検診結果もらう私の銅メダル 亡夫は煙草全く吸わぬ人だった 定年でほっとしたのか五月病 チャンスですラストダンスに誘われて 悲喜劇を演じる神のシナリオで これからを自分一人の色で咲く なんとしよう枯れる脳みそ磨かねば 今日もまた賞味期限に急かされる 周平を読む病院の待ち時間 ザクロ割れ地球のどこか爆ぜている ふる里の夕日を偲ぶ富有柿 公園のベンチが温い澄んだ秋 粗大ゴミと言わせるものかこの余生 ふと聞いた妻の寝言に目も冴える 争いを避けると呆けも忍び寄り センスある人ほど見せぬ選り好み 人では人にはなれず手を繋ぐ 富田林市 田林市 豊中市 豊中市 中 片 水 村 岡 井 野 智恵子 黒 則 惠 兎 彦

現地人の顔に似てきた特派員

存分に泣かせてくれる星月夜

覗いたらほんの近くにある地獄で手くそが皆を笑顔にする手品で手くそが皆を笑顔にする手品をおぼろ誰が逝ったか生きてるか	羽曳野市 吉 村	レモンの香ただよう夏の地下トイレーニ回も洗ったマスクつけている 羽曳野市 三 好 ・	野市 徳 原 山
	久 仁 雄	専平	大 み つ こ
この坂はあの世につづく予感する文化とは人と自然のおつきあい巣籠りの運動不足腹が出たリコート禍で世界が認知マスクですコーナ禍の何と不自由民主主義コロナ禍の何と不自由民主主義	大七音字知らない言葉多すぎる 女穏へまことしやかな嘘が要る 変着が重く動けず難破船	趣味などに翻弄されて店屋物 東大阪市 西宣言解除コロナの脱却は近い 東大阪市 西宮言解除コロナの脱却は近い	東京五輪見た万博もきっと見る ハイビスカス太陽まっすぐ浴びて咲く いんだスカス太陽まっすぐ浴びて咲く 少し足延ばして鹿に会いに行く 咲き終えた花ありがとうねと礼を言う 味っは空青いだけでしあわせ 東大阪市 佐々木 ミスをした選手を称え合うチーム 東京からパリへ聖火よありがとう
		村	
	英也	村 哲 夫	木 村 満 賢 作 子

焼夷弾煙霧の隙を見て逃げる	剣道具朝夕担ぐ田舎みち	憲兵の凜々しさと遇う顎の紐	
			枚方市
			丹後屋
			肇
また一つ齢重ねた白い萩	子育ての仕上げにとってあるプラン	六十億の中から選ばれたらしい	藤井寺市 太 田 扶美代

花の図鑑展げて熱い目のコーヒ

夢の猪突でんぐり返り繰りかえす 枚方市

田

武

天皇ラジオ宣戦布告と勘違い

気が安らいだ小雨の中の墓参

藤井寺市

田

ウメ地下で作るアリバイきび団子

余裕など忘れダッシュの発車ベル

青空を蹴っても良いの逆上がり

空白の日がある妻の日記帳 昼からの活力愛のお弁当

良質な睡眠眠いときには寝てしまう

大きな地震台風今年は無く不気味

感染したときの対処ノートに書きとめる 後期高齢七十五歳からでは早い 台湾の有事そのとき日本どう動く

小さきは愛らしき顔孫の所作

枚方市

Ш

弘委智

幸せの形いろいろ猶予中

感染の日々のグラフに策を練る

新米届く手植え手刈りの塩むすび 熱燗でコロナを語る地下酒場

村

若者が接種を受けるありがたさ

人に会うマスクの下も化粧して

新聞は地元感染一に見る

真夜中に句をひねってる一人者 ドッコイショ起き上がるのも一仕事

亜

枚方市

成

デザインより使い勝手を選ぶ今

場がよめず浮いてしまって一人ぼち 世間の波かき分け渡る母子家庭

天高く秋を見つけに出掛けよう 夫婦して補い合って恙なし

月イチで恋しています柳誌の句 魔女は黒ナースは白の絵画展 女です朝の化粧でやる気だす

昼の月ステイホームの秘密主義 サロンパス背に貼る人を募集中

箕面市 酒 井 紀

- 23

箕面市

大

浦

初

ギックリ腰初めてなって知る痛み 激痛で起きれずつたい歩きする 箕面市 出 セッ子 やり直しきかぬ一生一日も 寝たきりも数に入って長寿国 何処がどう悪くないのに出ぬ根気

大阪府

*

澤

俶

子

長男が医者へ送迎してくれる 少し良くなると動いてぶり返す 家事できぬ私へ夫冷ややかに

子らの声戻り公園活気づく

箕面市 広

島 巴

もしかして平均寿命百歳に 二年越し友と再会声弾む

栗の実がはぜてスイーツフルコース 自粛明けパッと五感を解き放つ

グーチョキパー心の内を読まれてる

八尾市

寺

Ш

はじむ

一杯になると野心が冷めていく

心のスキをやんわり埋める聞き上手 生傷を一杯抱いている若気 雲掴む話を提げて孫が来る

音もなく降り夜中目がさめる

八尾市

村

上

ミツ子

落ち着いたらごはん行こ ハイいつですか 固定デンワのベルがなる友からの電話

半分のキャベツを買って友と分け

カタカナとひらがな仲よくいきている

子 生きるのが趣味になったと友が言う

パラリンピック感動貰い勇気貰い お守りに諭吉一枚入れてある

空腹感ないが三食たべている 麺をとろとろ薄味にしてひとり昼

独り善がり遠廻りした長い道

幸せはこんなものよと柿が生る

そんなこと余命五年という命

君の声紅葉の山で聞いている しゃべるってことの大事さ思いつつ

老いのグチ同じ話で今日も無事 面白い人言われて努力何するの

迷惑かけずあと少し生き席ゆずる パラリンピック弱者の足に活を入れ アハハ大口たたきはテレビ前ひとり

百態の雲の間に間にちちとはは 辻褄の合わぬ答えも笑えない

神戸市 Ŀ 田 和

宏

澤 洋次郎

神戸市

奥

弘

神戸市

水

神戸市	近	藤	勝	Œ	神戸市 能勢 利子
プライドは少し残して生きている					閃いた句忘れないようウォーキング
プライドと老いの命を細々と					羨ましい娘と暮らす百一歳
いい夢にまたまた妻がしゃしゃり出る					私のためにショートステイに行くらしい
妻不在2日で耳が寂しがる					シルバーの元気な町はあたたかい
首位譲り正気に返るタイガース					六波など来ないだろうと予感する
神戸市	斎	藤	隆	浩	神戸市 松 倉 正 美
こつこつと貯めてどーんと使う妻					家と墓仕舞った後の空虚感
百歳までワクチン打って生きてやる					世間口に耐えてめでたくご成婚
歯ぎしりも寝言も生きている証拠					粗大ゴミ日本の海に捨てにくる
おばちゃんの味付けみんな目分量					つむじ風ビルの谷間でマスク舞う
たまにある副作用より免疫力					事故多発歩きスマホと出前便
神戸市	敏	森	廣	光	神戸市 山 口 光 久
カレンダーめくり忘れも気付かぬ日					裏表がない人柄に惚れました
固定電話セールスマンの音で鳴る					何事もなかったように紅を引く
食欲と読書が紡ぐ僕の秋					点滴の力を借りて元気出す
句会はいつ会いたい人がたんといる					図に乗っていると梯子を外される
優しく言うとやさしく返る妻の声					有頂天になると周りが見えにくい
神戸市	富	永	恭	子	神戸市 山 口 美 穂
雨の日の砂場でおもちゃ濡れたまま					秋彼岸忘れずに咲く曼珠沙華
的となる覚悟で咲いているカンナ					ふるさとの柿の素朴な味を賞で
雑念を抱いて充電切れになる					十月某日おせち予約の〆切と
信じきり親を見上げる子の可憐					探し物見つけて安堵床に入る
誠実さ仇にならねばいいけれど					焼芋もぐもぐお喋りつきぬ老姉妹

自動運転まで返納せずに頑張ろうやりたいな半額シール貼る仕事大皿の唐揚げ最後ひょいと取る 次でっすりと眠れるという自慢する にゅっすりと眠れるという自慢する	I	きめてくる 巻めてくる	近	神戸市 山 は
奈和		紀	兼敦	﨑武
子		惠		
			子 三世代確 神の手が	彦
母音輪の乗	イら節くな	をでけに上	と仕すど緒	
九十の伯母の葬儀は賑やかだ騎馬戦で音楽なると血が騒ぐ真珠の首輪少し小さくなって来たすなるとのが騒ぐの人では乗れぬブランコ孫と乗る一人では乗れぬブランコ孫と乗る	太陽のサインで決める秋の服止まったらリズムを崩すから歩く衣替え季節の気まま許せない好奇心たくさん持って年取らずが	では、 できると変わる政見信じない でランダでおむすび囲み月見酒 どこだっけちょっとここにと置い、 でランダでおむすび囲み月見酒 であるのと変わる政見信じない。 であるのではない。 では、 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 では、 ではない。 では、 ではない。 では、 ではない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 として。 として。 として。 として。 として。 として。 として。 として。	に 三世代確と見てきた鬼瓦 出逢いなどとてもできない自粛中 出逢いなどとてもできない自粛中 出逢いなどとてもできない自粛中	尼峽
九十の伯母の葬儀は賑やかだ 騎馬戦で音楽なると血が騒ぐ 真珠の首輪少し小さくなって来た 真なると血が騒ぐ 一人では乗れぬブランコ孫と乗る	インで決める秋の服節の気まま許せない節の気まま許せないがら歩く	と変わる政見信じないと変わる政見信じないとここにと置いた鍵にソロ活するもまた楽し	三世代確と見てきた鬼瓦田・一様に入る露天風呂出逢いなどとてもできない自粛中出逢いなどとてもできない自粛中出後のなどとてもできない自粛中には、	尼崎市
世の葬儀は賑やかだ 輪少し小さくなって来た 輪少し小さくなって来た で で で で で で で で で の で の が し の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の の の の の の の の の の の の		と変わる政見信じないと変わる政見信じないとのようとここにと置いた鍵にソロ活するもまた楽しにおむすび囲み月見酒	リが自アあ粛	尼崎市 藤
る崎市	ı	崎市 辞	リア P R e 市 ボある	
る 市	I I	崎市 鍵 藤	リアージがある。	藤

手の動き誰と書いたかわかるらし 総裁選派閥の力隠然と 忘れ物十九の春にとりに行く 春秋の好季節ない国になる 板楽は妻と終活マイホーム よく喋る障子張り替え業者さん ノーベル賞愛媛生まれのアメリカ人 何故減るかそれも心配コロナ様 しきたりの逆らわずして日を送る 胃が痛む返信メール待ちこがれ たえ性の疲れを癒やす至福の湯 逆らわず取り巻き連の罪深さ こ田市 をの顔ひとりひとりに恩がある 愛されてみようか母の深さまで 夫の忌天の鏡へ合歓の花	総式選送票首の登記さら 加西市 山
角立口	端端
優 つ 不 な 子 動	なつみ
アドバイス忘れたわけじゃないけれど でらざらになってハートは泣いている 何もかも難しくするそのトーン 真実は心の奥のその奥の 亡き妻の愛しさが増す秋の夜 娘では逝った女房に敵わない 誰彼の優しさ受けて生かされる 飲み会もなくて寂しいひとり酒 共白髪誓った妻は先に逝き 三田市 自粛解除老いの暮らしによい日和 誕生日いくつになったか聞くスマホ 空は青くすみ渡る無事退院す チャイム鳴るふるさとからの見舞い便 新米の栗ごはんです仏様 同時の世も宗教戦争絶えません 何時の世も宗教戦争絶えません 何時の世も宗教戦争絶えません 可立をするのは無理と言う総理 身の丈に合った生活できる歳	こしな寺キッチンことつ仏で十三田市上
村 崎 西 義 一 重	田
	ひとみ

知らぬ間に住んでいました恋心母の歳越えた寿命に感謝する母の歳越えた寿命に感謝する会話したきょうの人数猫も足す	三田市 中 山	付き添いは一家総出の宮参りとりあえずバケツに入れておく金魚リハビリの汗に復帰の夢がある水柱にされてしまった薔薇の鬱	治三田市谷口	百歳が元気過ぎます長寿国コロナ禍で不急とされた墓参りオール5の優等生も今無職無観客なら節減出来た総工費	今は亡き兄と競った攻め将棋 三田市 多 田舎部屋に必ず孫の手置いてある	栗料理手間暇かけて喜ばれ猿まわしの猿はダメです新総理ノーベル賞真鍋博士は同県人	三田市 住 吉
	昭美		修 平		雅尚		美和子
水やりもコロナ太りの予防策人し振りほんのり甘い栗おこわりほんのり甘い栗おこわり振りほんのり甘い栗おこわりないが		命虫の発するコロナ注意報が耳漫才並みのボケ演じない耳漫才並みのボケ演じ	月旅行白寿祝に所望する	昭和には銀座があった田舎街郵便局大忙しの月曜日解除へと散髪したし靴買った		ライバルに道を譲ったお人好し我慢強い緋蟻だ塩をなめている守り札と一分銀出る墓仕舞	三田市
	松		村		堀		野
	尾		田				П
	柳右子		博		正 和		真桜子

気の弱さ八十路へ来ても治らない	オリパラへ事故なく終わり大仕事	惜しみなくパラアスリートへVサイン	眞子さまと彼の未来を月見てる	それぞれの立場で生きる難しさ	丹波篠山市 藤 井 美智子	無名やがあんたの命光ってた	長生きはしそう一病持っている	息切れはしても気合いがフォローする	岸田さん新自由主義やめるとか	週刊誌ヒト科百態載せている	丹波篠山市 酒 井 健	ご先祖に相談したい事が増え	まだ酒がいけるあしたも陽が昇る	梅干しを一つふくんで野良に出る	移り行く四季にときめき生きている	旅先でやはり目に付く転作田	丹波篠山市 北 澤 稠	顔も見ず声も聞かずに名も忘れ	気持だけ走り脚腰座り込む	非常時の持ち出しとても持ちきれぬ	足らぬもの有って人生楽しめる	折り返し点無くて人生一直線	宝塚市 丸 山 孔
					子						=						民						_
コロナ風シャッ	見るものの少	下手ですがグ	年齢に負けて	目覚めよく		選挙戦本音	揚げ足を取	天災のレベ	蜩のあの京	過去よりも		頬なでる	ふわふわ	柔らかい	ウィズコ	汗と泥まれ		芋づるを炊	友達のよう	一抹の淋し	雀達自粛の	人生はママ	
コロナ風シャッター街に止め刺し	見るものの少ないテレビ距離を置き	下手ですがグランドゴルフいい仲間	年齢に負けてませんよ生きる欲	目覚めよく今日も健康歯を磨く	南あわじ市 萩	選挙戦本音を消して綺麗事	揚げ足を取り満足の野党陣	天災のレベルが上がる温暖化	蜩のあの哀愁も秋なれば	過去よりも未来話にシフトする	西宮市 福	頬なでる心地いい風曼珠沙華	ふわふわのオムレツ挑戦中二孫	柔らかい物腰人を引き寄せる	ウィズコロナ覚悟の余生空の青	汗と泥まみれ笑顔のボランティア	西宮市 福	芋づるを炊いて平和を祈ります	友達のようにはいかぬ老夫婦	抹の淋しさ車のない車庫	雀達自粛の庭にきて遊べ	人生はママチャリバックできません	西宮市緒
/ ター街に止め刺し	ないテレビ距離を置き	/ランドゴルフいい仲間	てませんよ生きる欲	今日も健康歯を磨く	萩原	を消して綺麗事	り満足の野党陣	、ルが上がる温暖化	 数も秋なれば	0未来話にシフトする	福田	心地いい風曼珠沙華	のオムレツ挑戦中二孫	物腰人を引き寄せる	ロナ覚悟の余生空の青	みれ笑顔のボランティア	福島	いて平和を祈ります	にはいかぬ老夫婦	さ車のない車庫	庭にきて遊べ	チャリバックできません	緒方
/ ター街に止め刺し	ないテレビ距離を置き	/ランドゴルフいい仲間	てませんよ生きる欲	今日も健康歯を磨く	萩	を消して綺麗事	り満足の野党陣	、ルが上がる温暖化	数も秋なれば	0未来話にシフトする	福	心地いい風曼珠沙華	のオムレツ挑戦中二孫	物腰人を引き寄せる	ロナ覚悟の余生空の青	みれ笑顔のボランティア	福	いて平和を祈ります	にはいかぬ老夫婦	さ車のない車庫	庭にきて遊べ	チャリバックできません	緒

迷っても私の道は前にある	手に取って迷う幸せ花の苗	開けられぬ扉はないと日々努力	私の顔妻母祖母とまるくなる	岡山市 前	夕焼けをずっと見つめていると 母	パンパカパンと曼珠沙華咲き揃う	ゴミ出しの大役こなしウォーキング	オリーブのTシャツを着て 俺ポパイ	コスモスが咲いているから秋ですね	岡山市 丹	箸先に雨が降ったりして秋に	午後の駅病名ひとつまた増える	日溜りでいたいが雨がまだ続く	サービスで貰ったサルビア枯れません	カルテ増え布団湿っってきたみたい	岡山市 工	居心地悪く新幹線に乗っている	コロナ禍のアフターの世を見れるかな	見計らいマスクはずして息を吸う	サプライズ花火緊急事態解除	空いっぱい鱗雲炎暑をはらう	岡山市 大
				田						下						藤						石
				恵美子						凱						千代子						洋
				天子						夫						子						子
ありがたや雨がマイカー丸洗い	我が身より天気気になる十年後	休憩の椅子がうれしいモール街	フリーター呼び名はいいが不安定	なな、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	お御輿も神楽も出ないコロナ年	愛情は鬼にもなれと風が言う	老老介護風の便りを当てにする	心にも余白がほしい割烹着	草刈り機今朝も早よから起こされる	岡山県	亡母の歳10歳こえても母恋し	昭和生れ昭和歌謡が身にしみる	マスクつけ感染防止神楽見る	グランドゴルフデビューしました85	コロナに負けず稲はたわわに実っている	岡山県	ラーメンのスープ残せと愛が言う	シンキングタイム要らない君が好き	ぶち破る壁 シンクロニシティの愛	愛という自由に泳ぐ場所を得る	究極の味変にする君の愛	笠岡市
				岸						田					る	髙						藤
				本						中						岡						井
																茂						智
				清						恵						子						史

北からの風は故郷の匂いする

日本から理性良識消えてゆく

励ましの言葉を杖に八十路坂	お握りにするとおいしくなる不思議	順不同だけどトップはおえら方	カレンダー宴会の日は二重丸	換気扇隣は今日もいい匂い	宇部市 平 田	イノシシの残りいただく栗拾い	追い上げださあ球場へスタンバイ	図書館の学習室で微睡んで	仕事復帰友の笑顔にほっこりと	宣言解除お出かけしますどこへでも	岩国市 上 村	人生を無事生きて来た消去法	これからは風に任せていく余生	責任を押し付け合っている狸	今はもう仏の顔になる白寿	墓参り急かすまっ赤な彼岸花	三原市 鴨 田	誰ぞ知る命の色は何色ぞ	信じれば草木の声が聞こえそう	立ち話夫が待っているだろな	受付の電話何か忙しそうである	折り鶴の悲しみ空がただ走る	竹原市 岩 本
					実						夢						昭						笑
					男						香						紀						子
好きと言うより嫌いではない程度	栗拾いしながら余暇のウォーキング	快適な暮らしは体には悪い	夢に出て来るのは死んだ人ばかり	何もかも中途半端で趣味の域	鳥取市 加 藤 茶 人	国会にも古稀の定年欲しい人	過ぎたのか未だか分からぬ更年期	問診の食欲だけに丸印	ジャニーズや何とか坂も同じ顔	「嫁らく」の祈祷下着をくれた孫	鳥取市 奥田由美	不満なり顔には出さぬようにする	未熟なりに結果出るまで精を出す	肩凝らぬ軽い読物時代劇	知らん人同士で軽く会釈する	まあまあの出来手直しは要りません	鳥取市 池 澤 大 鯰	根絶は無理だと思う新コロナ	コロナ禍に世代交代加速する	取り付いたもののけ君は気付かない	褒めること絶対しない野党席	やりかけて終わりが見えぬ草むしり	防府市 坂 本 加 代

至福のキーワード君が側に居る父の分まで生きてと母へ応援歌百歳を目指せとエール母卒寿日旅を目指せとエール母卒寿に対が来た思い出づくりする為に反抗期なのか右足動かない	腐棄土の中はこんなにあたたかい 鳥取市 田 賀 八千代満点を上げよう庭のコスモスに 歯り角おんなが転ぶ風がある 鳥取市 田 賀 八千代 高葉土の中はこんなにあたたかい	高取市 倉 益 一 路 では選ぶほどない美容院 田舎では選ぶほどない美容院 田舎では選ぶほどない美容院 古い服捨てて明日からニューモード	岸 本 左 宏
医者通い元気なうちは徒歩で行くめと一歩惜しい悔しい日が続くあと一歩惜しい悔しい日が続く遠雷へ草刈る鎌がよく動く	鳥取市中村金祥別のようないが地球の自転リズミカル見えないが地球の自転リズミカルをき様はいろいろあれどみな必死をおいいのない形見分け	永 原 「	よく思や米に生かされ大感謝鳥取市 棚 田 大まく思や米に生かされ大感謝鳥取市 棚 田 大

鳥取市副井ゆたか		鳥取市	吉	田	弘	子
に学ぶ川柳天の技	三角四角おでんの鍋は仲良しだ	だ				
の喜怒哀楽が変えた貌	戦力外そんな齢だと自覚する					
ルから努力の証し滲み出る	元気出せ笑顔の遺影背を押す					

スーパーへ小さなストレス捨てに行く

合掌へ姉の笑顔が走馬灯

倉吉市

大

羽

雄

大

長年の メダ できぬ子も必ず長所見出せる

A

フレイルの忌避を目指してスクワット

鳥取市

前

 \mathbb{H}

花

郵便休み村が寂しくなってゆく 新米が届き美味しさ食べ比べ

透明な空が見たくて磨く窓

セカセカと動く退屈せぬように

限界だ隣も前も空き家です

没句の山嫌というほど積み重ね テンポ合わぬ妻に遅れて後を追う

夕焼けが今日から明日へ夢運ぶ 大器晩成いつか芽を出す柳の道

顔で寡黙に座する大役よ

ジューサーの音しか聞かぬ若世帯 週四でとに角お肉後我慢 還暦にも紬は楚々と渋い艶

釣れたってメニュー変更友も呼ぶ

晩酌の時を忘れぬ腹時計

無人の生家時々覗き風通す **減取市**

H 孔美子

Ш F 凱

鳥取市

年金でやっと食べてる老夫婦 お財布が膨らんでる日年金日

この指止まれ音頭取れない新コロナ

倉吉市

H

中

体力の自信が疱疹に揺らぐ オイは止す名前で呼べば良い返事 今朝の顔いいぞと鏡褒めてくる

大丈夫名前・元号問われれば

小姑の機嫌とるのはうんざりだ 配る程ほしいなお金五億円

二十年前の裸婦の自画像黒塗りに

遊ぶとき何故か時間が早送り

境港市 藤 原 久 直

巣ごもりが続いたせいか二キロ増え 百年後覗いてみたい今の村 何事も二人で一つ我が夫婦

相合傘照れて互いの肩濡らす深酒にしじみ汁だけ受け付ける親の墓マスク外して語りかけいつの間にか人が集まる聞き上手収穫に安堵の案山子仰向ける	月が隠れたぞ何か胸さわぎ 米子市 後 藤 美恵子酒はもうこりごりですと午前中	おとぼけもここまでやれば見事です。 おとぼけもここまでやれば見事です そうたた寝に朝かと迷う月明かり 米子市 後 藤 宏 之無農薬虫とキャベツを半分こ 米子市 後 藤 宏 之 にないがら上手だったとほめられる	影法師と語る散歩の月明かり影法師と語る散歩の月明かり米子市 伊 塚 美枝子 初冠雪と見まごう山の白い雲米子市 伊 塚 美枝子 妻のおかげと立派な人は口にする	ノーベル賞その人柄も対象か 米子市 池 田 美 穂
だんだんと横着したい障子貼りり構えてしまう訪問販売にとの年使った体補修中でのののののののである。	鳥取県 門 村 幸 子蝿いても読めぬ主治医のカルテの字舞台うら覗くと重鎮の重石	熱冷めたゴルフバッグが邪魔になる熱冷めたゴルフバッグが邪魔になる一数上がり苦手と逃げたままで居る一数上がり苦手と逃げたままで居る一数上がり苦手と逃げたままで居る一数上がり苦手と逃げたままで居る一数上がり苦手と逃げたままで居る一数上がり苦手と逃げたままで居る一数上がり苦手と逃げたままで居る一数上がり苦手と逃げたままで居る一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一数上がります。一次上がります。一次上がります。一次上がります。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がりまする。一次上がり	傘寿過ぎやっと他人が怖くない傘寿過ぎやっと他人が怖くない米子市 成 田 雨 奇藤井くんどこまで進化するのやら藤井くんどこまで進化するのやら水子市 成 田 雨 奇 かとぼくはどんな病気で死ぬだろう	かわいいな双子のパンダ名が決まる 米子市 中 原 章 子

出雲市 岸 桂	子	松山市 栗 田 忠
飽食の舌が忘れた労働歌		
ずぶぬれてそれでも笑うことにする		あれもしたいこれもしたいで日が暮れる
身の丈で生きて可もなし不可もない		使い捨てもったいないとまた拾う

1:

留守番が用が出来たとメモをおき バースデー息子が電話してくれる 背伸びして趣味があるから生きられる 身の丈で生きて可もなし不可もない 添え木して折れない心持ち歩く 雲南市 H かつ子

節目から水の流れが早くなる 忘れたと言って向こうを立てておく

計算に合わぬ事とて楽しいよ

島根県

寿

美

消える家門の墓地で鳴いてる法師蝉 「緊張と緩和」枝雀を聞いた再放送

渡し舟ちあきなおみをリクエスト やっと叶った墓参待ってたアキアカネ

子育でも孫も育てた眠り姫

東かがわ市

Ш

﨑

ひかり

四

田

現実を置いてけばりの机上論 望郷の思い深めるわらべ唄 あなたなの?肩に止まった赤トンボ

無口だがとても情ある亡夫だった 柔らかな口調で急所突いてくる

> 心の揺れを見抜かれそうな青い空 続編はきっといい風吹くでしょう

家族葬でいいよと妻に言っている どん底に終止符打つか除夜の鐘

松山市

柳

H

かおる

忘れましょう忘れましょうと不眠症 しなやかな心器を選ばない

なまけものになりなさいよと処方箋

介護してるのかされているのか老い二人 わたしが先に逝ったら娘らに恨まれる 黒

苦しくないか崩れゆく木を見るつらさ 諸行無常日々崩れゆく柿の木よ 良妻には遠い 有りっ丈を尽くす

天秤にかける恋ならもういいの 王様にはなれぬがボランティアならなれる

だとしても後から私逝かなけりゃ 朝5錠夜も5錠で生かされる 孫の句はご法度等と言われても

> 田 茂 代

西予市

- 36

家の中マスク外して闊歩する一事著者VKF終ヨリー仕事	一千夜巻、二百帝も)一七年	両数さら也で目立つ古い家	両隣解体我が家丸裸	古い家門柱を建て様になる	唐津市 坂 本 蜂 朗	おせちには好きなものだけ我が家流	気まずさはしまっておこう朝が来る	腹筋が弱くて貯筋まだ一歩	おいし~い息子の料理にはほめ言葉	友に逢いたい共に笑いたい今	北九州市 小 松 紀 子	まだボクの老いの火種がけしかける	楢山でことばの森に迷いこむ	お隣は老人ホームに越すという	気がつけば最終章の初霰	この人も鰥夫とおもうレジの籠	阿南市 小畑 定弘	老いなどに負けぬ勇気を持っている	妻と二人褒めも文句も分けあえる	三回忌私の法事終えました	悪政にコロナが老いを痛めつけ	また会える御国の道はまだとおい	高知県小澤幸泉
貴賤なく死は平等に花筏	らて氏が売っているは大心ない	コだナよ父目終えずこ食う犬える	輪廻転生落ち葉は風を待っている	育てたい義理人情のある力士	札幌市 小 沢 淳	口数は多いが何時も笑顔くれ	育ての祖母探して寺に礼参り	人文字が揃って発芽秋日和	運動の不足補う草を刈る	刈った草秋に素敵な花咲かせ	熊本県 岩 切 康 子	災害列島人災コロナ闊歩する	レースカーじゃじゃ馬馴らす如く繰る	今は我慢薬一個で済む病	コロナ禍で耐え続けてる趣味数多	二年目はもっと淋しいコロナ秋	熊本市 杉 野 羅 天	記載もれした金眠る貸金庫	詰め襟の息子凜々しく朝を出る	漁師村婦女子は全部消防士	税金を滞納してる依存症	父上の操縦桿を握るママ	唐津市 山 口 高 明

川柳塔の 上方芸能評論家 川柳讃歌 木津川 計

ペットボトルの栓がだんだん固くなる

"逆転の発想、といっときよく言われた。

が、脚力は一層衰え、すぐ近くの商店街にも る。86歳の私はステッキに頼って歩いている 力が弱られたのだ。老化とともに体力は衰え さんで、固くなっていると思うほど指先きの の固さは変わらない。変わっているのは宏章 いまも活かせることばだ。ペットボトルの栓

行けなくなった。それだけ老化が進んだが、

を説き、信心に引き込む、容易な技ではない。 がら同情した。戸口へやってきて宗教の効用 勿論断るが、あの勧誘は辛かろうと断わりな 勧誘に女性二人がペアで来ることがあった。 に気づいた。宏章さん、がんばりましょう。 商店街へ行けないならカタログ販売のあるの いろんなセールスマンがくる中で、宗教の 耳が遠いと言うとセールスマン帰る

義さん、有難いことを教えてもらいました。 伝えるのか、私も早速その振りをしてみよう。 あった。そうか、耳が遠いとセールスマンに 断わろうか、案じるところへ義さんの句で

そう思えば、断わり言葉も丁重になる。どう

十二桁が暗記できないマイカード 奥田由

そうでしたか、マイカードは十二桁あるの

博の会場へやってきた人数がおびただしかっ ですか。私は数えたこともありませんが、と ても暗記できません。ところで、70年日本万

この八桁を暗記する方法があったのです。即 混雑、、民族大移動、を受け入れたから大変 す。なにしろ、この期間、大阪の繁華街は大 ち「むしょうにいやな七○年」と覚えるので

一足すーは二で退屈なハナシ

でした。由美さん、頭は使いようです。

扶美代

る。昔、大阪に川上貫一という共産党唯一の 抜群だった。聴き手は、演説の残り時間があ 国会議員がいた。この人の演説の面白いこと 四になってこそ世の中は面白くなるのであ 数学はだから面白くない。一足す一が三や

まれ、と叫びたい気持ちになった。なにしろ

と三十分、二十分、十分しかない、で時間よ、と

かったか、反省されられた扶美代さんに感謝 引きつけた。私は「退屈なハナシ」をしてこな

一足す一が三や四になる意外な展開を事実で

すれ違うバツが悪いな同じ服 磯島福貴子

が突然「あのひと、わたしと同んなじ服着である日、エレベーターに乗った。奥の女性 じ服である。二人ともバツの悪かったことだ る!」と叫んだ。皆が見比べた。なるほど同

たのです。その数なんと六四二一八七七〇人。 子さん、その服は直しておきましょうか。 員で一色に染め上げられる等は御免だ。福貴 千差万別の違いがあっていい。国民精神総動 く同じ考えも、言うたらバツが悪いのである。

全く同じ格好は収まりがつかない。同様に全 ろう。見比べた私たちも目のやり場に困った。

ボールベンようやく秋になりました

ということは変わりばえのない、昨日と同様 握っている私だが格別の感慨はない。ない、 勉だからこの季節がうれしい。年中鉛筆を 勉強に励む季節の到来です。道夫さんは勤

夫さん、有難う。私も鉛筆を握り直します。 選句せんかい、とたしなめられた気分だ。道 だ。引退したというてへこたれんと気張って 差をつけられたなあ。勉強の度合いが違うの の今日であり明日が来るのだ。道夫さんには

西尾栞句集『水 鶏 笛』

強がりへ雷だんだん近こうなり 貨車一つほっとかれてる霜の朝 初入選西陽気づかう位置にあ 夕涼み一人となって星を見る 田植の腰のばした途端汽車が行き 1)

裸木の美 冬陽落ちんとす

「横町の雑音」

背泳へ入道雲は足の先

青い灯のホテル夜霧にいきをつき

心配しましたで心配しましたでと義理の仲 二階借り名刺をちょっと下げて貼り 靴磨き磨きたい靴前を行く 蚊柱の崩れて検視五六人 すし捨を出てポン引と肩並べ

> 刑事室刑事自ら炭をつぎ 掃除婦と守衛の口の端に上り 万引きの哀れ子供のもの許り 成金の趣味は日の出の軸に見せ 散髪屋で風呂屋で税金まだぼやき 鯨幕張り張り日本晴れをほめ

持って死ねなんだらしい銀行から樒 コンクール残念でしたが続くなり 後添いは十字架背負う座となりぬ ブラインド閉めたひととこ護送犯 落第もまたたのしからずや座談会 税務署と言えばシヤックリとまったり 金策に出たままという記事となり

看板屋交通事故を腑瞰する まあまあ栄転の方だっしゃろとは淋し 妾宅で名士死んだと書いてなし

殊勝げにダイヤモンドの掌を合わせ

HATTER WHITE THE PARTY OF THE P

大臣に紐がついてる阿呆らしさ

牛肉屋のおっさん理事の名刺くれ

小

島 蘭

白マスク顔に黒マスク心に

度だけガラスの靴を履いてみた

無人販売硬貨も秋の音をたて

交替に病んでより添う老夫婦 聞いては忘れ忘れては聞く秋の中 新聞もテレビも師なり友とする 秋晴れへ鍋を磨いてとじこもる

Ш

本

緒に笑う幸せは倍になる

初めてのドレスアップをしてピアノ 歩いて二分わたしのためにあるポスト

幸

山 盛 固定電話ファックスだけのためにある 化け物と言われた誉め言葉だった 雨になりました愛犬の回忌

おろかにも金木犀が二度咲いた やり直しましょうと十日目のメール

鍬と鎌武器に加齢に立ち向かう

五寸釘ただ群れている錆びている 銃後は無人空っぽのビール瓶

百均の知恵の輪に弄ばれる

クランクもS字カーブも落ちました

痩せた腕には長袖が出番です

そのまんま

木

千

代

編みの厚みも冬の味方なの

まだ紅葉もしないのに

でもねでも 秋の残りを 老いたものね

熱いハートはそのまんま 雪のちらつく峠道

問われない歳をついつい言う達者 まだ卒寿予定の埋まるありがたさ

桜

雨とだけ書いたある日の日記帳 無罪放免言い訳が下手だから 言い訳が排水口に溜まりだす

目分量これが私の黄金比

時時は自分に向ける指がある

老けぬ様野次馬根性抱き続け 老いた脳フル稼働さす五七五

力瘤落ちて毒舌冴えて来る

北

野 哲

男

谷

居

真理子

Ш Ŀ. 大

0000	v)					CA	200	~															
死ぬまでに一度会いたい旧友が居る	平凡こ余命を削る作日今日	折々の空気を吸って七十五	コロナ禍の明日の日本を憂う今	反り合わぬ人ありこの世右派と左派	竹	胃薬がコロコロコロリ二日酔	なみなみと注ぐ悪友との別れ	当たったら寄付する予定宝クジ	みにくい姿見せてきました子に妻に	踏んづけていたは貧乏神の裾	髙	ふるさとの主はセイタカワダチソウ	外来種グイグイ伸びる秋日和	激辛の人生酒で中和する	簡単に潰されぬよう修行中	オニヤンマ僕を見詰めてホバリング	新	日は昇り沈み忘れる金魚の死	秋の陽は金魚の墓地に惜しみなく	金魚の死泣いたわたしを笑うのか	卵から孵し育てて三年目	金魚病む金魚診る医者いませんか	木
					治						瀬						家						本
					ち						霜						完						朱
					ちかし						石						司						夏
来年の渓	出不唐	無か	八十	読経		享先	ę	ح	葬	在		TWO MOTOR CO.	204040		7.	ト		+	_	Ber	比	相	
来年の渓流釣りへスクワット	出不情でコロナ自粛苦こならな	無から無へ所詮この世は仮住い	八十歳なにをすべきか腕を組む	読経して今日一日を組み立てる	福	享年の享は「うける」ということか	もういくつ寝ると行先決まるかな	この年を感謝の念で除夜の鐘	葬式に来てくれそうなお人から	年齢をくらべておくやみ欄を読む	仁	捜し物に貴重な時間盗まれる	神仏に感謝をしたり恨んだり	いつまでの幸せ孫にみかん剥く	そのうちにきっと出てくる詐欺保険	七巡りの虎平穏を祈るのみ	西	本当に会えるあの世に人恋し	マスク顔ずらりぎょろりと待合い所	瞑想で沈む心を立て直す	指ちから萎えて必死のトレーニング	想い出のかさ断捨離がはかどらぬ	津
流釣りへスクワット	でコロナ自粛苦こならな	ら無へ所詮この世は仮住い	歳なにをすべきか腕を組む	して今日一日を組み立てる	福士	中の享は「うける」ということか	ついくつ寝ると行先決まるかな	の年を感謝の念で除夜の鐘	式に来てくれそうなお人から	一齢をくらべておくやみ欄を読む	仁部	搜し物に 貴重な時間 盗まれる	神仏に感謝をしたり恨んだり	いつまでの幸せ孫にみかん剥く	てのうちにきっと出てくる詐欺保険	一巡りの虎平穏を祈るのみ	西出	平当に会えるあの世に人恋し	マスク顔ずらりぎょろりと待合い所	以想で沈む心を立て直す	15から萎えて必死のトレーニング	心い出のかさ断捨離がはかどらぬ	津 守
流釣りへスクワット	でコロナ自粛苦こならな	ら無へ所詮この世は仮住い	歳なにをすべきか腕を組む	して今日一日を組み立てる		平の享は「うける」ということか	ついくつ寝ると行先決まるかな	の年を感謝の念で除夜の鐘	式に来てくれそうなお人から	-齢をくらべておくやみ欄を読む		搜し物に貴重な時間盗まれる	神仏に感謝をしたり恨んだり	いつまでの幸せ孫にみかん剥く	てのうちにきっと出てくる詐欺保険	一巡りの虎平穏を祈るのみ		平当に会えるあの世に人恋し	マスク顔ずらりぎょろりと待合い所	^{映想で沈む心を立て直す}	15から萎えて必死のトレーニング	心い出のかさ断捨離がはかどらぬ	

松 本 文 子

何だろうじわじわ近づいてくる光 約束は守っていこうあの世まで

天国は近いかアラーム鳴っている

積み上げたものが崩れる雨が降る 生懸命生きているのにバッシング

浦 強

寄り道で会い生涯の友となり

ッカスと晩酌をする至福感

人間

が好きで寄り道回り道

保 州

宅

丸い背は歳に順応許されよ 晩酌をして十歳は若返る

玄

村

也

そう言えば貨物列車を見なくなり 行くべきか行かざるべきか黄信号 目立ちすぎてやめさせられたエキストラ レシピ通り造った料理なぜまずい

愛憎の雨はあなたの所為でない

名句選・この一句

抱た子にた、かせて見るほれた人

宝暦11年(一七六三)桜

柳多留初篇32

う介在者によって出来る精一杯の媚態であろう。 を叩かせて、己の意志を代弁させたのである。 面と向かっては物も言えない純情な娘が、子供とい それまで特に何も感じて居なかった男の方も 娘のうまい意思表示である。抱いた子に惚れた男 男に 「オ

た子を使うとはなかなか良い方法だとしている。こ ヤッ」と感じるものがあるかも知れない。 この句の前句は、「能くめんなりくく」で、

たようなことをいうのは野暮というものか。 るかも知れないのである。 人生、ほんのちょっとしたことで、 恋の始まりの句に、 大きく展開す

悟っ

かも知れないのである。

のようなちょっとした戯れが、本当の恋に発展する

(江戸川柳5号より) 清

抱

V

- 42 -

Ŀ.

ネガティブな句ばかり出来て自己嫌悪

定年後に広げた趣味を整理する

ポカばかりやって毎日過ぎて行く

悪い夢見たか目覚めの悪い朝

昨夜またストー

リーない夢見てた

素直に鑑賞すればいいだけの句であろう。

集 の

逝きし子と四十九ヵ寺の旅をする ふる里で母のエプロン借る彼岸 母を訪うこの駅からの国訛り 母の影子の影もつれ蛍追う

もう飼わぬことに決めてる金魚の死

人生は複雑

男の木綿針



商売は息子まかせの旅便り 鏡台へちょっと動けぬ初島田

いい事があって鏡へ笑いかけ

高か

橋は

操作

子:

孫連れて来ればよかった大花火

おたやんの面をはずせば古稀の人 形見だけ残し宝石みんな食べ だんじりと並んで走る肩車 乾杯の母の涙を見逃さず

孫もあっぱれ女の子

昭和53年11月23日 発行

> 糸切れた子はアメリカに行ったまま フルートとピアノ二人のハーモニー ワープロの手紙で無心言うてくる 美しき横顔コインの女王様 アメリカに車を売って米を買う 農政を叱る新米賞でながら 新米に秋茄子ぼくは日本人

職ひいて見えた会社の裏表 ひとりものひとりめしやでめしをくう ライバルの力を知らぬ主戦論

メノノノノノノノ

判を押すだけの机が大きすぎ

- 43 -

平服というから困る披露宴

ぜいたくな居眠りバッハ聞きながら

水草のいのちがほしい水中花 内の子が先頭を行く鼓笛隊 栄光の過去はなかった父の旗 小さきは小さく泳ぐ鯉のぼり

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

新



Ш

上

輪

選

栄養を一粒シャインマスカット ようやくに気力が戻る収穫期

喜びに正直すぎる靴の向き

受けのよさうっかりダブルブッキング

とっさへの母の助言が的を射る

そろそろと用心しつつ半歩から

ただ祈る事しか出来ぬもどかしさ 会えぬ間に言葉遣いも大人びて

自給率上げる不揃い自家野菜 梅干と妻がわが家のヴィンテージ 父踊る母の言葉が音頭とる 埋み火を熾し老化を押し返す

大洲市

花

岡

順

子

コスモスの笑い声する風の丘 かわいいと言われる女にはならぬ

充電が終われば明日また光る

笛太鼓里の便りに乗って来る

ぬるま湯に狎れ合っていく身とこころ

受け流す術を覚えた皺の数 令和ゆく足に昭和が絡みつく

来年を占う木々の色具合

何をどう始める穏やかすぎる日

にこにこと問われてハイと返事する

黒石市

北

Ш

まみどり

苛立ちは呑み込んでから送り出す 取りあえず小言で済ます一回目 グループに分けて先生にも手抜き 今日も暮れゆくさらさらと砂時計

質問へ返すあなたはどう思う

秋晴れが連れて来たんだ思考力

松 尾 信 彦

広島市

神戸市 村 松 久 江

石 澤

44 -

はる子

黒石市

温い手が心の棘を抜いていく

陽が昇る僕も負けてはいられない

らくの告白が身に纏い付く ウィンを私の中の魔女が待つ るのは黄昏てからほうせん花 るのは黄昏てからほうせん花 寝屋川市 長	議名に長にしなかったングララス 人間がこわくて困る鍵の束 いざというときの仮面を持っている ・ 山口市 中 ・ 山口市 中 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	点島市 常	バラ ヤ 房 市 え	1
尾	前	國	4	
千	幸	喜	4	
賀	子	好	Ŧ	F
一本道なのに迷ってばかりいる広がった言葉の海におぼれてる店がいな夢見続けるえのき茸あいまいな夢見続けるえのき茸がむこと教えてくれた母の鍋	大阪市 とい二人話し尽くしてあんこ餅 とい二人話し尽くしてあんこ餅 とい二人話し尽くしてあんこ餅 とい二人話し尽くしてあんこ餅	天阪市では、大阪市が、大阪市では、大阪が、大阪が、大阪が、大阪市では、大阪が、大阪が、大阪が、大阪が、大阪が、大阪が、大阪が、大阪が、大阪が、大阪が	紅葉というワクチンを浴びに行く茶柱二本正直者と論される	らの憂ずこ乱を手倫の呈しさ
	折	大	岡	
		25000	177	
	田	沢	田	
	田あきこ	沢 の り 子	恵子	

忘れてた聖徳太子畳下篩いてスマホに夢中世間見ぬけいてスマホに夢中世間見ぬってもラチ明かぬるよく看板替えて総選挙	残すなら自分史という供述書 奈良県 室	関くもすぐ忘れ去るピタゴラス まっしぐら走って転ぶ特技あり モノクロの時代の生まれ起立礼 生駒市 響		を を を を を を を を を を を を を を	八幡市 武
	田	庭			田
	行	風	5	定	悦
	久	鈴		生	寛
歩くのの野りは、	鼻 ラ	ス悲秋 ほ	自冷三ま叶	渋し遂ド辛 かっ日ラ抱	
歩くのにお金払ってフィットネス百円のスリッパなれど履き易い野良仕事食は八分でよく眠る秋怖しカニに松茸栗ご飯	鼻歌は仕事の量を軽くする カ歌山市	ストレスはケーキー個で安上がり悲しくもないのに涙年の所為秋晴れに今日の受話器がよくしゃべる秋晴れに今日の受話器がよくしゃべる	自粛遅禁魚のようこ永ぎだす。一つない夢は咲く場所選ぶのかいわない夢は咲く場所選ぶのかいかいとまあだだよまだ自粛もういいかいとまあだだよまだ自粛もういいかいとまあだだよ	れ歌山市 、	和歌山市
にお金払ってフィットネススリッパなれど履き易い事食は八分でよく眠るカニに松茸栗ご飯	と	AS 1	順だかれたよして		和歌山市 北
にお金払ってフィットネススリッパなれど履き易い事食は八分でよく眠るカニに松茸栗ご飯	とする	がりしゃべる	順だだより	山市	
にお金払ってフィットネススリッパなれど履き易い事食は八分でよく眠るカニに松茸栗ご飯産路それでも痛む胸	和歌山市 福	がり しゃべる 定	順だだよがれていたが、オート	山市	北

和歌山市 まつもと もとこ

色褪せぬこの世の沙汰も夢しだい

ハチャメチャな君と私の恋でした

大人なら良いと洗脳されていた

心臓のメッキはメタリックピンク

さりげなく母の悩みを聞いてみる

逝く嫁に合掌おくる老い二人 かあちゃん死ぬな慟哭よそに嫁が逝く (嬢が逝く)

娘の弔辞客は帰らず涙拭く もう近く孫抱く嫁であったのに

鳥取市

Ŀ

Ш

平

涙も涸れて震える箸で骨拾う

栗御飯恵みの秋を連れてきた

呼び声の高い果物味気無い 訥々と読み聞かせした介護の手

歌も出る一日楽し老介護 柿紅葉ローカル列車茜色

まじまじと眺めて知った高い鼻 足踏みの位置がだんだんずれてくる

鳥取市

Ш

野

すみれ

秋が来たきのこベーコン踊り出す 朝顔が秋の風受け細い息

食欲がどんどん増していく不安

中 悦 男

岩出市

村

長雨に古傷うずく老い独り

貝柱

大黒柱 皆頑固

腹まわり釦止まらぬ試着室 短足で胴長だけど気も長い

コロナ禍で法事の経が半分に

なんとなく気分が乗ってフラダンス 見えない心覗いて見たい顕微鏡 お喋りをしながら回る洗濯機

幸せを訪ねてみたが留守だった

訴えを涙で告げる反抗期

るんるんと千振を引く秋日和 数々の思い出のこる魚拓帳 ふる里の山が呼んでるキノコ狩り

キノコ狩り油断めさるな蝮谷

九十五歳まだまだ僕は地獄耳

田 中 重 忠

鳥取県

秋の風さわやかに吹く私にも ニュースはコロナ今日もいい事なかったね

倉吉市

堀

悩むまい考えたって先のこと

叱ってよ弱気な私明日を待つ 歩けない あしたもあるさ頑張るぞ

倉吉市

若 松

米子市

Ш

本

- 47 **-**

	友の計に心は晴れず日を過ごす を確決とに来るのフェイクにしたい第六波 で春砲大臣達は落ち着かず ないである。 を記述しての知恵数多 を記述しての知恵数多	に論も反論もないハイボール 正論も反論もないハイボール 正論も反論もないハイボール	安来市 原高飛車に寄付しなさいと来る手紙 高飛車に寄付しなさいと来る手紙 の程を知らぬ傘寿の三次会 りの程を知らぬ傘寿の三次会 は、いたなる
	Л	桑	筋
	道	恵	徳 弘
	子	子	利 充
米配を任せた嫁の台所根惑のスマホ時間を奪い取る目間自答何とかなると言い聞かす経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経動した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。経験した。<	卒寿坂思わぬ病魔おそいくる 下直に言えば絆にひび入る 正直に言えば絆にひび入る から元気だしてもいい句出てこない から元気だしてもいい句出てこない	新札を夢見へそくり貯めている育店の差もっと出来そうコロナ後に貧富の差もっと出来そうコロナ後にお札を夢見へそくり貯めている	尾道市家の御飯がイチバンと煽てられ家の御飯がイチバンと煽てられ家事の合間に指を折る厨椅子後期高齢まだ研くこの頑固 石段を見上げてストの膝小僧
	髙	宮	土 村
	橋	宅	井 上
	由紀女	比 佐 恵	輝 和

松山市	郷	田	み	や	青森県	月	波	与	生
桁得はしない免許の顔写真					笑っているだろうか自撮りした笑顔				
ての後は好きにどうぞと最終話					みんな死んじゃった私を好きなひと				
心めたのは上澄液のところだけ					訃報欄読まずに生きるのも一手				
起げ道を見つけ代役ならと言う					一歩でも歩けるうちは靴を買う				
旦己主張だけの四角い会議室					かつ丼を掻っ込むまずまずなこの世				
佐賀県	真	島	久美子	子	名古屋市	富	田	末	男
兵実を書くと炎上してしまう					案山子さん元気印の黄金色				
はあちゃんは箒で何処へ行ったやら					蒼天の誘い心を弾ませる				
逆剥けの指で仕舞った保険証					矛盾点探ると答え見えてくる				
パーテンをしゃっと閉めると星が降る					目的へ向う力を汗にする				
志友という最高の宝物					数多あるドラマを母に学びたい				
宮崎県	黒	木	栄	子	豊橋市	小	松	くみ子	子
心いつつ奥へ奥へと入り込む					通販の安さにはまる自粛中				
#草のようにありたし歩く道					寄りそってくれない入れ歯はずれすぎ				
いつわりの列車に乗って途中下車					キンモクセイ香も華やかに主張する				
小玉の古い日傘に母を恋う					カンナくずもったいないと湯に浮かべ				
足っかける夢があるから踏んばれる					塗りたてのコンクリートへ猫の足				
白河市	鈴	木	たけし	Ĺ	岐阜県	喜多村		正	儀
ლ生日平均余命表を見る					消しゴムも知って転がる好きな方				
上からの風はオセロも裏返す					消えるまで虹を見ているサングラス				
啄石を隠して揺れるネコジャラシ					素潜りの街で掴んだ青い石				
王山の境はもはややぶの中					煮崩れぬコンニャクにある自尊心				
-年後原発遺跡見てみたい					振り向けばまだ立っている小さい影				

千里縁上誕 追水い雑迷 悪カ逆ば真 自逃慰そ納

風向きに合わす自分がイヤな時亡母のメモ辛かったんだあの頃はとりとない私の味は星いくつ妻の愚痴ビールでグッと流し込む家計簿の改ざんバレずホッとする	焼き色もご馳走になる秋刀魚二尾 サイダーの泡ごと飲んで生き返る おり腹の底から笑えない おいない ないがん かんがく かんがん かんがん かんがん かんがん かんがん かんがん かん		では、 では、 では、 では、 では、 では、 でないまも空しく響く夕間暮れただいまも空しく響く夕間暮れただいまも空しく響く夕間暮れるいで では、 では
	葉		村井
	良		峰惠
	子		子 子
政治家より酒を信じて生きてゆく、人久に月も揺れてる生ビール、人久に月も揺れてる生ビールをおい招き猫	声色に別の貴方が見え隠れカレー炊く三日は続く覚悟してカレー炊く三日は続く覚悟してカレー炊く三日は続く覚悟して	冬支度またも捨てたり戻したり白百合の気品に少し負けている故里の友は私の薬箱故里の友は私の薬箱	見てるから渋々拾う犬の糞野ぬぎいを首に西日の台所母の煮物より焼肉と孫の言う母のさいを首に西日の台所がったべいまで、一歩また一歩
	まし の	たいいい	う 華
から から ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	主しの秋門真市	りる か	う 華 泉大津市
ゆく 繁華街	王張しての秋門真市坂	りる 柏 原 市	泉
ゆく 繁華街		りる かも 柏原市 神	泉大津市 市
ゆく 繁華街	坂	りるかも柏原市神崎	具 塚市 吉 助

風に乗りふわり紅葉の風車 空っぽの脳を突き刺すニュースネタ がたが来て回りかねてる知恵袋 首筋がポキンと鳴って知る寝相 陽だまりでうっとりとろり白昼夢 揺るぎない父の背中にある度胸 白黒写真夢をいっぱい抱いていた 麦茶から緑茶に代える秋の暮れ 病む人に嘘も交えて元気づけ 雨上がり恩を忘れて忘れ傘 大谷の焦りが空を切るバット 読み辛い漢字に仮名が待つ出番 栗ご飯好きの度合いとむく苦労 もういいかい旅行の企画むくむくと 五輪過ぎ冷める気に鞭ジム通い 神頼みちょっとはずんだお賽銭 アホなこと言って笑って酒飲んで 行きぬいたそれだけでもう宝物 宣言で滅れど反動また怖し コロナ禍の時が育む思いやり 豊中市 吹田市 吹田市 岩 西 藤 沢 П 奈津子 のぞみ 司 郎 この人にこんなと思う芸を見る ビブラートを効かせたまでは良かったが ニコニコと聞いて持論はゆずらない 聞き役にまわってるのは騙す方 まつたけも付いた値札に誇らしげ 同窓会 会ってすぐ見るクスリ指 末席の気楽な酒が性にあう 稲刈られ藁の香りが立ち込める 地蔵さん豪華な造花供えられ シクシクと泣く孫の背をそっと抱く 秋風に楚々と揺れ咲く吾亦紅 骨と皮あれば歩けるまだ行ける コラーゲン何する者ぞ我が小じわ 萩桔梗秋を待ちわび咲き疲れ コスモスのつぼみ開けど秋はどこ 温暖化いつまで続く水撒きぞ プライドが有るから地団太は踏まぬ つゆ草の清しい青が風に揺れ)×で答えた頃がなつかしい 行抹消さてそこからが面白い 羽曳野市 神戸市 大阪府 奥 青 黒 木 野 木 公 健 ひとみ 郎

河内長野市

坂

野

澄

子

松

田

蟻日路

野

風

琴

孝

子

流れ星

八十路半ば足腰老化現実に出去帳を開き仏に想い馳せまを開き仏に想い馳せを開き仏に想い馳せがなると風が吹く	第の歳越えた姉妹で感謝旅 でシストの坂のパンクは辛いだけ でシストの坂のパンクは辛いだけ でシストの坂のパンクは辛いだけ	三田市 幸 田現実と夢想の境認知症 三田市 幸 田現実と夢想の境認知症 おんじょう かんじょう がいしょう はいかい かんじょう かんしょう かんしょう かんしょう はいしょう はいまいま はいままない はいしょう はいしょう はいまない はいまいまない はいまいまない はいしょう はいしょく はいしょう はいしょう はいしょく はいしょく はいしょう はいしょく はい	田市 生
		厚	Lesson to
	貴 美 江	子	え い 子 夫
早くなる刻の流れは残酷で日日新た知らない事はたんとある日日新た知らない事はたんとあるコロナ禍を知ってか庭の柿不作コロナ禍を知ってか庭の柿不作	三木市のおいたい妻がいっつも側に居るをいました あっと言う間に日が暮れるでいました あっと言う間に日が暮れるまの弁うちに鏡は要りません	宝塚市でにをはを学び落して蹴躓くでにをはを学び落して蹴躓くいい。日転車を誘導してる赤とんぼの場でであり、大変の場で、大変の場で、大変の場で、大変の場で、大変の場で、大変の場で、大変の場で、大変の場で、	正田市 は減ってもお腹そのまんま 大根葉間引き収穫待ちわびる 大根葉間引き収穫待ちわびる 大根葉間引き収穫待ちわびる は しょう
	山	太	江森
	П	田	尻
	ヨ シ エ	としお	房 玲
	工	お	子 子

いろいろね言うて会話を丸くする、気が満ちてなんでも成せるよう思う気が満ちてなんでも成せるよう思う	しっかりが口癖らしい新総理とサイズ間違ったのにちょう度合いゼローつ間違いレジで赤っ恥自粛あけカネを使えと国は言い	後はもうお任せします秋の空	をまぢかのんびり日浴びしてる草 虫かごの友を恋う歌闇に満つ 虫かごの友を恋う歌闇に満つ	コロナより永田町では票集めれば一ツ紙膝に広げて舟を漕ぐの場別く	三密を方ぐ伐が家のすきま虱と下で犬が家のすきま虱が一種で病を治し今元気を持ち望むが、大阪市では冷や飯が、大阪市では冷や飯が、大阪市である。	京都府
阪		尾		今	東	北
本		﨑		村		野
秀		文		和	敏	クニオ
子		子		男	郎	オ
旬だから痩せた秋刀魚を二匹買う時季が来て咲かねばならぬ彼岸花満月を探していますビル谷間蝉の死よ蝉は最後に空を見た	ゴキブリは夫が叩き妻始末ちっぽけな悩み一笑秋の空蛇口から水当たり前日々感謝	ポイ捨てにすました <i>顔のドライバー</i>	たきにこれをいまれない九条の不戦の誓い忘れない高齢者年で区切れるわけでない	アクチンは家族の命助け船案山子まで喜び見せる実る秋案山子まで喜び見せる実る秋	大気汚を無くす努力と 印恵を出せ 放笑んでいつもの薬処方され 微笑んでいつもの薬処方され 処方薬真面目に飲んでいるけれど 処方薬真面目に飲んでいるけれど	大阪市
7 化 大阪市		市		市	TI.	ш
阪市森		市宮		市松		桶

古 川 光 雄 高槻市 三 谷 白 里 今までに牛を何頭食べただろ 歯が抜けて面長顔になりました	腰痛に爪を切るのも一苦労	入院は妻とも会えぬコロナ時期	生き残る蚊のちくりんと刺すかゆさ	木犀の香り短い秋でした	高槻市	息子来て終活ノート渡された	山海の秋食べ尽すバスの旅	追伸にさらりと書いた胸の内	写真整理美人だったと驚いた	河内長野市	二年振り祭り囃子は空高く	好物の煮凝り供え秋彼岸	残されし木魚ポツンと荒れ堂に	揺れてこそコスモス可愛い河原道	交野市	歳重ね感謝感謝で生きている	ワンテンポ置いて言葉を選る窮地	コロナ自粛独りの孤独極まった	竜宮城こわい縄のれんがいい	池田市	ワクチンを打っても自粛続けてる	梅雨明けたコロナは明けぬ夏最中	飲食の制限まさに戦時中	オリンピックテレビ多忙で句が出来ず	堺市
光 雄 今までに牛を何頭食べただろ 協構市 三 谷 対					鳥					穂					Щ					Ŀ					古
雄雄 高槻市 三 谷 歯が抜けて面長顔になりました 歯が抜けて面長顔になりました 歯が抜けて面長顔になりました 歯が抜けて面長顔になりました 歯が抜けて面長顔になりました 歯が抜けて面長顔になりました 母さんが女に戻る美容院 ジャズ間けば生意気な頃思い出す シニア会食後みんなで薬のむ シニア会食後みんなで薬のむ 長屋川市 坂 を					居					П					野					Щ					Л
高槻市 三 谷今までに牛を何頭食べただろ 歯が抜けて面長顔になりました 偉いなあ毎日ネタを出せる人 コロナにも天敵きっといるはずだ 豊中市 貝 塚星五ツ我が子が作るオムライス 母さんが女に戻る美容院 ジャズ聞けば生意気な頃思い出す シニア会食後みんなで薬のむ 寝屋川市 坂 本 旅に出て母の電話にあまえ出る 曼珠沙華お墓ももえるおはぎ置く 百均で買い過ぎ困る自分です 東大阪市ノーベル賞大海でしか生まれない 在宅で川柳ばかりうまくなり アTSDそんなに軽くつけないで気がつけば人材派遣日本国 八尾市 田 邊 パラリンで人のすごさを知らされる 歳を取る積もりはないが老いてゆく ボケるのは何時か考えボケてゆく 人しぶりラジオ体操老いを知る										Œ.					双					堅					光
高槻市 三 谷 高槻市 三 谷 高槻市 三 谷 高槻市 三 谷 までに牛を何頭食べただろ はずだ ロナにも天敵きっといるはずだ ファ会食後みんなで薬のむ 寝屋川市 坂 本に出て母の電話にあまえ出る 東大阪市 「ベル賞大海でしか生まれないをで川柳ばかりうまくなりですい過ぎ困る自分です 根にからし詰め過ぎ口の火事 根にからし詰め過ぎ口の火事 根にからし詰め過ぎ口の火事 根にからし詰め過ぎ口の火事 をで川柳ばかりうまくなり アミロ かつけば人材派遣日本国 八尾市 田 漫がつけば人材派遣日本国 八尾市 田 漫がつけば人材派遣日本国 八尾市 田 漫がつけばりずないが老いてゆく ケるのは何時か考えボケてゆく ケるのは何時か考えボケてゆく					宏					子					葉					坊					雄
邊 本 塚 谷	久																								
邊 本 塚 谷	しぶりラジオ体操老いを知る	ボケるのは何時か考えボケてゆく	歳を取る積もりはないが老いてゆく	パラリンで人のすごさを知らされる	八尾市	気がつけば人材派遣日本国		在宅で川柳ばかりうまくなり	ノーベル賞大海でしか生まれない	東大阪市	蓮根にからし詰め過ぎ口の火事	百均で買い過ぎ困る自分です	曼珠沙華お墓ももえるおはぎ置く	旅に出て母の電話にあまえ出る	Ш	シニア会食後みんなで薬のむ	出	母さんが女に戻る美容院	星五ツ我が子が作るオムライス	豊中市	コロナにも天敵きっといるはずだ	偉いなあ毎日ネタを出せる人	歯が抜けて面長顔になりました	今までに牛を何頭食べただろ	高槻市
	しぶりラジオ体操老いを知る	ボケるのは何時か考えボケてゆく	歳を取る積もりはないが老いてゆく	パラリンで人のすごさを知らされる		気がつけば人材派遣日本国		在宅で川柳ばかりうまくなり	ノーベル賞大海でしか生まれない	東大阪市	蓮根にからし詰め過ぎ口の火事	百均で買い過ぎ困る自分です	曼珠沙華お墓ももえるおはぎ置く	旅に出て母の電話にあまえ出る	川市	シニア会食後みんなで薬のむ	出	母さんが女に戻る美容院	星五ツ我が子が作るオムライス	中市	コロナにも天敵きっといるはずだ	偉いなあ毎日ネタを出せる人	歯が抜けて面長顔になりました	今までに牛を何頭食べただろ	
=	しぶりラジオ体操老いを知る	ボケるのは何時か考えボケてゆく	歳を取る積もりはないが老いてゆく	パラリンで人のすごさを知らされる	田	気がつけば人材派遣日本国		在宅で川柳ばかりうまくなり	ノーベル賞大海でしか生まれない	東大阪市	蓮根にからし詰め過ぎ口の火事	百均で買い過ぎ困る自分です	曼珠沙華お墓ももえるおはぎ置く	旅に出て母の電話にあまえ出る	川市 坂	シニア会食後みんなで薬のむ	出	母さんが女に戻る美容院	星五ツ我が子が作るオムライス	中市	コロナにも天敵きっといるはずだ	偉いなあ毎日ネタを出せる人	歯が抜けて面長顔になりました	今までに牛を何頭食べただろ	Ξ
三 爷 3 子 黒	しぶりラジオ体操老いを知る	ボケるのは何時か考えボケてゆく	歳を取る積もりはないが老いてゆく	パラリンで人のすごさを知らされる	田邊	気がつけば人材派遣日本国		在宅で川柳ばかりうまくなり	ノーベル賞大海でしか生まれない		蓮根にからし詰め過ぎ口の火事	百均で買い過ぎ困る自分です	曼珠沙華お墓ももえるおはぎ置く	旅に出て母の電話にあまえ出る	川市 坂 本	シニア会食後みんなで薬のむ	出	母さんが女に戻る美容院	星五ツ我が子が作るオムライス	中市 貝 塚	コロナにも天敵きっといるはずだ	偉いなあ毎日ネタを出せる人	歯が抜けて面長顔になりました	今までに牛を何頭食べただろ	三谷

何となくわかり合えそな同い年 を後とはかくも寂しきものなりや すごいです数値で示す温暖化 サンプレは時の浪費か脳トレか 神戸市 長 柳何ですバンドワゴンの乗り心地 稲刈られ我がもの顔の芒の穂 お互いの秋確かめる電話口 お 気いの秋確かめる電話口	目力もくたびれてますマスク越し、 「はけも始め小ぼけと言ういけず 「ながまんした涙目は色っぽい	マスクって便利前歯がとれましたらちも無い電話をかけて立て籠もるられるとので使利前歯がとれました。 おり おり かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう おいま かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう できる かんしゅう かんしゅう おいま はいまし はいまい はいまい かんしょう はいまい かんしょう はいまい かんしょう はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	大阪府 高口の大阪府 高田の大阪府 高田のいて今朝も自分にカツ入れる 目のいて今朝も自分にカツ入れる ほりある今を楽しむそれなりに 大阪府 大阪 かんかい かんかい かんがん かんがん かんがん かんしゅう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょ
Ш	Л	Щ	木 浦
	60020		道福
哲	克	ひろし	
夫	美	L	子 子
温暖化二百十日を忘れさせ 本更え何を着ようか家の中 宣言が解除されてもブレーキが 飲みたいが誰も幹事を引き受けず サぐ買いに好みの酒の安売り日 華不精下手な文字でも丁寧に 年寄りの笑いは皆の潤滑油 あちこちの老人会の芸達者	蝶るる 尼 崎 市	が り る 尼 崎 市	東ごもり中家事の分担増えてくる 巣ごもり中家事の分担増えてくる 単で真っ赤気に入りお猪口三杯目 すぐ真っ赤気に入りお猪口三杯目
平	宗	清	新櫻
井		水	阜 井
富	和	久	義 崇

夫

夫

史

明

			溜息はよそう幸せ逃げてゆく					あの笑顔ポスターだけで選挙後は
			ベストセラー完読秋の夜長こそ					大丈夫孫が気遣い顔覗く
			勝ち越しへ後一勝の道険し					留守ですが信楽タヌキ家守る
眞智子	枝	Ξ	和歌山県	みよし	み	原	藤	西宮市
			見栄張ったツケがきっちり倍返る					旨い物食べて自分を取り戻す
			林檎五個にこにこ顔でやって来た					人間もヒグマも待つ鮭の遡上
			怠惰癖咎めるように鴉鳴く					南天も実のない枝は切り捨てる
			幅広のガラスの靴はないですか					真夏でもスカーフ巻いて隠す皺
千鶴	Ш	西	和歌山市	千賀子	千	橋	髙	西宮市
			開け放ちさわやかな風部屋も秋					寝てる間に星は流れて朝げ待つ
			庭の砂利ながい旅終え今しずか					この時世疲れるけれど手はぬけぬ
			書店にて手に取り選ぶ楽しさよ					絵でも見るきれいな夕日明日の糧
			今日も雨スローライフが板につく					習慣でざわざわと掃く音が好き
澄子	嶋	鍋	和歌山市	枝	照	瀬	高	西宮市
			秋風になびいています蕎麦の花					一粒の種がこころの夢ひらく
			免疫力付ける為には休息を					泣きべそも洗い流して聞き上手
			穏やかな心で余生持ち時間					泥んこを洗う幸せユニホーム
			雲隠れの闇を慰む虫の声					生まれつききゃしゃな体で今生きる
まき	藤	佐	和歌山市	子	良		澤	丹波篠山市
			髪を切りマンネリ抜けて闊歩する					コロナ明け半信半疑杖の音
			朝一に今日は何して遊ぼうか					数独という手があったボケ防止
			人生に様々が有り今がある					長雨で味がボケてるラフランス
			十月に真夏日続きカキ氷					ゴキブリを叩き発散コロナ鬱
なを江	畑	尾	奈良市	彩	万	田	岸	宝塚市

手伝うよ声掛けだけで腰浮かず

リハビリを欠かせぬ体八十路越す

夢叶う力を出した縁の下 りかいろ海と遊んできたんだね りんしている生きている 楽しいと思える仕事しています 松江市 相 見 柳 歩	横文字があふれ老人住みにくい横文字と大和言葉のせめぎ合いどうであれ吾の歩幅で行くまでだぬくぬくと過ごした証拠ウエストに	政治不信広げるばかり秋の空 米子市 妹 能 令位子スポーツの秋飛び跳ねている八十路です味覚の秋やっぱり出来ぬダイエット	療なことは忘れちまいな明日があるがなことは忘れちまいな明日がある夢ならば覚めて欲しいよ妻が病む	大 黃 前 E 安
しあわせが洋服を着た客が来る ま愛の夫に弱味吐けません あきらめたらそこで人生幕となる 三次市 伊藤寿子		ストレスを捨てた遠くの海に行く 期陽受けならんで笑顔曼珠沙華 野陽でけならんで笑顔曼珠沙華		

東タの寒さか堆やす歩幅かないますので寒さか堆やす歩幅かない出登り下りてプラマイゼロならず 国際ペこの毛虫がキャベツ喰い漁る 度ので見落としてゆく都会の子 おの花見落としてゆく都会の子	福岡県本 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	気付かずに溺れてしまう欲の海 嫁を追う野心に注ぐギムレット あれそれを便利に使うお年頃 天国に行けると信じ並びます ゆく秋を大事に思うのも歳か たくましきかな小池知事の歩幅 加琲はブラック髭もかっこいい
利	Н Н	田崎
菊	廣 幸 さくら	徳
江	幸ら	武
朝寝坊した時ほどの良い目覚め朝寝坊した時ほどの良い目覚めばちばや八十路流れ流されひとりぼちをから出るに出られぬ八十路爺 中落書きが出来ぬ黒板オンライン 富士見市 中	高知市 三 高知市 三 高知市 三 高知市 三 ボパンをひそかにはいてほくそ笑む ボキの頃落書をしたそのまんま ガキの頃落書をしたら喜ばれ 石川県 堀 石川県 堀 石川県 堀 の	外出に好ましくないユニホーム 今世も歌い継がれるわらべ歌 コロナ故子や孫と引き離されて 亡き母の予言通りに良く喋る 沖縄県 宮 秋風が黒のレースに息を止め 予定なしでも化粧して活を入れ 散歩道ご近所さんが気にかかる
島	本谷	
通	中のりひろ	す モ み モ れ ト
1111	TA'	, -

これからも流れにそって生きましょう一日を楽しくカラーボールペン一日を楽しくカラーボールペン幸せやヒマゴ成人敬老日幸せやヒマゴ成人敬老日幸せやヒマゴ成人敬老日古鵬が消えて土俵が深呼吸おこれからも流れにそって生きましょう	松市中	船るする生橋市江南市店店店店
	H	
芳	a.	紀 雅 良 美 磨
子	尚	代 美 磨
亡母 で	笑う声寒 子の喧嘩 子の喧嘩	好 D 骨 締 湿 老 新 シ ミ 取 か
で職中顔に書いてる若夫婦 「前月分」 鳥取県 「前月分」 鳥取県 「前月分」 鳥取県 「前月分」 鳥取県 「前月分」 鳥取県 「前月分」 鳥取県 「前月分」 鳥取県 「前月分」 鳥取県 「前月分」 鳥取県 「一人住む でいても食事はちゃんと取っている 寝ていても食事はちゃんと取っている 寝ていても食事はちゃんと取っている でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる で	笑う声寒くなっても水遊び子の為に気付かないけど親の為引力である。これがある。これがある。これがある。これがある。これがある。これがある。これがある。これがある。これがある。これがある。これがある。これがある。	大き取りのクリーム効果八個目か をい二人薬の量で負けてない をい二人薬の量で負けてない をい二人薬の量で負けてない をい二人薬の量で負けてない をい二人薬の量で負けてない でである でである でである でである である。 である。 である。 である。
に書いてる若夫婦 と夢は自由に散歩中 (前月分) 鳥取県 下 (も食事はちゃんと取っている (前月分) 鳥取県 下 も食事はちゃんと取っている	前のる	11 10 11
75	くなっても水遊び 弘前市 小山内親の喧嘩じゃないからね 弘前市 小山内で無くしたものと得たものと 弘前市 小山内 いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	東京 東京 ボ 市 横浜市 市
下	前のる	東京都 高 加 横浜市 加 機

英語 de Senryu⑩

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

独り身へ 余所の時計が鳴るのなり

unmarried man hears the clock ring from the neighbor's house

会社では 横顔だけが見える位置

at the office only his profile is seen

unmarried 未婚の hear 聞く clock 時計 ring 鳴る neighbor 余所の 隣の office 会社 only だけ profile 横顔 is seen 見える

~リバーウィローのため息~世界の詩歌 ⑩ インド詩人、ラム・クリシュナ・シン (Ram Krishna Singh) Silence: A White Distrust 『白濁』日本語訳: 稲美里佳(キンドル版 2021)

『白濁』はインドの大地で培われたシン氏の魂と肉体が捉えた一瞬が、短歌・俳句・川柳へと昇華されて96の作品に詠まれています。さらに翻訳者の稲美氏の古語文法に則った5-7調の訳は、シン氏の英語作品を日本語の音調に置き換えて、稲美氏の詩的世界をも表現するという二重構造の重層的な雰囲気を醸しています。ここでは代表的な短歌、俳句と川柳を紹介しましょう。

Covid-19/ reading the astral transit/ ceaseless lockdown/ over-sanitized hands/ playing 'Stairway to Heaven'

(Covid-19・冥途の旅路・都市封鎖・消毒過剰・「天への階段」)
self-renewing/ greenness of the tree/ blessed seed/ every passing day/

my limbs fade and fail

(ねがはくば・新緑のごと・自己再生・日に日に手足・おとろへ萎ゆる) lemon tea-/ shade of her lipstick/ on my lip

(レモンティー・我が口に汝の・紅かげる)

long waiting/ short consultation-/ ophthalmologist

(眼科医や・あっと診察・長待ち後)

誹風柳多留一三篇研究 16

山伊 高 範 雄

夫 夫 男

清 博 美

118 かんしんハすでにはんとに出る所

119 はいとうに御用おしへてしかられる

途中で出ること。のちに漢の高祖となる劉邦 とともに漢の草創期の三傑。半途に出るは、 伊吹 股くぐりで有名な韓信は、蕭何・張良

何が追いかけて連れという故事がある。『通 たので、その才能を知る唯一の人物である蕭 に重用されないため、韓信が見限って逃亡し

ような耳慣れない言葉を使ったのだろうか。 小栗 賛。ただ、なぜ「半途に出る」という 俗漢楚軍談』〈巻之五・蕭何月夜追□韓信一〉。

くなっていた。 細井 賛。ふと気が付くと自分の居場所が無 九八61

韓信にふと気が付くと先かなし

けた者たちから叱られるのは必定である。 座頭に教えたりなどすれば、あとで被害を受 地理に詳しい酒屋の小僧が、その家の場所を の家に来て、金銭をねだるのを業とする盲人。 伊吹 配当は配当座頭のことで、祝儀不祝儀 はいとうハ御用たまして内をき、

の金入は不吉だと詠んでいる。

まだも有ルやうに金入仕廻也

04

安八義5

さる廻しよし野を三度廻る也

120

清

賛

伊吹 しめようと、うろうろ三回くらい猿廻しが廻 野丸のまわりを、猿の芸を見せて見物料をせ 川遊びの情景。大型の屋形船である吉

> るかどうか、という吉野山の桜見物のむつか しさを言った成句「吉野は三度」の援用だろ るのである。三度訪ねても満開の桜に出会え

よしの丸はるかの谷にさるまわし

句で、 賛。「吉野は三度」なるほど。 実際の回数ではない。 賛。「吉野は三度」を利かせた趣向の

121 金入レにとび金もうるふきつ也

なるほど。

伊吹 に飛び散るような印象の名の、飛金モール製 しいと思うのが人情なのに、その金銭がすぐ る毛織物。とあり、主題句が引用されている。 モール地に金糸の織模様が飛び柄になってい 出来るだけ長く金銭が金入に入っていて欲 飛金モールは、『日本国語大辞典』に、

清

122 色男引もくでする後家と恋

伊吹 引目は引目題目の略で、理屈を言うこ

ぐになびいてくる。だから孤閨を守る後家を、 とである。色男は、引く手あまたで、女はす わざわざ口説くこともない。そのため後家と

だとか、何かと理屈をつけねばならない。

ひけうな色男若後家にか、り

苣二13甲

恋をするときは、あまりに哀れに思ったため

とあり、後家との恋は金品を貢がせるための 主題句を引用している。註には、引くが目的 相手をたらして金品を提供させることとし、 『江戸語大辞典』では〔引目〕として、

自」と同意とする。

『角川古語大辞典』には 辞典』は「引目」で立項するものの「引目題 は「ひきもくだいもく」で立項、『続雑俳語 小栗 「引目」がよくわからない。「日国」 解もあるのでは。

見当らず。類句を調べると、 くれの文引きもくたいもくの長サ わりひざて引きもくをいふ下女か宿 安二智4

だが、引用句が主題句だけなので、少々心配。 並べ立てること」の意でつじつまはあう。『江 屈を言うこと。くどくどと故事などを引いて 戸語大辞典』の解釈は、主題句にはピッタリ の二句のみで、いずれも「日国」のいう「理

他の用例がほしい。

清 「引目」解らず。句解保留。用例を集め

123 よふさんじますまいとむこりちぎ也

ことができません、と律義な入り婿が言って 伊吹 いくら遊里へ誘われても、決して参る

のだろうか。

いたつらにむこをさそつてよわらせる 天八麗1

小栗

賛。「よう参じますまい」という口調が、 いかにも律儀な婿らしい。商家の婿?

124 おはぐろの小言下よつ程口かさけ

を言うときには、裂けるほど口を大きく開け わからない。だからお歯黒途中の女性が小言 口が自由にならないから何を言っているのか のように、お歯黒を付けているときの女性は、 伊吹 おはくろへ下女うか、つて解せぬ也 拾二28 伊吹 け金を支払ったというのは、なんとなく釈然

安五松5

ねばならない。 賛。唇がしびれている。 わかりかねるハおはくろの小言なり 安七義4

> 伊吹握々は、『日本国語大辞典』に、 病人のにぎくくをするけちな事

ても物欲から離れられない病人を詠んでいる として主題句が引用されている。病気になっ ①(ロ)つかんだら離さないこと。

小栗 賛。「けち」は、どう訳しますか? 八篇の礎稿で、 病人の色目を遺ふけちな事

の解釈に困り果てました。 病人のそこらをさがすけちな事 八26

キリした解を得たいものである。 清 この句も、どうもよくわからない。スッ

126 大三十日名イ作ものできりはらい

伝家の宝刀を売り払い、その代金で掛

ないか。 で、大晦日を切り抜けようとしているのでは ある。当るを幸い斬り払う宝刀のような弁舌 ている家に都合よく名刀があるのは不自然で としない。作った句にしても、支払いで困っ

後説に賛。様々な理由を述べて。 大晦日能く廻るのハロ斗

六 35

63

新家 完 選

投句273名

受けた恩ぼちぼち返す募金箱 伊藤

良

い人からいっぱいお世話になってきた。皆様 (評) 生まれてから今日まで、数えきれな

への御礼に替えての、ささやかな募金です。 香芝市 大内 朝子

赤い羽根善人らしくしてくれる

はその効果を知った上でのカモフラージュ。 あり善人の証? 代議士連中がつけているの (評)胸につけた赤い羽根は募金した証で

呆け防止孫に寿限無を伝授する 三浦

めには間違えてはならず、最高のボケ防止。 利水魚の水行末雲来末風来末~~。 教えるた (評) 寿限無寿限無五劫の擦り切れ、 川本真理子

娘からの絶交状も取ってある

願わくば、笑い話のネタになっているように。 の証なので親としては捨てられないのだろう。 (評)残すべきものとも思えないが、大事件

初恋の人の旧姓しか知らぬ

け。ふんわり懐かしくちょっと切ない。 が、顔と一緒に思い出すのは親しんだ名前だ (評)結婚したとは風の便りで聞いている 柳田かおる

直感で生きて生傷たえまない

先して走ってきた。「生傷」はあちこちにぶ つかって出来たハートの打ち身だろう。 (評)あまりうじうじ逡巡せず、閃きを優 玉

老い方の手本を見せる車椅子

たものを嘆かず前向きに! そのポジティブ な生き方が後輩たちに勇気を与えている。 (評) 車椅子は不便なこともあるが、失っ

たっぷりと眠って歳は忘れよう 藤井

余計年寄り臭くなる。眠るのが最高の薬だ。 と。疲れると元気者でもネガティブになって (評)老化現象の一つは疲れやすくなるこ

難しや花にケーキに薬の名 西宮市 緒方美津子

ア等々。ケーキではフィナンシェ、ティラミ ス、ショコラ等々。薬に至っては支離滅裂。 (評) 花ではアベリア、コリウス、カルミ

コロナ後もマスク外せぬ顔である (評)外出時には必ずという習慣が身につい

松江市 中筋 弘充 てしまって、外すと何やら落ち着かない。顔

もマスクを気に入ってしまったようである。 伊達 郁夫

富士登山喜寿の少年夏帽子

百歳の母に負けてる骨密度

神戸市

惚けてなどいないど忘れ続くだけ

羽曳野市

歩行器と一緒に母がやって来た 田賀八千代

篤

ミヨちゃんは写真のままで八十路坂

短冊に託す感謝とありがとう 枚方市 藤田

「なななんと」その口上で買いました 武人

則彦

食レポの決まり文句の「柔らか~い」 福島 弘子

経済に貢献すべくワイン買う

神戸市 みぎわはな

モエ・エ・シャンドンの棚を横目に安ワイン

フランスでプラチナ賞に里の古酒 沖縄県 モモト

富田林市 山野 寿之

コンビニのおでんが匂い出す初秋 加代

妹能令位子

まだ元気枠にはみ出す筆の跡

奏子

強いのか組手も見たい「型」空手 ネガオールドカーWクラッチ踏むガッツ 人差	野羅天	親しげに老いという字に居座られ	いかんせん5年ぶり食あたり 死ぬ	生駒市 飛永ふりこ	晩酌はきっちり脈はとびとびに	墓参り済ませ焼き肉食べに行く 彼岸	岡山市 丹下 凱夫	ニュースならNHKと決めている信長	弁当の優先席の卵焼き	越谷市 久保田千代	すれ違うだけで弾ける鳳仙花フル	青竹のしなりが欲しい喜寿の坂 沖縄	神戸市 山﨑 武彦	回転寿司親父の皿を越えていく	ビアガーデン行きたかったな夏終わる 団結	堺 市 今井万紗子	あとはもう猫と寝るだけ猫も知るおば	朝霞市 前田 洋子	眉の傷過去は語らぬ迷い猫 流れ	神戸市 槙田 次郎	蔵書処分あとの本棚猫が寝る地域	河内長野市 穂口 正子	媚びないが愚痴を言わない猫が好き 御供	岡山県 藤澤 照代	秋の風猫と並んで大あくび わが	/ 朝市 正日 竹質
ネガティブの何が悪いと独り言人差し指人を指しては叱られる	阪井	無頼のひと糖尿病に弱音吐く	死ぬことの適齢期とはいつのこと	岡山市 大石 以	冬はそこ乾布摩擦に精を出す	彼岸花咲いたあたりに肥料撒く	宝塚市 岸田 一	信長の倍の人生ぽこぽこと	会えぬ人お悔やみ欄で会えました	鳥取県 斉尾くにこ	フルムーンみやげをどんと宅配便	沖縄展一周したら大荷物	池田市 太田 4	一人立ち先立つものの価値を知る	団結の時を知ってる鳥の群れ	神戸市 富永 並	おばさんになったら男より強い	倉吉市 牧野	流れ星消えた辺りが君の街	交野市 山野 日	地域により使いわけますアホとバカ	神戸市 敏森 宍	御供えのメロン頂くのはワ・タ・シ	大阪市 岡田 一	わがままを黙認されているメロン	プロゴ 平井身智子
あの頃は良かったとあの頃も言った青森県 月	恵子 コスモス咲いた震災の河川敷	大阪市	われ思う故にストレス湧いてくる	洋子 唐津市 仁部	Zoomですどこでもドアじゃありません	佐賀県 真島久美子	万彩 スマートフォンすぐカーナビを駆逐する	鳥取市	罪悪感ただ朝寝坊するだけで	河内長野市	柳友の最後の手紙読み返す	唐津市・	省三 借りた句集正面向いて読み下す	津山市	たまに載り脳の老化度チェックする	恭子 箕面市 ::	縦書きに慣れて横には書きにくい	芳光 西子市 日	自分の句あとでいちゃもん付けてみる	双葉 美作市 🛚	吟行に行ってた頃が華だった	市	作句中気付くお葱の買い忘れ	恵子 大阪市・	軽妙洒脱・奇人変人・川柳人	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
た月波		森廣子		1部 四郎	りませ	具島久並	及する	副井ゆたか		山岡富美子		山口高明		高橋由紀女	ବ	出口セッ子		黒田 茂代	る	岡本 余光		谷口		大川 桃花		NING COL

	V.	首相変わっても政治は変わらない			香にふれ杖つく足も勇み立つ		背伸びした分だけ地盤整える
和夫	宗	尼崎市	平	上山	鳥取市	北山まみどり	黒石市 北
		公約はすぐに忘れる金バッジ			足も速い舌も滑らかまだいける		アルバムの中に息子に似た私
敏昭	奥園	池田市	石澤はる子	石澤は	黒石市	石田 孝純	大阪市 石
		影まとう新内閣のやじろべえ			症状を言えば薬がまた増える		上澄みの下に沈殿してる自我
一樹夫	山本三樹夫	名古屋市	玄也	村上	堺市	米澤 俶子	大阪府 米
		改革もどうせ口だけ新政府			同い年呆けも同時で困ってる	わ	やっとれんやっとられへんので寝るわ
凱柳	屮	鳥取市	舞夢	榎本	大阪市	橋 芳山	松江市 石橋
		末席から正論が出て場が締まる			天然と惚けとの境泳いでる		喋ってなんぼの夫に天罰失語症
敏治	澤井	堺市	良子	川島	横浜市	安土 理恵	桜井市 安
	ス	リーダーのことば選びに要るセンス		~	日めくりを一度に二枚老いの日々		取り敢えず鉛筆書きで予定表
正彦	初代	高槻市	和男	今村	大阪市	正和	三田市 堀
		生きている証か痛いトコだらけ			百寿まで断捨離延期まだ傘寿		黒板が活躍迫るスケジュール
公美代	太田扶美代	藤井寺市	巴子	広島	箕面市	津守 柳伸	大阪市 津
		躓いた時も寄り添う影法師			運命線短いけれど古稀通過		演歌聴き脳にビタミン補給する
修平	谷口	三田市	純子	屮	香芝市	岸本 宏章	鳥取市 岸
	イス	言い聞かすこの坂越すとパラダイス		と言う	「ご老体!」と呼ばれ素直にハイと言う		ごつい手の温みを記念帳に貼る
英也	谷	枚方市	孝雄	桑名	香南市	大島ともこ	河内長野市 大
		子規に倣い法隆寺へは柿持参			良い嫁を演じ続けて過食症		斜めから陽が差し目立つ床のゴミ
貴子	磯島福貴子	大阪市	のきこ	折田あきこ	大阪市	片山かずお	高槻市 片
		階段を斜めに上がり寺参り			外国語氾濫してる魚売り場	た	トリセツは読まずなんとかやって来た
雅美	脇田	江南市	博	村田	三田市	上田ひとみ	三田市 上
		快食快眠それで十分ではないか		lii.	外食とコンビニだけで暮らせる世		でもだってだからとダ行駄駄捏ねる
憲彦	内藤	堺市	幸子	門村	鳥取県	前田 廣幸	唐津市 前
	に居る	若ぶってアキバのメイドカフェに居る		4	三度ずつ欠かさず食べるのも仕事		鯛の骨怖いゆっくり箸の位置
洋子	川名	八王子市 川名	孝子	岸本	鳥取市	山口ヨシヱ	三木市 山
	L	長生きを自慢しながら死ぬはなし			飴玉を舌で転がし新茶飲む		最後まで食べるが礼儀鯛あら煮
子	尾崎	三田市	敏郎	東	大阪市	内田志津子	大阪市 内

宣伝のサブリその気にさせられる GoTot	鳥取県 山下 節子	遺伝子にサービスはないだんご鼻 ヤレヤレの	明石市 瀬島流れ星	手をとって歩いた日から母は老い 週末も自粛	河内長野市 森田 旅人	何故という疑問が生んだノーベル賞 運動会オリ	三田市 多田 雅尚	蟹なんてと地元庶民のやせ我慢	鳥取市 奥田 由美	名月を拝むパジャマの夜尿症	河内長野市 中島 一彌	盛りすぎたオープンサンド四苦八苦 お祭りの針	高槻市 島田千鶴子	蟻の群れどこに潜むか司令官 医はやは5	神戸市 上田 和宏	転がっても丸くなれない石もある 取っちゃが	松山市 大内せつ子	合鍵を作る理由は聞かれない数字だけば	尼崎市 山田 耕治	直せない自分に甘いだらしなさ マスクして	尼崎市 藤田 雪菜	血圧に気を付けましょう正義感マスク越ー	米子市 竹村紀の治	; ; ;	神戸市 城戸 誓子	神戸市 城戸 誓子
GoToを心ワクワク予定表	岩国市 上村 夢香	ヤレヤレの自粛解除もマスク越し	高砂市 松尾柳右子	週末も自粛なれして家にいる	岸和田市 雪本 珠子	運動会オリンピックもやったので	大洲市 花岡 順子	巣ごもりの膝に油をさす散歩	箕面市 中山 春代	もうすこし身を構わねば家ごもり	東大阪市 北村 賢子	お祭りの歓声消したのはコロナ	海南市 小谷 小雪	医はやはり算術だった新コロナ	横浜市 加藤 佳子	取っちゃだめマスクの君が好きだから	豊中市 上出 修	数字だけ減ってもねえと言うマスク	松山市 郷田 みや	マスクして霞む眼鏡に滲む月	宝塚市 丸山 孔一	マスク越し墓とお話しする彼岸	貝塚市 石田ひろ子	ゴミ出し日マスク忘れたエレベータ	し日マスク忘れたエレベータ 大阪市 高杉 力	杉
人恋しワイングラスは伏せたまま	食 大阪市 若本 安代	友情を裂かれたような休肝日	ナ 三原市 笹重 耕三	下戸だって付いて行きたい飲みの席	子 鳥取市 前田 楓花	甲乙つけ難いぜんざいとお酒	藤井寺市 鈴木いさお	「お開き」の声に未練の猪口を舐め	化 尼崎市 永田 紀惠	秋夜長熱燗さそうおでん鍋	十 米子市 伊塚美枝子	亡父への土産は灘の生一本	橿原市 居谷真理子	女には弱くて酒に強い血で	十 米子市 成田 雨奇	問診で酒量を聞かれ年四斗		久久の外食夫と生ビール	大阪市 宇都満知子	宣言解除待ってましたと飲み仲間	一 広島県 村上 和子	生存本能ワクチン列の最後尾	大 枚 方市 丹後屋 肇	コロナより怖い死神の手招き	コロナより怖い死神の手招き 豊橋市 八甲田さら	コロナより怖い死神の手招き 豊橋市 八甲田さら

文春は波紋を越えた仕事人 波紋とはいずれは消える空しいね 肩抱いた腕が波紋を消しました 振り向いて欲しくて小石投げている 古池に何か落ちたか円い波 何もかも吞み込み水面静かなり リツイートまたリツイートリツイート 逆効果良かれと思い投げた石 大袈裟に言うほど波紋広がらぬ 後手後手の総理退陣だけ先手 触れないで愛の波紋が歪むから 波紋広げたのは一片の小石 目立つため嘘の小石を投げておく 波紋の真ん中へ潜り裏を見る 始まりは小さな誤解だったはず 波 紋 桒 原 和歌山市 寝屋川市 寝屋川市 藤井寺市 東大阪市 枚方市 道 尼崎市 米子市 札幌市 鳥取県 大阪市 三田市 大阪市 鳥取市 夫 三浦 長尾 今村 太田扶美代 まつもともとこ 上田ひとみ 選 照彦 和夫 宏之 郁夫

共選欄

(薫風書、カットとも) (投句333名

K. K

波 紋 久保田 千 代

どんぐりの落ちた波紋に山動く 自粛後の値上げの波紋あっちこち 大物の発言うごく株相場 フクシマの風評被害忘れまじ 反核の波紋広がれ永田町 プレートのずれた波紋で大津波 言の波紋が山を動かした 鳥取市 三田市 岡山市 松山市 大阪府 吉田 丹下 栗田 村田 齋藤さくら 選

温暖化に波紋を呼んだガソリン車 羽曳野市

河内長野市 徳山みつこ

藤塚 克二

河内長野市 寝屋川市 富山ルイ子 木見谷孝代

米中の波紋世界をかき乱す

気象異変物理で解いたノーベル賞

波風をたてるつもりはない尻尾

河内長野市 豊中市 藤井 森田

鳥取市 成田 谷口回春子 雨奇

米子市

泥水を啜り波紋の中にいる

大阪市

阪井

静寂に予期せぬ小石飛んできた 生きているからには波紋残したい 古池の波紋に我を思い遣る

東京市 桁尾 奏子 次紋一つ立つ水鳥の清清し 枚方市 栃尾 奏子 水馬が止まれば出来るその波紋 大阪市 横口 真 息抜きに投げたジョークの呼ぶ波紋 大阪市 阪井 恵子 投げかける波紋本筋浮き上がる 大阪市 阪井 恵子 投げかけた言葉が揺らす風の渦 た阪市 横山 里子 ささやいて続く波紋を待っている 増戸市 横田 次郎 日一歳波紋となって子ら巣立つ 日一歳波紋となって子ら巣立つ 日一歳波紋となって子ら巣立つ がかきがぶいとの世捨てがたい 母神戸市 横田 次郎 石二つ投げて波紋を競わせる さざ波を立てる小石を持ち歩く つぶやきが波紋 結束した介護 単中市 松尾美智代 何気ない一言でした大炎上 有明海夕日の干潟美しい 大阪市 円後屋 肇 千枚田裾野へと稲穂の波紋 にから前 ア井美智子 枯山水妙なる波紋動と静 た阪市 写信シマ子 枯山水妙なる波紋動と静	海に石投げても目立たない波紋	若葉から一滴波紋を描く池	わたくしを開けば微かなる波紋	無住寺の池で波紋をえがく鯉	秋の波紋山から紅葉下りて来る	確信犯石投げじっと待つ波紋	腹括り小石をひとつ放り込む	なるようになるさ波紋も消えてゆく	ひそひそと噂ざわざわと立つ波紋	息抜きに投げたジョークの呼ぶ波紋	口下手の愛想ひと言波紋呼ぶ	ポケットの小石波紋をまた一つ	石投げた波紋がつくるボクの池	穏やかな日日に小石を投げ入れる	客船の波紋消えるまで送る	ごめんねが言えた波紋が消えていた	泥水を啜り波紋の中にいる	嘘がばれ波紋広がりそのまんま	波紋消え疑惑はいまだ消えぬまま	波紋だけ残し総裁選終わり	美しき波紋月明かりにかぐや	髪を切る想定外の波紋呼ぶ
本当を言えば波紋となる舌禍 変子 本当を言えば波紋となる舌禍 変子 本当を言えば波紋となる舌禍 変子 と言の波紋脈わぬでかい顔 恵子 投げかける波紋本筋浮き上がる を言の波紋脈わぬでかい顔 を言の波紋脈わぬでかい顔 を言の波紋脈わぬでかい顔 を言の波紋脈わぬでかい顔 を言の波紋脈わぬでかい顔 を言の波紋脈わぬでかい顔 を言の波紋脈わぬでかい顔 を言の波紋脈わぬでかい顔 を言の波紋を持っている でがまない一言でしたてず泳ぐ母 でがまない一言でした大炎上 有明海夕日の干潟美しい で子 にいる が出来るその波紋 を持っている でがまない一言でした大炎上 有明海夕日の干潟美しい を音の波紋動と静 お里の稲穂の波紋風さやか 千枚田裾野へと稲穂の波紋 が出水妙なる波紋動と静	大阪市	枚方市	大阪市	阿南市	豊中市	神戸市	神戸市	大阪市	明石市	高槻市	豊中市	桜井市	池田市	神戸市	弘前市	大阪市	大阪市	大阪市	大阪市	鳥取市	枚方市	黒石市
介 歩 る た け 紋 立 木 て の が 呼 波 禍 さ ないる つ 香 い 渦 る ぶ 紋	宮﨑シマ子	丹後屋 肇	平井美智子		松尾美智代		20				齋藤奈津子					大沢のり子		山本加お里		:27		石澤はる子
	枯山水妙なる波紋動と静	千枚田裾野へと稲穂の波紋	鄙里の稲穂の波紋風さやか	有明海夕日の干潟美しい	何気ない一言でした大炎上	つぶやきが波紋 結束した介護	さざ波を立てる小石を持ち歩く	石二つ投げて波紋を競わせる	一石が波紋ひとの世捨てがたい 丹波篠山市	つぶやきがSNSに火を点ける	着メロが秋の夜長に呼ぶ波紋	百一歳波紋もたてず泳ぐ母	母は海波紋となって子ら巣立つ	泣いて笑って数多の波紋吾木香	ささやいて続く波紋を待っている	投げかけた言葉が揺らす風の渦	投げかける波紋本筋浮き上がる	失言の波紋厭わぬでかい顔	息抜きに投げたジョークの呼ぶ波紋	水馬が止まれば出来るその波紋	波紋一つ立つ水鳥の清清し	本当を言えば波紋となる舌禍
	近藤 正	宇都満知子	原徳利	岩切 康子	北山まみどり	山本 昌代	村上 和子	片山かずお	酒井 健一	村上 玄也	安土 理恵	長川 哲夫	水野 黒兎	福島 弘子	寺本	小川 道子	飛永ふりこ	中村 金祥	初代 正彦	長谷川崇明	杉野 羅天	小畑 定弘

気味悪い波紋描いて池の蛇	波紋だけ残して男バスを待つ	石投げて私の居場所確かめる	湖面の波紋如きに噂押し寄せる	どんぐりの落ちた波紋に山動く	挨拶をせずに無言で去る波紋	さざ波を立てる小石を持ち歩く	波紋などございませんと言い波紋	追伸に小さな波紋期待する	喋り過ぎ波紋なかなか広がらず	すこしだけ波紋恋しい老いの秋	波紋呼ぶ言葉が的を衝いてくる	ポンと石投げて本人雲隠れ	波紋の大きさへ石の知らん顔	雑魚が跳ね小さな波紋あちこちに	波紋生むための礫にならなろう	一石を投じ波紋を見る古老	一石が波紋ひとの世捨てがたい	一石を投じ行く先確かめる	一石を投じただけの秋でした	小石投げ池の波紋を見る政治	古池の波紋に我を思い遣る
富田林市	堺市	貝塚市	鳥取市	岡山市	笠岡市	尾道市	豊橋市	岩国市	美作市	羽曳野市	宮崎県	奈良市	寝屋川市	岸和田市	弘前市	三田市	丹波篠山市	八尾市	佐賀県	札幌市	豊中市
山野 寿之	柿花 和夫	吉道あかね	山下 凱柳	丹下 凱夫	藤井 智史	村上 和子	小松くみ子	上村 夢香	岡本 余光	三好 専平	惠利 菊江	大久保眞澄	廣田 和織	雪本 珠子	高瀬 霜石	九村 義徳	酒井 健一	村上ミツ子	真島久美子	小沢	藤井 則彦
氷山の溶けて崩れて浮く波紋	大小の波紋収めるいぶし銀	匿名が自由自在にする波紋	波紋だけ残して男バスを待つ	追伸へ波乱の種を忍ばせる	親展とある波紋をよんだ女文字	拡がらぬ波紋メディアの事なかれ	じわじわと広がる文春の波紋	翔平の波紋がベーブルース超え	大リーグに激震起こした二刀流	高飛び込み技倆磨いて波紋ゼロ	池越えのショットへ薄情な波紋	帰国したポニーテールの呼ぶ波紋	皇室に波紋を呼んだ姫の恋	眞子さまが民間人になる波紋	根も葉もない噂波紋が止まらない	揺れ動くこころを飲んでゆく波紋	淋しくて池に小石を投げてみる	逢いたくて小さな波紋へ秋を呼ぶ	わたくしを開けば微かなる波紋	波紋回避 真一文字	輪違いのふりして波紋躱してる
て浮	いぶ	する波	バスカ	忍ばせ	よんだ	イアの	文春の	ブルー	こし	いて	へ薄	ルル	だ姫	にな	紋が	飲ん	を投	波紋	微か	字にな	波紋
く波紋	り銀	紋	を待つ	3	た女文字	事なかれ	の波紋	- ス超え	た二刀流	波紋ゼロ		の呼ぶ波紋	の恋	る波紋	止まらない	でゆく波紋	けてみる		なる波紋	真一文字になっている。	い躱してる
く波紋 西宮市 亀岡	し銀 三木市 山口	(xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx	を待つ 堺市 柿花	今治市 永井	た女文字 奈良市 米田	の事なかれ神戸市奥澤洋次郎	の波紋 三原市 鴨田	- ス超え 米子市 竹村紀の治	た二刀流 京都市 清水	波紋ゼロ 大阪市 岩崎	情な波紋 藤井寺市 鈴木いさお	の呼ぶ波紋 香芝市 大内	の恋 奈良市 大久保眞澄	る波紋 大阪市 川端	止まらない 弘前市 福士	でゆく波紋 富山市 伴	けてみる 大阪市高杉	へ 秋を呼ぶ 和歌山市 松原	なる波紋 大阪市 平井美智子	はっている 和歌山市 柏原	い 躱してる 鳥取市 池澤

広がる波紋やがてハートになりました	石二つ投げて波紋を競わせる	抜け落ちてしまった波紋の中心	秀句	揺れ動くこころを飲んでゆく波紋	波紋などなかったようにミズスマシ	哲学を学び波紋を考える	波紋の真っ只中でお昼寝中	おかしいか私の波紋愛してる	さよならと言って波紋の消えるまで	大波が波紋を消していくのです	身の丈の波紋と遊ぶミズスマシ	何気ない音に反応する波紋	咳ひとつ投げて波紋を確かめる	石投げたほうが驚いてる波紋	石投げて波を静かにさせました	淋しくて池に小石を投げてみる	同じ匂いの人と波紋を一にする	水切りの小石にだって意地がある	しっかりと波紋の中でみる世間	広がった波紋はただのゴミだった	四角い石で丸い波紋を生む不思議
大阪市	高槻市	松江市		富山市	松山市	松江市	松江市	大阪市	土佐清水市	倉吉市	岐阜県	三原市	河内長野市	宇部市	岡山市	大阪市	神戸市	弘前市	河内長野市	高槻市	堺市
島田	片山かずお	石橋		伴	柳田山	相見	藤井	笠嶋	辻内	牧野	喜多村正儀	鴨田	村上	平田	工藤工	髙杉	米田和	稲見	辻村	富田	澤井
島田明美	かずお	芳山		伴 よしお	柳田かおる	柳歩	寿代	惠美	次根	芳光	村正儀	昭紀	直樹	実男	工藤千代子	力	米田利惠子	則彦	E D	保子	敏治

うろたえぬ波紋はやがて消えるもの 雑魚跳ねて波紋も出来ず泡ひとつ 道草を覚えた少年の波紋 波紋生むための礫にならなろう 身の丈の波紋と遊ぶミズスマシ 群雀老いの波紋は知れている 石投げて私の居場所確かめる 空瓶は漂流したい海がある 湖に枯れ葉一枚ほどのこと 病葉が水面に散っただけのこと 捨てておく波紋はやがて消えるから 人の口戸がたてられぬから黙る 何もかも吞み込み水面静かなり 水の輪を静かに追って平和な日 波紋などなかったようにミズスマシ 大波が波紋を消していくのです 温暖化の波紋へ地球あえぎ出す 寝言でもいったか秘密ばれていた ひと粒の嘘がまぎれてよぶ波紋 ひそひそと噂ざわざわと立つ波紋 一石の波紋怒濤に世を変える 土佐清水市 和歌山市 藤井寺市 三原市 弘前市 奈良県 香南市 貝塚市 青森県 概原市 大阪市 神戸市 松山市 倉吉市 尼崎市 芦屋市 明石市 大阪市 奈良県 大阪市 室田 辻内 樋口 富永 牧野 桑名 月波 北原 糀谷 喜多村正儀 柳田かおる 藤井 渡辺 折田あきこ 吉道あかね 居谷真理子 太田扶美代 上野多惠子 原田すみ子 霜石 行久 昭枝 宏造

路

役句 222名

代 IE. 彦 選

初



母ちゃんのドーナツ食うた自首します 未練がましく壇蜜に首ったけ 美しい嘘も言いますネックレス 外出が出来ず泣いてる首飾り 本当は免職だったかもしれぬ 首洗っているのに斬ってくれません 首の皮一枚でよく生きてきた 父さんの家族支える太い首 スカーフが小粋に隠す首の皺 手編みのマフラー心待ちのキリン ロボットに切っていただくオレの首 一目惚れ白いうなじのバックシャン 首筋にほんのり若い君がいる 一周忌なみだ残っているうなじ 河内長野市 南あわじ市 笠岡市 浜松市 香芝市 奈良市 弘前市 岐阜県 熊本県 枚方市 大阪府 岡山市 三田市 森田 中田 岩切 稲角 澤井 兴 藤田 喜多村正儀 大久保真澄 純子 智史 凱夫 康子 武人

> 首根 首横に振れる気概は衰えず マッチング首から下はタイプです 首のない群れがおろおろ暮れの街 太い足首にストレスへばりつく 若づくり努力無にする首の被 バスタブの縁に預ける今日の首 頷いた首ほんのりとさくら色 人生の機微を知ってる首の皺 スカーフを巻いて華やぐ老いた首 L着ても憧れがある鶴の首 いきまいて首のあたりがうそ寒 っこ押さえる妻の太い腕

> > 富田林市

橋本市

隆彦 明美

大阪市 香芝市 池田市 米子市 神戸市 大阪市

> 上山 後藤美恵子 みぎわはな 原田すみ子

朝子 堅坊

佐賀県

木田比呂朗 真島久美子 奈良県

渡辺 中村 石田 島田 大内

句

極楽の首が浮いてる露天風呂 反骨の首には刺も矢も刺さる 夢を食む首長くしてフラミンゴ ぬばたまの天突く元気細い首 ヒマワリの落日首が折れている 晩餐に呼ばれ首枷つけられる

久保田千代 百歳の勲章首に深い 故郷を探しキリンの首たわむ

新春を愉しみにしている鶴首

ネクタイを外すとパパになる戦士 頷いた首は会社に置いてきた

三原市 宝塚市 弘前市 私の疑問キリンの首と河馬の首

大阪市 越谷市 奈良市

津村志華子

米田

恭昌

天花粉お風呂上がりの首が好き 窓際の風首筋を寒くする

迷いなど微塵も見せぬ太い首

貝塚市 石田ひろ子

松山市

栗田

大阪市

平井美智子

熊本市 札幌市 唐津市

杉野 小沢 出口

羅天

櫃原市 居谷真理子

西宮市 緒方美津子

- 72 -

高明

「ピクピク」

役句 瑠美子 229名)

選

こめかみが引きつっている怒ってる 心音は微か生命のリズム抱く 図星を指され顔がピクピク狼狽える 運命を悟りピクピクする魚 釣竿のピクピク感が堪らない 残酷でも踊る刺身に舌鼓

敏感な鼻で好物嗅ぎ分ける

浮子ピクピク突堤に秋深みゆく

今しばし我慢しましょう足がつる 頬をピクピクさせて文句を言いたそう 犬こほどでないが鼻には自信ある 聞えてくる内緒話に耳尖

嘘らしい小鼻ピクピクしはじめた 羽曳野市 滕井寺市 高槻市 鳥取市 香芝市 倉吉市 大阪市 大阪市 豊中市 牧野 水野 村上 宇都宮ちづる 坂 片山かずお 江島谷勝弘 太田扶美代 裕之 芳光 孝子

小鼻ピクピク何か隠しているらしい 羽曳野市 藤井寺市 広島市 海南市 徳山みつこ 鈴木いさお 小谷

心臓の早打ち君がそばにいる 目の下のびくびく隠す秋帽子 核心をつくとピクピク動く鼻 相槌打つ頬がピクピクする本音

あの人のたった一言胸を刺す 君が住むキンモクセイの香る家

> 奈良県 神戸市 鳥取市 神戸市 山口 小野 中原比呂志 光久 ピクピクで最後は止まる心電図

> > 和歌山市

柏原

坂上

三田市

奈良市

米田

羽曳野市

吉村久仁雄 古今堂蕉子

大阪市

札幌市

大阪府

米澤

黒兎 玄也 ピクピクを未だ続けてる再稼働 ピクピクと心の襞が病んでいる 老眼の魚食いついてきた擬似餌 一呼吸待てば見事な睨み鯛

ピクピクとまだ動いてる闘争心 ピクピクと跳ねる小さな下心 歳をとってもまだ控えめに武者震 こめかみがピクピク噴火する気配

規則正しく動く心臓宝物

ピクピクと解散風へ動く鼻

魔女の飼う金魚一匹生き返る

空港で大活躍の麻薬犬

脈拍を計るピクピクする手首

ピクピクと動く刺身に箸が出る 小鼻ピクピクマスクで隠してる自慢 車海老最後のあがきに手を合わす 怪電話かピクピクさせる猫の耳 正直な男小鼻がすぐ動く お化け屋敷頬がひきつる恐怖感 吸物の素だろマツタケの匂

東大阪市

櫃原市

居谷真理子

越谷市

久保田千代 佐々木満作

藤井

則彦

貝塚市 池田市 上山

河内長野市 東京都 豊中市 森田 松尾美智代 川本真理子 吉道あかね

唐津市 仁部 四郎

佐賀県 真島久美子

唐津市 山山 高明

— 73 —

知しき数室

題 短

居 谷 真理子

ます。従って送り仮名は「短い」。「短か夜」 も書きましたが「短」は「みじか」と読み

原 上半期終えて手帳の字は乱れ

江

原あこがれて髪を伸ばすが待てずカット澤良

子

10分間ぐっすり昼寝する特技

具体的な数字を入れると句が締まります

紀美代

相棒は圧力鍋という時短

時のたつ早さを感じさせて

参 せっかちを圧力鍋がよく助け

圧力鍋とは面白い着眼

以前この欄で「短い」という題が出た時

通常は「短い」です。今回も多くの方が「短 などと例外的に表記することもありますが、 かい」「短かく」などと書いておられました。

> 原 右むいて左むいたらこの年や 参上半期終わり手帳の字もあわて

不二夫

原 同じ刻日暮れ早まる群雀

「この年や」のユーモアもいいですが、淋

しさもチョッピリ混ぜて

原 八十路ですなんて短い人生なのか シンプルな方が訴える力は大きいですよ。 下七にしたのは詠嘆を強めるためですか?

(原は原句 参は参考句)

原 抱っこしてあやし育てた日は短か 智恵子 参 八十路ですなんと短い人生か

原 令和3コロナで年が過ぎそうだ

貴美江

やはり令和3年と言いたいですね。

参繰り返す問いに短くなる返事

体言止めにして余韻を…

原繰り返す問いに短かく返事する 参右向いて左向いたら老いていた

裕

子

みました。

参 抱っこした日々は短く過ぎ去った 中七がくどくなりました

参蝉七日僕にもあった全盛期 原全盛期短かかったね蝉とぼく うーん、もうひと押し!

> 参 段段と狭く短く生きる道 うーん、もうひとひねり!

原 段だんと短かくなった生きる道

原 圧力鍋せっかち主婦に喜ばれ

参ミニの娘が街にあふれた良き時代 参 古き良きミニスカートという時代

原短時間ぐっすり昼寝する特技

露

原 あのころはミニスカートの良き時代

風

男性目線ですね、アハハ

閑

参あこがれて髪伸ばしかけまたカット

下六で重くなりました

74

はもちろん後者ですね。雀にしゃべらせて

参短足はもつれにくくて転けにくい

原丁度良い季節はいつもすぐ終わる

しましょう。

参 鐘一つサビに行きつかないうちに

音外し」の説明は要らないでしょう

原音外しあっという間の鐘一つ 参令和3年コロナコロナで過ぎ去った

則

むらすずめと読めば群れをなす雀。この句 群雀―むれすずめと読めば春の季語で植物。

参長所です短い足はこけにくい

私のことを詠んで下さった?

過ごしやすいのは春や秋。ここは秋に限定

参暮れるのが早くなったと雀たち

原長所です短い足でこけにくい

岩口のぞみ	岩口	「幸」なで言わなくても伝わります	原来し方を短かく語る食中花 次郎
	蒸し暑さ色気は捨てて刈り上げる	原寝ころんで短い手足伸ばす幸 睦子	参 経も短め三回忌だし残暑だし
松田蟻日路	松田	参 待ちかねた接種日あっさりと終わる	みました。
	自分では短いはずの長話	長い間待って、すぐ終わった一日でした	秋暑し、秋の季語ですね。川柳味を強めて
未良子	樫葉	原接種日を待って待ったよ短かい日 照 枝	原 秋暑し経も短かめ三回忌 道子
	春と秋短くなって減る情緒	参 逢いたいね話したいねとだけの文	参歩数計歩数は増えて同じ距離
	[今月の推せん句]	少々思わせぶりに作ってみました	整理しましょう
行久	短足をピッチでカバー徒競走	原会いたいね話したいねと文届く 和夫	歩幅が狭くなっただけですか。スッキリと
誓子	ウンとイヤ子の返信は無駄がない	参 短気は損気腹は立てずに寝かせとく	原 歩数高喜ぶのは早い同じ距離 くみ子
	(佳 句)	こっけい味をプラス	参この夏の線香花火だった恋
	参 近道はナビの知らない小川沿い	原 短気は損気腹立てること減ってきた ひでお	ドラマを感じさせます。どんな甘さかな
	参ナビの指示聞かず最短距離を行く	参 たたかれて短い命閉じた蚊よ	原 短いね手持ち花火と甘い夏 双葉
	このままでもいいのですが	いましょう	参 短足で気は長いですDNA
厚子	原ナビよりも最短距離の小川沿い	いう思いは詠み込まず、読者に感じてもら	短があるので長も入れてみました
	参飯とお茶それだけ言って二人膳	ミヨノさんは優しいですね。「あわれ」と	原 短足でお人好しですDNA 州和 子
	ず」は無理があるように思います。	原 蚊をたたく短い死亡あわれ蚊よ ミヨノ	参 ゲンのいい鉛筆こんなにもチビた
れ付け	おひれを付けると言いますが、「ひれ付け	参一日の長さ短さ過ごしよう	その鉛筆で書いたらよく入選するとか
えい子	原ひれ付けず言葉短かく飯とお茶	参短くて長い一日どう過ごす	原 短くなった鉛筆使いゲン担ぎ 崇史
	参ズボン丈短く切って闊歩する	自粛の日々は特にそう思います	参
くい。	パンツ丈でしょうが…どうも言いにくい。	原 短いようで長い一日どう過ごす ゆき	参 ばあちゃんとチビ鉛筆は仲がいい
く、今は	ズボンという言葉も聞かれなくなり、今は	参来し方をポツンと語る老ケヤキ	「なめて」まで描写しなくても
ひとみ	原 ズボン丈短かく切って若返り	参来し方を短く語り散りました	原 ばあちゃんがちびた鉛筆なめて書く 風 鈴
	参大の字をかいた短い手と足で	なぜ食中花なのか分かりません、ゴメン	参 爽やかな秋はさっさと去りました

— 75 **—**



第27回 川柳塔まつり誌上大会

第27回川柳塔まつりは新型コロナウイルス感染症の終息の見込みが立たず、昨年に引き続いて誌上大会として実施いたしました。北は北海道から南は沖縄まで全国から558名ものご参加を戴きました。有り難うございました。

貴重な誌面に誌上大会要領をご案内、ご掲載賜りました各川柳社、個人的にそれ ぞれご支援、ご紹介くださいました皆さまのご厚情に心よりお礼を申し上げます。 またご選句の労を賜りました選者の皆さまに深く感謝申し上げます。

入選句は平抜 77句、天地人 計80句です。なお天地人位にはささやかですが賞品をお送りいたしました。

コロナ感染症は第六波も懸念されております。皆さまくれぐれも健康にご留意の 上お大事にお励みください。ご健吟とご活躍をお祈り致します。

有り難うございました。

		各	題	天	位			
家		呼	橋		Ł	選		嬉
	百歳へ一直線の名を呼ばれ	ぶ	石橋を渡り生涯名は成さず 木本 朱夏 選	助けにはならぬが身の	ント	もう一花咲かせる種を選っている	母さんのエールでっか	嬉しい
軒家はさびしいマンションは孤独小島 蘭幸 選	旦線の名を	美馬りゅうこ 兵庫	9生涯名は	ならぬが身	高瀬奈	吹かせる 内藤 害	エールでつ	江島谷勝弘
マンション 選	阪森	き選	は成さず 米夏選		霜 良 山	種を選る	取ったい場	弘選
シンは	中	藤勝		山本昌	田順	ってい	吾郷天り飯	
孤独	惠美子	Œ		75	啓	る	遊	

嬉

勝 弘

江島谷

選

兵 島 根 村中 工藤千代子 と志女

Ш

庫

毎熊伊佐男

エクモが外れやっと峠を越えた朝 コロナから全快したという便り

和歌山

和歌山 奈 大 奈 玩. 阪 良 西川 木嶋 鈴木いさお 山田美春日 ともこ 盛隆

嬉しいと顔には出せぬ不戦勝 想い出す修学旅行の枕投げ

トラ聡太勝ち大谷はホームラン

菅さんが総理をあきらめてくれて さぁ洗濯するぞ長雨が止んだ やれ嬉しワクチン終えて深く礼

大 阪 廣田

誰も来ず家族も出かけ大の字に

ささやかな夢が叶って正社員 嬉しくてポチとタマにも御報告 そんなにも尻尾を振ると千切れるよ 何となく嬉しくなって猫じゃらし

簡素だが自分の句集出来上がる

大

和歌山 大 柴田 加藤江里子

忘れてた生命保険満了す

広

北村

嬉しいないくつになってもお小遣い

5等でも嬉しい買った宝くじ 脱稿の瞬間ふわり宙を舞う

嬉しさを全部冷凍保存する 一円でも拾うとなんかうれしいな

半額セールまった値うちがありました 響き合う十指嬉しい手話の席 欲しかった本が届いた嬉しい日 文鳥のダンス見ながらティータイム 元気もらいにデイサービスに行く笑顔

少しは僕お役に立っているらしい 返礼の笑顔嬉しいボランティア 古希を機に父が返納してくれた スカタンをしたが見んふりして呉れた

北朗

60キロ切って嬉しいダイエット 出る杭は打たれひそかにほくそ笑む ルンルルン術後のトイレ介助なし 嬉しさに膨らんでいる鼻の穴 ボクの留守家族みんなは嬉しらし

坪庭の密が嬉しいミニトマト 神様も嬉しいだろうギャル神輿 通じたんです私の下手なフランス語 自粛してハワイへ行けるほど貯まる チャーシューを一枚多くしときます

帰宅した机に肉マンが二つ 北海道 大 大

中田

阪 良 良 取 岸 西澤 宮本 斉尾 島岡美智子 藤井 藤本ゆたか 桂子 宏造

北出 久保田清美 田辺与志魚 北川ヤギエ 知子

稲葉 憲彦

吉田 喜多村正儀

虹が出たただ嬉しくて夫を呼ぶ嬉しいってそりゃ決まってる妻元気	かあさんの部屋は南と設計図	ちょっとした嬉しいことも泣いて母	夢に見た自分の足で剣ケ峰	老骨も走れましたよ にわか雨	痛かった膝今朝は元気に歩けます	九十九歳嬉しい事は有りません	生きているだけで嬉しい喜寿過ぎて	3時間寝ると嬉しい歳になる	男寿命越えておまけの人生路	平和とはかくも嬉しい飲み仲間	酒飲める友が五人もいるんだぞ	年金日チョット一杯縄のれん	オッ秋刀魚かビール片手に夫の声	似顔絵を孫に貰った誕生日	たき込みごはん食べたいと孫やってくる	空蝉をつまんだ孫のしたり顔	目にするものみんな晴れ晴れ「異常なし」	嬉しそうに「いい値だ」と言う主治医	骨密度毎年減ってないフフフ	自分にも使える部位があるドナー	下着まで真っ新にした退院日
大 京	大	兵	大	兵	大	岡	大	大	兵	奈	大	兵	大	大	奈	大	青	島	愛	大	兵
阪 都	阪	庫	阪	庫	阪	Щ	阪	阪	庫	良	阪	庫	阪	阪	良	阪	森	根	媛	阪	庫
岡前田中	桑原す	近兼	松谷	萩原	松尾美智代	小林	宇都宮ちづる	川端日出夫	幸田	菱木	古今堂蕉子	九村	貝塚	近藤	屮	初代	石澤はる子	中筋	鎌田	渡辺た	谷口
恵 知子 栄	すべ代	敦子	由夏	狸月	个智代	妻子	ちづる	出夫	厚子	誠	蕉子	義徳	正子	北舟	純子	正彦	る子	弘充	昌子	たかき	修平
ありがたい大病もせず永らえて軸	母さんのエールでっかい握り飯	天	お湯割りを少し濃くした子の帰省	地	嬉しいとゴーンと胸の鐘が鳴る	,	新米が今年も届く父母元気	×印椅子にお日さま腰かける	元彼が振られたらしいオメデトウ	巨人ヤクルトどちら負けても嬉しい日	嬉しいと何でも叩く癖がある	佳 句	嬉しさを通り越したら泣けてくる	嬉しいと人が優しく見えてくる	塞いでもふさいでも笑みがこほれる	嬉しい日もう一合を所望する	友という活性剤を持っている	ラストダンスどうぞと彼の手が延びる	卒寿の父に米寿の母と食む芋煮	田舎から嬉しい便り帰るなと	女房にいまだ元気に怒鳴られる
	鳥		福		大		兵	大	大	兵	青		大	広	広	大	大	愛	愛	大	広
	取		島		阪		庫	阪	阪	康	森		阪	島	島	阪	阪	媛	媛	阪	島
	吾郷		安藤		鈴木		長島	竹原	柿花	長川	稲見		西出	大木	鴨田	山野	山岡宣	西田美	岡山フジヱ	松田鮮	笹重
	天遊		敏彦		かこ		敏子	春江	和夫	哲夫	則彦		楓楽	彦翁	昭紀	寿之	山岡冨美子	西田美恵子	ジェ	蟻日路	耕三

— 78 —

選

ぶ

内

憲 彦 選



この道でよかった広い空の下 生涯に一句を選ぶまで逝けぬ 王道を選び全身傷だらけ 選んだのはわたし人生悔いはない 阪 白井

渡辺 ヨシェ

大 安土 米田 西出 恭昌 楓楽

広 村上 今井万紗子

山下

次の世もきっとあなたを選ぶから

父さんが最後に選ぶ黙秘権

青い選択まさかまさかのダイヤ婚

選ばれて「わたしなんか」と嬉しそう

お互いが選び選ばれ半世紀

幸せな夫わたしを妻にして

まだ歩くつもりで軽い靴選ぶ

阪

富田

スッピンの私を選んでくださいな

の三十五億そのひとり

大

長高 従野

俊雄

店先で目星つけてはネット買い

大

選っているマスクに似合うワンピース

大

食べたことない進物を選んでる

圖

チャンネルを選ぶ権利は妻にある

兵

なあ試着室から出てこない

妻が選んだネクタイはよく絞まる

好きな道選び羽ばたく子の未来 親ガチャの定めを絶って切り拓く パパとママどっちが好きと子に聞くな 都合よいものだけ拾う街の声

どちらとも言えぬを選ぶ処世 ロボットに選り分けられる日が来そう

体型でダルマの役に選ばれ 肉よりも魚選べというカルテ トリアージ医療現場にのしかかる る

ちょっとでも重いキャベツを手で計る 三叉路で躓いたのは欲のせい 大きいのを選び穴から出られ な V

バーゲンで家計に似合う服選ぶ 好き嫌いよりも予算が噛みついた 迷うほど無いのに迷う服選び 今宵勝負うすもも色の下着買う 円の重みチラシを見比べる 辛いとは親を選べぬ虐待児 別姓を選び生き生き暮らす孫 婚活も昔お見合い今アプリ

和歌山 安藤 北原 古手川 村上 瀧尻 敏彦 善英 玄也

トリアージ命の重さ突き付ける 松岡 木田 柴垣 澤井 比呂朗 紀子

内田志津子 柳田かおる 竹山千賀子 吉道あかね

羽奈

山本 小山惠美子 石田ひろ子 昌代

赤松ますみ

選良の清く正しき椅子であれ	行先を選ぶ時から旅気分	一冊の本から長い旅に出る	秋灯下よせばいいのにニーチェなど	母を看るユーターン決め青い空	選ばせて母はにっこり残り物	塩むすび一つ選んで母の忌よ	究極の選択だろう尊厳死	延命のチューブの拒絶母の意気	最後まで自宅で暮らすつもりです	骨肉の情より気楽一人住む	樹木葬にするか散骨にするか	年金の範囲で選ぶ託老所	駅スーパー病院近い場所選ぶ	ブックカフェ気取った本を選ぼうか	真剣な顔で音痴の曲選び	カラオケで選んだ曲でばれた歳	やりたがる人を選べば頼りない	役員に選んでおいて文句言う	宴会は下戸の隣に座らない	結局はインスタ映えでランチ決め	秋の味選び楽しい食事会	選びぬいたフローチの位置定まらぬ
和	Ξ	大	愛	広	大	愛	愛	岡	兵	山	[86]	鳥	大	青	高	大	兵	島	兵	愛	和	京
和歌山	重	阪	知	島	阪	媛	媛	ılı	庫	П	山	取	阪	森	知	阪	庫	根	庫	媛	和歌山	斱
木本	戴	酒井	佐藤	松本	石田	西田	栗田	市田	能勢	三木	宮本	岸本	石橋	古木	桑名	岡田	小山	栂瀬	永田	松木	倉橋	山本
朱夏	けいこ	紀華	佐藤ちなみ	松本壽賀子	孝純	西田美恵子	忠士	鶴邨	利子	静江	信吉	宏章	直子	ひろ	孝雄	恵子	紀乃	栂瀬みちを	紀惠	慎吾	悦子	昌乃
ワクチンを打ちましたかで選ばれる	軸	もう一花咲かせる種を選っている	天	私も総理を選びたいのです	地	お金より顔よりやはり人格者	,	葬送はちあきなおみと決めている	偶然のホームランより犠打の自負	ピッケルの進む度胸と引く勇気	一択です生きたい生きたい生きたい	正解にするぞ選んだ道やから	佳句	天職と選んだ道にある試練	楽な道選ぶと鬼が待っている	結局は選んでしまう二割引き	あのときに下駄投げたのが大当たり	生き方はのびのびとするLサイズ	失敗は経験この道を行こう	もう一度野党に期待してみよか	民の声ちゃんと聞く党選びたい	ほくならはこの首とうに差しあける
		奈		大		大		大	大	大	愛	奈		広	広	愛	石	大	大	大	大	青
		良		阪		阪		阪	阪	阪	媛	良		島	島	知	Ш	阪	阪	阪	阪	森
		山田		奥		片岡		美馬りゅうこ	山岡冨美子	正信寺尚邦	高市すみこ	小林すみえ		俵	瀬戸れい子	三好	堀本のりひろ	池田	田中ゆみ子	江島谷勝弘	阿部	追溯
		114						¥ 3														

ŀ

髙 瀨 霜 石



ネコ 金持になるには金を使わない スーパーで人のかご見て思いつく 目印にアンドロメダを置いておく つ教え荒野へ子を放 目がみどりになると明日は 雨 阪 福士 大西 井上

正直な汗はヒントを見逃さぬ 道が決まった先生からの一言で 答えなら寿限無の中にありました 補助線を引けば答が見えてくる 梅澤 田田 喜多村正儀 上田ひとみ 盛夫 厚江

生きるヒントを探すルーペとピンセット 内田 西田美恵子 大久保真澄 志津子

カレーライスの甘さがヒントだったのか 和歌山 穐山

逆コース辿るとヒント落ちていた

たい人の言葉にあるヒント

立ち位置をずらせば見えてきたヒント 目が合った瞬間僕は決めていた 手を開く何かヒントがあるようで

神田

ミックスサンドにもちょっとしたヒント

うつむいた白い項がヒントです 今日の料理見て夕食を決めてます サバイバルのヒントをくれたダンゴ虫 キムタクをヒントに夫の髪を刈る

散歩道解決策が見えてきた

スミエ

鳥獣戯画の中に答が描いてある ボス猿がお尻を掻いたのがヒント 血圧を下げるヒントが欲しいです 結び目の中に隠れていたヒント

仲直りの鍵ゴメンネまだ言えぬ 翔平も聡太もヒントにはできん アメリカの子分で日本平和なり

將文

ぬげちゃったガラスの靴がヒントです ノーヒント愛は六十点で良い

隠しても好きと笑顔に出てしまう 読み返す古い日記にあるヒント 澄んだ目だきっとあなたは白だろう

ビビビッとヒントはドーナツの穴に 生き方のヒントをもらう立ち話 キッチンの母の背中にあるヒント 息抜きのヒントを貰う辻地蔵 幸せのヒントをあげる花あげる

あの笑顔きっと私を好いている

中筋 栗田 島田 小林すみえ 松尾美智代

大 奥 八田 齋藤さくら 赤松ますみ

柴田 藤井 川島千恵子 田賀八千代 桂子 智史 楓花

山田 葉子

佐藤ちなみ 石田ひろ子 田辺与志魚

惠利 松本あや子

	千枚田生きるヒントがきっとある	チェーホフがヒントらしいが難しい・	取り敢えず笑っておけと言う鏡	脳みそにぱっとあかりのつくヒント	見上げてごらん正解なんてない空を	謎を解くカギは円周率の中	バカの壁越えるヒントを捜査中	断捨離のヒントをくれたかたつむり	生き方のヒントを探す虫眼鏡	蛸壺の中に入っていたヒント	お針箱中はヒントの山である	寅さんが生きるヒントをくれました	居酒屋の話もたまに役に立つ	ご長寿の食卓にあるジャコおろし	臍の緒にきっとヒントがあるはずだ	キミがスキこれがヒントのすべてです・	負けないぞパンの耳から得たヒント	いい日になるぞ妻が朝から笑ってる	生きていくヒントひとまずハイと言う	ヒントならあの時あった曲がり角	鬼平をヒントに人生を生きる	投げられた藁一本にあるヒント
1000	大阪	大阪	育森	大阪	大阪	发媛	大阪	取	福島	島根	大阪	兵庫	大阪	大阪	和歌山	大阪	島根	大阪	兵庫	広島	広島	東京
			11555	4200		COME.		0000	225		77725	10000		73272171			71175		3043	nismi Debisio		
今村	銭谷まさひろ	片岡	千葉かほる	きとうこみつ	鈴木	山内もとこ	上出	後藤美恵子	柳沼	藤井	太田	敏森	原田すみ子	美馬りゅうこ	川上	平井美智子	多久和敬子	山本希久子	槇田	高東八千代	吉永	伊藤三十六
	まさ		かは	3		1		美亩			扶美代		する	りゅ		美知	和粉	希久		八工		三
和男	ひろ	加代	る	みつ	かこ	Ξ	修	学	幸三	寿代	代	廣光	子	3	大輪	子	子	子	次郎	代	団風	六
北風と太陽 恩人と恩師	軸	助けにはならぬが身の上を語る	天	砂時計のくびれがヒントくれました	地	迷ったら昭和の夕陽まで戻る	人	口角を上げれば前向きになれる	犯人は美人だったというヒント	噴水が上がるヒントが降りてくる	溶けだした氷にハッとさせられる	踏切が鳴ればそろそろ昼ごはん	佳 句	手を握り返してくれたのがヒント	題名を先に見ている抽象画	蝉時雨ふっとヒントが降りてくる	殺すにはネクタイーつあればよい	ハロウインがくれたカボチャの出荷先	そうかそうか佐藤愛子からヒント	手綱引き私の海馬走らせる	若返るヒントはきっと今日にある	赤トンボ生き抜くヒント連れて来る
		大		京		福		大	大	兵	愛	大		兵	大	鳥	兵	岡	兵	和歌	大	広
		阪		都		島		阪	阪	庫	媛	阪		庫	阪	取	庫	Щ	庫	和歌山	阪	島
		田田		山本		安藤		小野	中川	糀谷	田中	太田		米田	髙杉	門村	藤井	永見	上野	まつ	上山	俵
		田中ゆみ子							土		020			米田利惠子	12	065			上野多惠子	ولاق		14-
		み子		昌乃		敏彦		雅美	中川千都子	和郎	なお	省三		患子	力	幸子	宏造	心咲	思子	まつもともとこ	堅坊	逸子

橋

木 本 朱 夏

朝採れ

0

レタスが渡る海の

橋



選

里帰り土橋の方へ廻り道 橋の向こう何か良い事ありそうな 橋渡る前に覚える標準語 橋となる覚悟沙漠に水を引く 橋を渡るときは心でよしと言う 太鼓橋浴衣だったねあの時は 生は冒険橋を架けながら

先ず橋を渡ろう それから考えよう 疲れちゃった月を見上げる跨線橋 肝試し月と渡った沈下橋

しあわせな他人ばかりが渡る橋 ルビコンの決意真似ては橋渡る

子が育つ橋をかけたりはずしたり 雨の日の橋の向こうのラブソング 大 京

緒だから渡れた橋を振り返る

何度修理をしたことか

大 兵 大 阪 阪 桒原 田中 Ш H ゆみ子

兵 兵 大 大 阪 阪 安田 萩原 岩原 時雄 四郎

大 山野 双葉

野口 吉田 美馬りゅうこ 雄次 吹喜 善英

兵

竹山千賀子

屈強な脚を遺して流れ橋 鉄橋に肝を冷やした夏がある 飛び込んでみたくなります橋の上

鎹が橋の軋みを補修する

橋の下ブルーシートという社会 橋桁の苔にプライド絡みつく 濁流と戦う橋脚の悲鳴

橋の下トランペットはまだ初級 レミングの行進橋が揺れてい る

吊り橋も浮世も同じ揺れ具合

橋のない川にも架かる虹の橋 淀川大橋歩いた夜勤明けだった 路郎待つ橋を渡っているところ

虹の橋百年先へハイタッチ

橋渡し絵手紙ふたつ描きました あやとりの橋を渡ってから迷路 年寄りに優しさのない歩道橋 八万人橋を渡って百歳に

べたふみ坂そんな名前の橋だった 吊り橋の途中で気づく蜃気楼 吊り橋の哀しみ赤トンボがい 橋渡しばかり今宵もカップ麺 ない

後一歩向こうへ渡る橋がない

山田

順啓

辻口風来坊

松本あや子

田こいし

広 黒木 安藤 桑原すぐ代 高東八千代 敏彦 栄子

山野 杉野 上野多惠子 島田千鶴子 もりともみち 羅天

中田 尚

鎌倉 片山かずお 久保田清美

岩本 郷田 藤田 みや

石澤はる子

石橋

自転車おりて橋から眺めた夕焼け	鉄橋の夕日はふるさとへ続く	橋から見る夕焼けにふと母のこと	橋が出来ハイドロフォイル姿消す	言い訳をせぬまま朽ちる橋がある	マリッジブルー吊り橋が渡れない	年金の橋ですミシミシギシギシ	年金で渡る吊り橋あと少し	カミングアウト橋の揺らぎを止めなくちゃ	橋の位置チェック ハザードマップから	橋が出来 町が出来た 昭和だった	橋ひとつ昭和の盛り場を語る	這ってでも逢いたいのです丸太橋	跳ね橋を上げ未練断ち切りました	跳ね橋が上がる短い恋でした	しあわせの角度へ跳ね橋が上がる	桃源郷へあぶない橋はあといくつ	橋渡るたびに荷物が増えていく	渡りそびれた橋が今でも胸にある	花のかんむり老母メルヘンの橋渡る	児に還る母追いかけた橋がある	橋までは送ってくれた母が居た	北の娘へ星座の橋を母は待つ
奈	大	京	兵	大	Ш	奈	宮	爱	大	兵	大	埼	兵	変	爱	奈	大	大	大	奈	岡	兵
良	阪	都	庫	阪	П	良	城	媛	阪	庫	阪	玉	庫	知	媛	良	阪	阪	阪	良	Ш	庫
上	坂本	山本	清水久美子	平井美智子	三木	西澤	木田比呂朗	岡山フ	荻野	上田	鈴木い	前田	藤村とうそん	佐藤ちなみ	田中	安土	石田ひ	柿花	山本希久子	小林すみえ	小林	興水
純子	星雨	昌乃	美子	一智子	静江	知子	呂朗	フジェ	浩子	和宏	さお	洋子	うそん	なみ	なお	理恵	ひろ子	和夫	久子	みえ	妻子	弘
渡らねばははには逢えぬ風の橋	軸	石橋を渡り生涯名は成さず	天	丸木橋吊り橋 俺について来い	地	流された橋に政治の嘘がある	人	演目へ表情変える橋掛かり	天国の橋まで続く九十九折り	悔いのない橋を揺り籠から墓場	欄干は想いに耽るいい高さ	予防接種おてて繋いで渡る橋	佳 句	虹の橋つかめと父の肩ぐるま	海鳴りを聞いて橋桁錆びてくる	ロンド橋 犠牲になったのはだあれ	橋の向こうへ逃がしてあげた影法師	プロポーズの橋も別れの橋になり	今日もまた橋の数だけある逢瀬	浮き雲が好き陸橋も少し好き	人柱 こんな小さな橋にさえ	橋のない三途の川だ引き返す
		兵		広		大		大	青	大	兵	大		鳥	要	大	大	大	大	鳥	奈	鳥
		庫		島		阪		阪	森	阪	庫	阪		取	媛	阪	阪	阪	阪	取	良	取
		近藤		小島		三好		西出	髙瀬	土田	相元	山岡		吾郷	高市	きとう	太田	森中	栃尾	新家	居谷	中村
		勝正		蘭幸		専平		楓楽	霜石	欣之	世津	山岡冨美子		天遊	高市すみこ	きとうこみつ	太田扶美代	森中惠美子	奏子	完司	居谷真理子	金祥

呼

š

美馬 りゅうこ

馴染まない戒名で呼ぶご住職

お花見に呼んでもらえぬ雨

男

立葵母に呼ばれたように咲く

大

阪

神田

良子



呼んでいただくそれだけでよいのです

風呂沸いたと優しい声の電子音

息子一家呼んだら息子だけが来る

選

呼んだらすぐに振り向いたのは戦車 呼びかけを生でできないもどかしさ 呼びましたかいいえ木の葉が落ちただけ 婆ちゃんと呼ばれ貴方は孫ですか キラキラネーム呼べぬ教師の新学期 父さんがまた母さんを呼んでいる 自宅待機二度とお呼びがかからない 和歌山 大 大 大 富 鳥 大 奈 阪 Ш 取 良 糀谷 伴 三好 宇都満知子 山本希久子 島田千鶴子 小林すみえ 長谷川崇明 よしお 保州 和郎

誰か助けてデジタルの迷路から

一人言なのに周りが振りかえる

呼び水になった 神童と呼ばれ育った片田 手ぶらでは参加出来ないご招待 肩書で呼ばれた頃が花だった 相談をしても黙って聞く遺影 五男坊おまけと呼ばれた息子です ふり向いて振り向いてふりむい コンビニの明かりがボクを呼び止める AIが呼んでもシェーン戻らな 献杯の一口 て母 Us

読みかけの栞に呼ばれ風は秋 借金をローンと呼んでから軽 番号で呼ばれてやっと注射打て 呼ばぬのにもう足下に神無月

無礼講のはずが後から呼び出され 宮本 杉山 多田 フジ子

阪 市田

真夜中のナースコールにある遠慮 お隣のカレーの匂い呼びに来る ビルの名を呼んでもらえぬ雑居ビル

宏造

良 高木 安福

す

玉 阪 伊藤 永井 杉野 工藤千代子 両澤行兵衛 妻木寿美代 のぶよし

淋しくてどこでもドアへ呼びかける

阪

呼び出しが来ませんようにお賽銭

山積みの大根が呼ぶ道の駅

大

流木の故郷が呼んでいるわたし

元気かい胎児の返事腹を蹴る	一陣の風父の声母の声	コンビニのおでんが呼んだ小さい秋	妻を呼ぶ内線ボタンわからない	天の声よく聞きたくて耳そうじ	赤信号の地球がアトム呼んでいる	ナースコールが響く不夜城の介護	おーいおい呼べど帰らぬ星月夜	オイと呼ぶやほな男の照れかくし	旧姓で呼ばれ時間が巻き戻る	山が呼ぶ海が呼んでるアウトドア	ひらがなで呼ばれ漢字で返事する	呼び鈴を押す粗熱の取れぬまま	カーテンが揺れる次は私の番	オイなんて呼んだらえらいことになる	くん呼びをしそう女のいかり肩	お呼びなら逝こうこの世も飽きてきた	お隣と声掛け合って今日も無事	番号で呼ばれ寿司屋の席に着く	勝ちを呼ぶためなら伏せも忖度も	失礼ね引き立て役に呼ぶなんて	草引きに来いと畑が呼んでいる	下手人を前に呼子が見つからぬ
	20%	224	5	62.0					عقد	11025		Ties:	101		5525		centro.					
兵	愛姆	岐阜	鳥	大	島坦	岡	兵	石	大厅	şiţi AME	愛椒	愛細	島坦	兵	愛伽	高	岡山	鳥	兵	奈良	Ξ	岡山
権方	鎌田		取成田	伏見	伊藤	山藤井	平 吉村、	宮田	出口	参良	郷田	田中	依藤井	単 中岡	知位田	知 桑名	山高橋	取岸本	严 長島		単橋倉	龍
緒方美津子	昌子	喜多村正儀	雨奇	雅明	寿美	智史	吉村めぐみ	宮田喜美子	出口セツ子	多良間典男	みや	なお	寿代	中岡千代美	仁美	孝雄	由紀女	宏章	敏子	小林すみれ	橋倉久美子	せん
お嬢さんと呼ばれマスクで振り返る	軸	百歳へ一直線の名を呼ばれ	天	おーい雲普通の雨にしませんか	地	口笛を吹くと昭和がやってくる	,	もう少しエンドロールが呼ぶ余韻	呼び鈴をそっと棺に入れました	取り急ぎアンパンマンを呼びました	警官に呼び止められた事がある	呼び水を施す老いのよっこらしょ	佳 句	鈴木さん呼ぶと五人が振り向いた	元気かーい笑い上戸に泣き上戸	焼き芋焼けたとチロリン村が呼ぶ	夕焼けを混ぜて記憶を呼び起こす	私のウルトラマンでいて欲しい	ちゃん付けで呼ばれそこだけあたたかい	オイと呼ぶ父は武骨でシャイだった	ふる里にたまに帰れと風が呼ぶ	番号で呼ばれて顔のない会話
		大		福		高		大	大	愛	大	広		大	青	大	広	大	滋	宮	大	大
		阪		島		知		阪	阪	媛	阪	島		阪	森	阪	島	阪	賀	城	阪	阪
		森中惠美子		安藤 敏彦		辻内 次根		山野 寿之	森田 旅人	立花 眞策	阿部 俊八	笹重 耕三		佐々木満作	髙瀨 霜石	岸井ふさゑ	鴨田 昭紀	栃尾 奏子	字野 弘子	木田比呂朗	齋藤さくら	平井美智子

家

小 島 蘭 幸



5 いこと畳の家に住んでない 屋 根 の頃にはあった良いモラル

それぞれ違う時計でひとつ家に住む

家飲みの良さをコロナに教えられ 苫家ですけど美味い茶がありますよ

四畳半からのスタート花を買う 家族葬義理ある人を送れない あれ以来近づくことも出来ぬ家 取り敢えず家に帰ってからにする 仏様と小さな城に根を下ろす 台風直撃オール電化を持て余す

月光を容れて生家を膨らます 子の家の近くへ転居した通知 両隣ついに空家となりました マスクとはごぶさたしてる一軒家 れの日も雨の日もある家族 の絵 和歌山

父と母が居た頃家は花ざかり

田

北海道 鳥 H 田村 森山 美穂子

和歌山 太下 上田 紀子

多田 慕情 雅尚

石田

沢田 高市すみこ

松尾美智代

吾郷 上野多惠子 故郷はモノクロ空家連なりて 長男に築百年の荷が重い

もう視野に入れてありますケアハウス 蔓の這う館あるじはきっと魔女 廃屋へまだ聞こえます「赤とんぼ」 家並みをみんな孤独にしたコロナ

落書きを誉められ画家に憧れた 増築を重ねた頃の声がする

断捨離で心にゆとりできました

天国が見える我が家の天守閣 百態の影絵が踊る窓明かり

星がきれいだ 古民家に憧れ移住千枚田 家飲みが増えて会いたい人がいる 廃屋が語り続ける立志伝 廃屋の独り言

赤トンボ家からフワリ出て来たよ 多色刷り同居家族は三世代 リフォームの屋根くっきりと虹が立つ やがてやがて介護ベッドが並ぶ家 七十歳迄払う息子の為の家 あなたの帰る家はここしかありません

荒牧

同居する母に合わせたつり戸棚 大 片岡 長高 岸井ふさゑ 吉道あかね 宮﨑シマ子 可利惠子

勤勉に生きた証は家ひとつ

長島 此下 木田比呂朗 小川賀世子 柳田かおる 敏子 純子 加代

高杉 荻野 浩子

フジ子

喜多村正儀

岡山 フジェ

山本三樹夫 前田 山岡冨美子

川本真理子

婿殿に家の権利書見せておく	麦わら帽を待たせたままでいる生家	もう猫は飼わぬと決めた終の家	わたくしがいるから家が呼吸する	家系図に有名人はいなかった	もう灯り点くことはない亡母の家	みずいろの風が遊びに来る我が家	家を出て母との距離が近くなる	スッポンポンで暮らすぽつんと一軒家	帰る家あるっていいなケーキ買う	毎日が四コマ漫画です我が家	和気あいあい座敷童子と住んでいる	福祉バスわが家の庭が停留所	日に三度妻の手料理並ぶ贅	家系図の真ん中あたり鰓呼吸	あれも難儀これも難儀と家にいる	大黒柱は妻に変わりました	新幹線通勤ほっかほっかの一戸建	寄せ鍋の中に家族が住む平和	家業継ぐ女性杜氏がかっこいい	三世代毎日賑やかな茶の間	モデルハウス同居の母と見て歩く	まあだだよ皆んなお家に隠れんぼ
和歌山	大	和歌山	鳥	岡	大	大	大	大	大	爱	大	広	大	愛	茨	広	兵	岡	大	広	大	兵
	阪		取一	Ш	阪	阪	阪	阪	阪	媛	阪	島	阪	媛	城	島	庫	Ш	阪	島	阪	庫
三宅	赤松ま	木本	斉尾ノ	市田	八田	鈴木	伊達	油谷	寺井	郷田	栃尾	松尾	内田古	松木	樫村	吉永	野口曺	藤井	林	笹重	石田ひ	敏森
保州	ますみ	朱夏	にこ	鶴邨	灯子	かこ	郁夫	克己	弘子	みや	奏子	信彦	志津子	慎吾	日華	団風	真桜子	智史	みどり	耕三	いろ子	廣光
永年勤続家族思いの父だった	軸	一軒家はさびしいマンションは孤独	天	モデルハウスに写る理想の家族	地	不器用な俺が自作のログハウス	人	凭れると昔話をする柱	夕焼け雲 わたしは家に帰らねば	躓いた石くれ床の間に飾る	一番落着くんです家のトイレ	古民家カフェ時の止まっている景色	佳 句	どう生きてみてもこの世は仮住まい	楽しいね我が家はメリーゴーランド	階段の手すりも仲良しの家族	妹が来ればきれいになるわが家	蚊帳吊った柱の釘が今もある	山里の甍トトロの通り道	家までの道は険しい飲み屋街	ジジとババだけになった夕陽が丘	我が団地国勢調査直ぐ終わる
		兵		広		島		島	奈	青	大	大		愛	和	熊	大	兵	高	大	広	島
		庫		島		根		根	良	森	阪	阪		媛	歌山	本	阪	麻	知	阪	島	根
		みぎ		村上		石橋		伊藤	安土	髙瀨	谷口	立蔵		黒田	川上	平田	中山	山田	辻内	松田	野村	栂瀬
		みぎわはな		和子		芳山		玲峰	理恵	霜石	義	信子		茂代	大輪		春代	耕治	次根	松田蟻日路	賢悟	栂瀬みちを

川名洋子	東	野田	罕	前田洋子	埼	茨	群	福	(宮	田村	秋	村井規子	田中	古木ひろ	青	【北海道】	
洋子	京	の山	葉	洋子	玉	城	馬	島	城	田村美穂子	巴	規子	燕	ひろ	森	道	WEGUSHIN
川本真理子	井上毅	の山ちゃん	勝又康之		中島通則	齋藤松雄	勢藤潤	安藤敏彦	太田良喜	91	齊藤良青	吉田吹喜	福士慕情	高瀬霜石	稲見則彦	安渡広雪	柳
子 宮本彩太郎	上原 稔		柴垣		根岸方子	樫村日華		柳沼幸三	木田比呂朗		伊藤のぶよし		松ちづ子	瀧尻善英	小野澄子	加藤晃	塔
太郎	伊藤三十六				久保田千代	石川二三男			跀		i		辻口風来坊	千葉かほる	石澤はる子	三浦強一	まった
滋	北田	Ξ	岐	山	Ш	沢田	愛	一静	武	長	福	宮	石	富	711	Ш	H
賀	田のりこ	重	阜	山本三樹夫	山田初男	田正司	知	岡	武田香風	野	进	宮田喜美子	川	山	[神奈川]	山田こいし	誌
宇野弘子	こ毎熊伊佐男	戴けいこ	板山まみ子	关	7 竹内そのみ	富田末男	青砥和子	中田尚	宮尾柳泉	小林敬二	西谷公造	字	新保芳明	齊れいな	加藤佳子	i	上大
	男 橋倉久美子	青砥たかこ	- 喜多村正儀		八甲田さゆり	三好光明	位田仁美			島田洋審			堀本のりひろ	伴よしお			会投
	八美子	_	上 儀		ゆり	佐藤ちなみ	西鄉紀美代			髙見澤直美			3	松岡紀子			如何者
阪本秀子	酒井紀華	近藤北舟	北出北朗	川本信子	柿花和夫	奥村五月	岡本悠	太田省三	大浦福子	上山堅坊	上田陽子	今村和男	石田孝純	池田和子	油谷克己	大阪]	(順不同
佐藤后子	坂上淳司	坂 裕之	楠本晃朗	神崎江	片岡加代	小野雅美	荻野浩子	岡田恵子	太下和子	榎本舞夢	上出 修	入江晴菜	石橋直子	池田純子	阿部俊八	穐山常男	个同·敬称略)
澤井敏治	坂本星雨	阪井恵子	桒原道夫	神田良子	川端一歩	貝塚正子	奥時雄	岡野 圭	太田昭	大浦初音	植野繁子	岩崎公誠	井上一筒	井澤壽峰	綾田清	東敏郎	略名
北川ヤギエ	岸井ふさゑ	川端日出夫	川島千恵子	鴨谷瑠美子	片山かずお	片岡智恵子	小川賀世子	奥野健一郎	太田扶美代	大島美智代	江島谷勝弘	宇都満知子	内田志津子	今井万紗子	石田ひろ子	赤松ますみ	

長高俊雄 助川和美 水野黒兎 松井正義 藤村亜成 藤塚克三 藤井則彦 林みどり 西村哲夫 中山春代 中川隆充 寺井弘子 土田欣之 谷口東風 伊達郁夫 関よしみ 島田明美 澤田悦子 平賀国 谷口 松岡 年梅道子 高杉 三好聖水 穂口正子 藤原大子 藤井康信 西沢司郎 中村民子 中島一番 中井佳子 立藏信子 鈴木栄子 沢田和子 原 栃尾奏子 白井笙子 津守柳伸 洋志 義 カ 廣田 樋口 中村 中菌 三好専平 增原文子 伏見雅明 藤田武人 八田灯子 西出概楽 長尾千賀 丹後屋肇 田中廣子 竹原春江 鈴木かこ 柴田桂子 松谷由夏 富田保子 靍田寿子 初代正彦 和織 直 清 惠 中川 佐々木満作 原田すみ子 出口セッチ 玉木あさ子 田中ゆみ子 正信寺尚邦 島田千鶴子 冨山ルイ子 徳山みつこ 鈴木いさお 杉山フジ子 齋藤奈津子 齋藤さくら 古今堂蕉子 小山惠美子 桑原ひさ子 桑原すぐ代 久保田清美 木見谷孝代 千都子 小梶初美 亀岡哲子 寺島洋子 竹中キーキー 松本あや子 横山里子 九村義徳 大西重男 上田和宏 生田頼夫 中西展代 京 宇都宮ちづる 吉村久仁雄 山口弘委智 両澤行兵衛 山野寿之 安田忠子 村上玄也 兵 都 庫 興水 岸田万彩 梅澤盛夫 稲角優子 青木公輔 山田葉子 堂坂小道 市井美春 吉田禮子 山野双葉 山衛守孝 森 糀谷和郎 長川哲夫 山内規予子 宮崎シマ子 渡辺たかき 山本希久子 美馬りゅうこ きとうこみつ 廣子 弘 武田悦寛 幸田厚子 尾崎一子 岩原隆子 米澤俶子 小山紀乃 北野哲男 江尻房子 荒牧孝子 山本昌乃 前中知栄 雪本珠子 山田昭市 森田旅人 森中惠美子 山田貴久子 吉道あかね 山岡富美子 銭谷まさひろ 太田としお 内橋実三郎 生田えい子 吉本 北野クニオ 松田蟻日路 上野多惠子 上田ひとみ 井口と志女 平井美智子 上辻美奈子 杉浦多津子 松島きよみ 松尾美智代 # 山内 村田 堀 野口 武田 髙橋敬子 安福和夫 平松直樹 大内朝子 藤村とうそん 山田厚江 丸山孔一 藤井宏造 萩原狸月 長野峰明 富永恭子 谷口修平 近藤勝正 櫻井崇史 正和 良 迪 博 修 宮本 長濱 谷川 大西將文 稲葉良岩 饗庭風鈴 山田耕治 山口光久 村松久江 槇田次郎 藤岡りこ 福田好文 羽奈和子 野口雄次 長島敏子 近兼敦子 多田雅尚 相元世津 斎藤隆浩 實 緑 中堀 木嶋盛隆 宇賀史郎 吉田和子 山﨑武彦 森本高明 松倉正美 藤田雪菜 福田正彦 浜 敏森廣光 坂本凛繪 安土理恵 村上氷筆 能勢利子 新阜義明 田中雅子 宗 永田紀惠 和夫 知子 加門もと子 加藤江里子 吉村めぐみ 山端なつみ 山田美春日 みぎわはな 野口真桜子 中岡千代美 竹山千賀子 大久保真澄 山口ヨシ 妻木寿美代 瀬島流れ星 住吉美和子 清水久美子 米田利惠子 奥澤洋次郎 緒方美津子 居谷真理子 工

伊藤玲峰	島	牧野芳光	西浦	中原章子	竹信	岸本宏章	大前安子	池田美穂	鳥	村中悦男	佐藤まき	木本朱夏	柏原夕胡	[和歌山]	飛永ふりこ	山本昌代	山上	菱木	中森勝代
坪峰	根	方光	小鹿	早子	照彦	広章	女子	夫	取	男	まき	木夏	が胡	Щ	かり	昆	純子	誠	勝代
加本精一	石橋芳山	宮田風露	福西茶子	中村金祥	田中重忠	木天麦青	大本唯人	伊藤嘉昭	吾郷天遊	まつもともとこ	西川千鶴	倉橋悦子	川上大輪	石田隆彦	長谷川	米田恭昌	山田順啓	松本柾子	西澤知子
岸柱子	伊藤寿美	森山盛桜	前田楓花	成田雨奇	中井虎尾	新家完司	門村幸子	大羽雄大	池澤大鯰	もとこ	松原寿子	小谷小雪	喜田准一	上田紀子	崇明	渡辺富子	山田恭正	毛利元子	林ともこ
栂瀬みちを	多久和敬子	山下凱柳	吉田孔美子	山本ふみ子	竹村紀の治	田賀八千代	斉尾くにこ	後藤美恵子	伊塚美枝子		三宅保州	定松宏枝	北原昭枝	三枝眞智子		島岡美智子	小林すみれ	小林すみえ	小金澤貫一
平田恵	[I E]	ロッキー	元吉慶子	半田知弘	土居直子	田中敬子	笹重耕三	北村善昭	大森昭恵	広島	森山文子	増田敏夫	永見心咲	椎葉勉	尾崎貴	大石洋子	[国]	藤井寿代	中筋弘充
三木静江	上村夢香	田中	山本恵子	松尾信彦	野村賢悟	俵 逸子	蔀 帆子	小島蘭幸	小川道子	岩本笑子	従野健一	丸山威青	原脩二	高木勇三	折鶴翔	大杉敏夫	市田鶴邨	山根雪代	原徳利
	坂本加代		吉永団風	村上和子	羽城裕子	常國喜好	田桑恵子	小畑宣之	鴨田昭紀	大木彦翁	龍せん	光延憲司	藤井智史	高杉究作	小林妻子	岡本余光	岩崎幸子		福間芳枝
	中前幸子		若野茂青	村田幸夫	松本壽賀子	西村スミエ	田辺与志魚	高東八千代	瀬戸れい子	大多美保子		宮本信吉	藤澤照代	坪井新	古山はつ子	髙橋由紀女	工藤千代子		永田ハルミ
					沖	宮	イー	熊	長	佐	福	高	松木	田中	郷田	鎌田	愛	徳	香
					縄	崎	-グルヘ	本	崎	賀	岡	知	小慎吾	中なお	郷田みや	昌子	媛	島	Ш
					多良間典男	惠利菊江	ヘッド	岩切康子	松本篤也	坂本蜂朗	坂本弘子	桑名孝雄	柳田かお	永井松柏	古手川光	栗田忠士	越智学哲	小畑定弘	大高正和
					劣	黒木栄子		杉野羅天		仁部四郎	もりともみち	辻内次根	る 山内もとこ	浜本光子	立花真策	黒田茂代	鎌倉俊一		川西義仁
						黒木せつよ		平田朝子			みち		زين	西田美恵子	高市すみこ	岡山フジヱ	大内せつ子		藤本ゆたか

麻生路郎読本』余滴 67

商業之大日本」の頃 3

桒 道 夫

おとがひを撫で、おさまり返つてゐる。

今朝も今朝ぢや。我輩の主人は主人の妻

び」も執筆している。「川柳雑誌」を創刊 崎松郎の〈遅日荘留守で三十九銭損〉 生が頻繁に訪ねたが、そのことを詠んだ塚 で使われた号であることがわかった。門下 と呼んだことで有名だが、「商業之大日本」 した阪神沿線の鳴尾の家を門下生が遅日荘 9月号には、遅日荘の別号で「白靴の叫 の句

白靴の呼び

遲日莊

が知られている。

り出されて日々の御用をうけたまはつてゐ 暑くなると我輩は我輩の主人から引きず

9日、長男ロンドン誕生)で寝てばかりゐるので 人は至つてこんなことにはかまはず屋だか 我輩の顏に白粉をして呉れる人がない。主 この頃は奥様が産後(筆者註―大正8年8月

度生れた坊つちやんも靭の乾物のやうにな

櫃は忽ちに空になつて奥様もお嬢さんも今

つてしまう許りだからな。全く我輩だつて

主人は一向知らん顏して、近頃の恐ろしい ですなあと、いつ剃刀をあてたかわからぬ、 物價騰貴には全く月給細民の立つ瀨がない が瀧のやうに流れてゐる。それでも我輩の ると我輩は赤面をする。我輩の腋の下に汗 ら時々、綺麗に掃き清められた玄關にか、

でゐたら、郊外電車で隨分乘客が混雑して 君に我輩と我輩の友人のヘルメットとを連 ゐるのもかまはず我輩の主人は無理やりに れこんで白粉をして貰つた。これで我輩も 寸男前があがつたと思つて内心よろこん

があつた。少からずムツとしたので我輩も 這入るものだから我輩の顔に泥をぬつた奴 人間の得手勝手な事を思ふと主張する氣に 人種平等案をかつぎ出してやりたかつたが

のだから、電車にのれなければ主人の米を もない、紳士的態度など、エラソーなこと をいふてゐれば一日も電車に乗る日はない なく又非紳士的態度をなしたといふわけで もなれなかつた。我輩の主人が悪いのでも

> をドシ(、死刑にするとい、のになア。 鬼の耳に念佛である。佛蘭西のやうに奸商 輩は一日も早く政治家らしい政治家が出 儲けしか知らぬ人格の低い成金輩の耳には 顔を汚される度に大いに憤慨してゐるが金 けすぎるからこんな事になるんだ。我輩は 同情する。第一會社が悪いのだ。あまり儲

は電車標語を募集する位だから大いに道 て、暴利令を實行して貰ひ度いと思ふ。 郊外電車から市電へ乗かへた。この電車

輩の體を壓へつけた奴がある。我輩の主人寸安心してゐると、ギユーツと思ひきり我 の資本論解説を一生懸命に讀んでゐたのだ は例の如く電車の中に突つ立つてマルクス 徳的觀念が普及されてゐること、我輩も一

と形容してい、か我輩には口であらはせな こらへてヂット上を見上げると我輩を土 足にかけたのは一人の美人だ、さうだ、なん が、我輩の保護を怠つてゐた。我輩は痛さを

言をいはず、默つて足をひつ込めて眼は矢

張り本を放さないのだからなア、あきれ返

は主人自らのなすべきことであらうと思ふ。 らうか。我輩は我輩の主人の覺醒を促した 中にそんなにい、ことが書いてあるのであ い。我輩のうけてゐる世界的屈辱を雪ぐこと つてしまふ。一體西洋人のあらはした本の

10月号を見ていく。本文12頁。 衆議院議

路郎が「欧文電報の語数計算法」を執筆 三好正明が「經濟済的革命時代に処して」、 員・長島隆二が「日本人の世界的新使命」、

> のである。商人より階級的に卑しとせられ あるといふのは實に啞然たらざるを得ない

資本也」「衣服平等説」を執筆しているが、 している。路郎は幸兵衛の号で、「休養は

今回は「休養は資本也」を挙げておく。

んでもないのである。この世界が創まつた る處では決して時勢に適應した處置でもな に適應した處置であるさうだが、我輩の觀 之は店員の休養方法を確實にするため時勢 物販賣業組合の名で九月一日に發表した。 毎月廿三日だけ商賣を休むことに定めて織 大阪全市の呉服洋反物小賣商は九月から

時に既に休養の必要を認めて七日の內に一

休養だに無い仕事が永久に繼續して活動す

(次回に続く)

すれば使もする國では、それが全然忘れら れてゐたのである。イヤ忘れられてゐたと 日本人のやうにノンベンダラリと使はれも

日休養をする様に造られてゐるのであるが

いふよりも資本家は自分等に都合の悪いこ

が適切であらう。それを月にたつた一 とは何んでも知らぬ顔をしてゐたといふの 公休日を與へたからとて一ト角新しい組織 回の てゐるのである。自分は月に一回の休業を 唯働いてゐるやうに見せかけてお茶を濁し た鞭の下を巧みに避けてノンベンダラリと

動してゐるやうに見へるに過ぎないのであ

人はもの、表面をのみ見てゐるので單に活 ゐるものがあるといふ人がゐるなれば其の る譯がない。若し永久に繼續して活動して

る。世の多くの人達は、資本家の振りあげ

にでもなったやうに思ひもし思はれたくも する譯にはゆかぬ。 悪いとはいはぬがイヤ偉いものですと感心

房具屋化粧品屋、其他各種の同業者が定日 んでゐるではないか。そして近來風呂屋文 てゐた職人階級でも一日十五日の定日を休 三越大丸は第一第三の日曜を休業と定めて 員全部揃つて休養の事に協定がなつたので 繰合休暇を斷然改めて月二回店を閉めて店 パートメントストーアでも従來の月二 三越、大丸、たかしまや、十合の四大デ 回の

である。 大體休業をすれば一日の賣上げが減少し

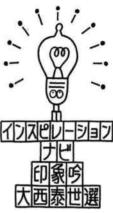
の公休日を愉快に休むやうになつてゐるの

うか。 思つてゐるらしいが、その考へが既に大き な誤解であることに氣が付かないのであら のだ、それだけの恩恵を與へてゐるのだと の爲に其店がそれだけの犠牲を拂つてゐる て非常な損害のやうに思ひ、店員及小店員 何故か?と反問をする迄もない。一日の

> 少し徹底的に日本全國を通じて職人たると 要するに恁んな姑息な手段を撰まずに今

般の休養日として採用したいと思ふ。 俸給生活者たるとを問はず日曜日を以て一 で毎月廿三日を休み一方四大商店會議の月 十合とは織物販賣組合に加盟してゐる關係 十月から實施する筈である。たかしまやと 一回公休にも應ずるためにモウーつ毎十日

を休みと定めた。



という言葉を使う 投句198名

見せてくれます。 しまった秋ですが、 間もないほど短くなって でも木々は美しい紅葉を スーパーで買って来た それ

元気、元気とおまじないを唱えています。 柿を剝きながら次はミカンを、などと食 べる事にも忙しい自分に苦笑しながら、 季節の変わり目は、気分の良し悪しが

体調にも響いてくるように思えてなりま

では、ナビを

羅天

きる世の中です。現実と幻想が入り乱れ 砂漠の船はラクダではなかったか て、もう、付いて行けない! (評) 今までは有り得なかったコトが起

鳥取市 谷口回春子

吉報は待てば必ずやってくる 「評)願えば叶う、ですね。こんな前向

きな姿勢はとってもステキ。信じること

村上

和子

見てしまう。結局はスキってことよね。 人では何もできない人と居る (評) こんな人ほって置いたら楽ちんな なんて思いながらあれこれ面倒を

神戸市 富永 恭子

最初から難破船ではなかったわ

ら、すっかりガタが来ちゃって。 いつの間にこんなになっちゃったのかし (評) 最初はとってもリッパだったのに

でかい事やり遂げるのはしんどいね 大阪市 坂 裕之

て結果が出たらよろしいやん。 も、一度限りの人生、やりたいようにやっ (評) ホント、しんどいことですわ。で

だと思います。数字見ただけでアタマ痛 数独が好きで毎日やっている (評) 数独が好きな人ってアタマいい人 箕面市 大浦 初音

くなる私、尊敬しちゃいますう。 松山市 大内せつ子

は九回ツーアウトからですって。 狙う気まんまんじゃあないですか。 白旗を上げるの忘れたんだよな (評) 白旗の上げ忘れなんて、逆転打を 勝負

どの波に乗るか迷っている小舟 (評) どの波に乗るかによって、将来が 力

> 決まってしまうことも。何事に於いても、 じっくり考えることが大事ですね。

憲彦

いっぱしの男にさせる向い風

もそうであります。 を跳ねのけてこそ一人前の男。いや、女 (評) 世間の厳しい風にさらされ、それ

大陸はまだかとコロンブス背伸び 藤井寺市鈴木いさお

(評) 何だかコロンブスさんと一緒に船

に乗っている気分になりました。時代も 海もひとっ飛び、ですね。 道子

秒針よそんなに急かさないでくれ 小川

御神輿を担いで穴に落ちました 倉益

ケアハウスみんな寝たかとお月様 吹田市 山本希久子

なんて贅沢七輪で焼くサンマ 奈良市 大久保真澄

盆踊り今も三池の月のこり 高槻市 富田

船旅の後は体がゆーらゆら

豊中市

水野

黒兎

保子

寝屋川市

パソコンが駄洒落連発して困る 廣田 和織

福西 茶子

慌てなさんなここ宇宙 奈良市

アッ地震

規制緩和わざわざビール飲みに出る

94

米子市 八木 千代

沈むまで月を見ていた二人です 修平

宛先も見ずに破った包装紙 谷口

難破船としてユーチューバーになる 月波 与生

通天閣今満月を差し上げる 貝塚市 石田ひろ子 災害に強いハウスを建てました

秋祭り神もマスクをはずせない 神戸市みぎわはな 松山市 栗田 忠士

座礁するはずはないはず国債丸 月よりの使者が都会に不時着す 唐津市 仁部 四郎

ゴミ屋敷花のお江戸のど真ん中 河内長野市 中島

W i Fiも使えますよとノアの舟 枚方市 真島久美子

おもちゃ箱キミと仲良しだった頃 西宮市

哲子

モンゴルを出た日の高い志 鳥取市 副井ゆたか

フェリー出る心の重荷積み残し 防府市 坂本 加代

目印は屋根に舟乗る船着き場 大阪市 平井美智子

領海を守って生きる嫁姑

出番なく宇宙戦艦スクラップ 旅人

常連のつもりで行った店がな 森田

枚方市 藤田 武人

船上でビール片手に見る花火 極寒の小腹を満たす焼き芋屋 豊中市 松尾美智代

スーパームーン何かいい事ある予感 香芝市 大内 朝子

お茶漬けが恋しくなった豪華船 神戸市 犬山市 奥澤洋次郎 金子美千代

プラゴミへ人魚の声が届かない 余熱なお浮かれた後の蜃気楼 弘前市 髙瀬 霜石

そういえば月には行ったことがない 橿原市 居谷真理子

マリオネット糸が縺れて愛せない 大阪市 恵子

担ぎ手の助っ人頼り村祭り 和歌山市 紀子

廃船の置き場に困る港町 藤井寺市 大阪市 今村 鴨谷瑠美子 和男

皇室と庶民は立ち位置が違う つまらない男になった昼の月 河内長野市 山岡富美子

お待ちしていました未来案内人 黒石市 北山まみどり

村田 博

上田

和宏

ぐんぐんと走ってみせる氷解船 昼飲みのカクテルの名を決めました

昌鼓

箕面市 出口セッ子

ロマンだな月を背中にする船出 天国へ行く船予約しておこう 大洲市 花岡

順子

海の上こんなホテルが建ちました 米子市 宏之

倉吉市

芳光

リュウグウから次の星へとはやぶさ2 日本はどこに流れていくのだろう 費中市 上出

尼崎市 永田 紀惠

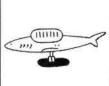
後もどり出来ぬ矜持が邪魔をする 芦屋市 新阜 義明

この歳で隠したいもの少しあり 篤

勝つはずと担いだ御輿負けちゃった 風鈴

ちょっとそこまでのつもりが風になる

2月号発表 (12月15日締切)



霧石人 画) 柳箋に2句

同 人吟 Ш 野 寿

11月号から

漆黒の闇から薄日差してくる

した。が、マスク手洗いは忘れずに。 宣言が解除されやっと薄日が差してきま す。正しく漆黒の闇、今年十月から自粛 も投句形式になり寂しい思いをしていま が自粛ムード一色になり、川柳塔の句会 令和二年三月頃から新コロナで世の中 柏

耳が遠いと言うとセールスマン帰る

のね。電話だと信じてもらえないかも。 遠いと言っても信じてもらえる歳ですも んだと言い訳をして断らなくても、耳が 面白い句ですね。セールスをなんだか

残さずに食べて体形ラ・フランス

竹 村 紀の治

なってしまった。悪いのは子どもや主人。 た結果がラ・フランスやピーマン体形に たものまで、勿論自分の分はすべて食べ 勿体ないと言って子どもや主人の残し

ぜんざいが兄弟喧嘩終わらせる

その母も亡くなり今は夫婦喧嘩をすると 作ってくれ兄弟は仲良しになりました。 母は兄弟喧嘩をするとよくおぜんざいを おぜんざいと思うのですが夫は糖尿病。 甘いものは尖った人の心を和ませます。 拝んでも無駄とポストは素っ気ない

すが、ポストは素っ気なく突っ立てます。 神頼みとポストに手を合わせたくなりま なりました。投函してから思わず最後は 誌上句会や誌上大会になり投句が多く

六甲が遠くになった登山靴 山春

代

しの登山靴も金剛山へ二千回以上連れて 代さんの登山靴が寂しがってます。 腰が痛くなり登らなくなってしまい、春 毎週のように登っていた六甲山も膝や わた

行ったのですが、靴箱の中で欠伸をして

います。

あなたは若いまま老いて行く私

之

まいました。天国に召されたので、齢を を重ねすっかりおばあちゃんになってし 老いぬまま、ところが残された私は苦労 遺影のあなたはあの時の溌剌と若くて

活字という睡眠薬が効きすぎる

古久保 和

子

取らないでいつまでも若いのですね。

て気が付いたら夜が明け出していました。 すとなかなか眠くならず、眼が冴えてき 魔が襲ってきますが、松本清張を読み出 難しい本だと一頁も読まないうちに睡

— 96

悩むのはやめよう朝が来てしまう

に助けを求めるが、五千匹辺りから眼が 巡りしだすと眠れない。止む無く羊さん け無駄と思っても、頭の中は悩みが堂々 冴えて夜が明けると、眠くなってきまし 悩んでも解決するものでもなし悩むだ

カンパイの後は黙って食べるだけ

カンパイをしたらマスクをして、食事

して、黙食というらしいが体に悪いです は黙って食べ物を口に入れたらマスクを

秋桔梗何も変わらぬままで秋

慢の何も変わらぬ日々でしたが、自粛解除 になり世間は動き出し私も出掛けましょ。

わってましたが、身辺は巣籠りでじっと我

季節は向日葵、百日紅から萩桔梗に変

平 井 美智子

爽やかな見出しを探す朝刊紙

や高齢者の自動車事故、爽やかニュース 朝刊を開けば高齢者を巻き込んだ殺人

ラ五輪で癒されたり元気を貰うニュース はないですね。でも今年の夏は五輪やパ がありコロナ禍でやってよかったかな。

ひょっこりと幼馴染が文くれる お返しの絵手紙距離を近くする 木見谷 孝

ますが、懐かしい温い肉筆の手紙や色鮮 やかな絵手紙で、お互いに近況を知らせ メールという便利な文明の利器があり

合い幼馴染と温かい友情が復活しました。 明け透けに物を言うけど憎めない

歯に衣着せず明け透けにずけずけなん

でも言ってくれる友だちです。 友だちの苦言は私にとって良薬です。

巣ごもりでできた預金が旅を待つ ちづる

ら預金を使いに旅に出ましょう! 貴方となら逢います予報雨だけど

瑠美子

た。GoToキャンペーンが再開された

のを待っています。自粛解除になりまし

貯まった預金がうずうずして旅行に行く

コロナ禍で何処にも行けず、貯まりに

な頃もあったかな、懐かしい想い出です。 えるのでしたらどこまでもですか? そん 雨が降ろうが風が吹こうが、貴方に逢 針の無い時計を抱いて旅に出る

ツアーに参加して時間に追われ盛り沢 惠

金も気にせず、誰にも気兼ねのないひと 残ります。計画もなくぷらっと時間もお 山の予定を熟すだけの旅行は疲れだけが り旅を元気なうちにしたいですね。 過去形で笑える時がきっと来る

るときがきっと来る、いまは歯を食い縛 なあが過去形になったら笑い話で済ませ あの時はしんどかったなぁ、辛かった

ヒヨドリと競う無花果の食べごろ

り我慢して笑ってごまかしときましょか。

けますのでネット張って無花果を守り、 生ハムに巻いてワインと頂くのもグッド。 赤く熟れたら食べごろ。そのままでも、 ヒヨドリと無花果の攻防戦ですね。

健診に集まる人はみな元気 長谷川

当たり前のことを言ってますが、そうで はありません、病院へ行って下さいな。 すよね。元気でなかったら健診どころで この句を読んだ途端吹き出しました。 鍬を振る時は力が出る卒寿

嘘でしょうと言いたいのですが、本当

ざ土を耕すときは、腰も真っ直ぐに膝の します。いつまでもお元気でいて下さい。 痛みも忘れ鍬や鋤を矍鑠として振り下ろ なんです。鍬を杖にして歩いていてもい

幼なじみラインがつなぐ長話

いう電話代無料があって大助かり。 今までは電話代が大変でしたがラインと いて長電話になるのは当たり前ですね。 幼なじみともなると思い出話に花が咲

水煙抄鑑賞

―11月号から

山 田 葉 子

独りには贅沢すぎる秋の天

てるのも独り。横で一緒に眺めてる人が のも独り。草紅葉に寝転んで風に吹かれ 澄みきった夜空の満天の星を眺めてる 雨

やわらかい声で外堀埋めにくる

いてくれたらいいのに。

は残してくれてるかも 慌てることってありますね。でも逃げ道 ドンドン相手の思うままの景色になって やわらかい声につい気を許していると、 奥 野 健一郎

認知症母と何度も初対面

さんのことを耳にすることがあります。 何度でも笑顔で会いたいものですね。 る娘さんや、母の弟の名で呼ばれる息子 会うたびに「どなたさん?」と聞かれ 子

りばめられていることでしょう。

だと身に沁みています。

せはアルバムにも、旅先の思い出にも散

されるしかありませんが、在りし日の幸

最愛の人を亡くした悲しみは歳月に癒

瞬間に見分けてしまう大と小

分けてしまう一芸となりました。 ら年季が入っています。いまや瞬時に見 姉弟でおやつの大小を争った幼い頃か 山野すみれ

北山 まみどり

裂を防がなければ。 ですね。せめて自分に少し優しくして破 人の言動を観る目も厳しくなったりイヤ これほど続くとは。自粛している中に他 にも会えない、予測もしなかった我慢が 行きたい所へも行けない、会いたい人

都会の太鼓田舎の笛も耐えている

共に日本人の心や身体に深く根付いて来 たのが、祭りだと改めて感じました。地 元の祭りに再会出来る日が待たれますね。 日本中から祭りが消えた昨年。時代と 在りし日の女房しのぶハイヒール 廣子

いつまでの我慢か破裂せぬように

パンダの目垂れてなければどうなのよ 田桑恵子

あいいかと慣れていけるのかな?

をつかんで離さない。 ンダの目が。チャームポイントはなんと いってもあの垂れたお目目。みんなの心 もしもクレオパトラの鼻が。もしもパ

オリンピック愛国心の恐ろしさ

ては、度を越した愛国心も恐ろしいもの 告げました。戦争を知ってる子供達にとっ 賛否両論の中にオリンピックも終りを

金婚のゴールの先もまだ夫婦

吉 道 あかね

任と荷の重さを感じる微妙な心もようが、 も長生きしてほしいと望み、妻は少し責 まだ夫婦にあらわれてるのでしょうか。 夫の多くは妻にこの先自分より一日で 金婚まで無事歩んで来たふたり。

息子とのライン既読でハイ終わり

えですね。一応見てはくれたんだからま 母親とのラインだからこそ許される甘 厳田 かず枝

家党司のせんりゅう飛行船



衣服さまざま (2)

外出着母の形見と娘のお古 さくら色のセーターを着る嬉しい日 ブランドの服でいそいそデイケア 余所行きでモデルハウスを見て回る 赤いセーター似合う私はお年頃 平井美智子 松尾美智代 宮崎シマ子 居谷真理子

ブランドに負けぬ亡父さんのジャケット 米田 岡田

年齢に関係なくおしゃれ心は生きていく張りになります。

だけでも余所行きを着ると背筋もシャンとします。 合っている」と思えばファイトも沸いてくるでしょう。 替えで大切です。モデルハウスの見学やデイケアに出かける 赤いセーターもさくら色のセーターも自分が気に入って、「似 また、普段着と余所行きを使い分けることも気持ちの切り

スリムな所為ではないかと思うのですが、世の男性諸兄は 、大それた願いMサイズが着たい 女性がスリムな体形に憧れるのは、ファッションモデルが ピンク着てよけい老人くさくなる 冬服にメタボラインの気が緩む 好みではないがほっそり見える服 古い服中身はもっと古いけど 衣更え冬を引きずる下半身 穂口 大久保眞澄 川本真理子 柏原 **吉村久仁雄** 古道あかね 正子

ふっくらふくよかを支持している人が多いようです。

師走の声を聞くようになると冬服の出番です。全身をスッ

着るのが恥ずかしく眠らせている人も多いことでしょう。

おしゃれ心が発揮できないチョッと残念な季節です。 **Uターン父の野良着で田を守る** 田村常三郎

ポリ覆ってくれるコートは体形を隠してくれて嬉しいのです

作業着が父の形で干してある 母さんのセンス野良着がよく似合う 夕焼けをいっぱい吸っている野良着 作業着のまま賑やかな昼ご飯 三宅 鴨田 水野奈江子 保州

作業着を借りて総理が邪魔に行く 富田

も、農家の人は日が暮れるまで働いておられます。 と言っているようです。便利な農機具が普及している現在で 勤め人の制服は背広ですが町工場や運送業等は作業着で

野良着も作業着も同じようなものですが農作業用は野良着

ことを作業着が恥ずかしがっているように見えます。 す。被災地視察団の作業着にはシミーつありませんが、その 熱々に見せたいだけのペアルック はぐれないようにとペアルック着る

どこまでも気持ちのわるいペアルック 熟年のせめてバジャマのベアルック

人同士が着る柄や色がお揃いの服。「はぐれないように」と チも感じられますが、確かに「熱々の魔法」が解けてからは いうのは実用的で、高齢者に向いているかもしれません。 また「熱々に見せたいだけ」というご意見には少しヤキモ 説明するまでもありませんが、ペアルックとは夫婦とか恋 ベアルックでした魔法が解けるまで 押し入れに眠ったままのペアルック 蒼鬼



楷書で誤字のないようにお願 は原稿到着順となります。 月24日締切・35句以内厳守

いたします。

風呂洗い一任されて二十年 大山滝句座(鳥取 新家 完司報

青春の美学か反骨の拳 再稼働反発力と政治力 人間に反発をする温暖化 アンテナ伸ばし町の噂を拾う 紀の治

我が家ほどいいもの無いとディの母 呼吸器をつけますか胃癭しますか 秘密だよ言った時から洩れている

みちを

くにこ

秘密なのにもう四つ角を曲がっている ピストルに手を延ばしてはいけません 幸せになれる秘策を試行中 旨そうな隣席に来たオムライス 盗み酒隠し切れないいい香り 美ッチ

出来るなら畳の上でグッドバイ

石花菜

シルバー展命膨らむ音がする

美知江

戦いの奥の手だろか 泣き落とし 生活の為に戦う鬼になる

のぶよし

和香子

京

らんだオリ・パラ困る後始末

相槌を打てば膨らむ後日談 膨らんだ希望の職はかなわずに 平均点とっても母は喜ばぬ そこそこに一本足でまだ立てる 八十過ぎりゃミス日本もそこそこに そこそこのお布施でお経五分なり そこそこと言えず柱とフラダンス 引力に反発せずに垂れる肌 回は反発をして様子みる

親指の指示に反発する小指

鼻の下伸ばし馬鹿みた阿呆こいた 記憶にない親に反発したことば

もうやめた背伸び生活くたびれた

金メダル齧った市長総スカン 親子喧嘩家は出たいが金がない 違うよとテレビに向かいもの申す

> コスモス 希楽良

平安京貝で遊んだのは貴族

つぼ焼きの磯の香りで生ビール 台風一過瑠璃貝を拾い集め あこや貝真珠を抱いて苦労する

陽之助

久米代

話し下手貝になりたい時もある

カメムシとムカデが守る秘密基地

川柳塔打吹(鳥取

忘れたな昔のことは全部パー 斉尾くにこ報

思い出は色褪せもせず桜貝

真実を聞こうとすると貝になる 貝柱もわたしもまんだ頑固です

紀の治

そこそこの人生でした二重マル 法螺貝が総理大臣室にある

くにこ

しかしむかし桃太郎がヒーローだ

紀美恵

川柳塔みちのく(青森)

稲見

則彦報

年金でそこそこなどと言えません

戦争の話をすると嫌われる

これからも戦争だけはしては駄目

久美子

戦争は映画の世界だけでいい スギナとの戦い終えて力空っぽ 人間が勝たねばならぬウイルス禍 エンドレスいたちごっこの変異株 イテク化進む戦争ゲーム化だ

風来坊

由紀子

けいこ

女子の輪に私は隅で貝になる

コロナ禍で膨らむ夢を抑えてい

ムダ買いのムダで膨らむゴミ袋

膨らんだつぼみに期待よせている

今はただ夢が膨らむだけでいい

美ッ千

3

100

三津子 石花菜

舞い終えてそろそろ探す僕の席 そろそろが意味深長の歳になる そろそろり一雨ごとに小さな秋 スリーサイズ変わっていない由美かおる 墨汁をホッペにつけて帰る孫 掛け過ぎたスパイス孤独の味となる シンプルな黒たぶんみんなが似合う色 想像は自由だ走る子の絵筆 病む妻へ贈る切れ字が見つからぬ コロナ禍に悪戦苦闘ゴールまだ 毎日が戦場でした子育で期 五時間目とじる瞼と戦う子 病院を戦場にしたコロナ菌 戦いに負ける血圧血糖値 正義の味方にっこり笑い人を斬る 冤罪の勝訴 長すぎた戦い 愛を勝つ薔薇一輪が決め手です 戦わず逃げるが勝ちと足鍛え 自分との戦いでした金メダル 大戦を生きて平和の有難さ フルマラソン目標が前走ってる 三つ巴妻と母ちゃん何故か僕 オリパラの戦う選手見る平和 竹原川柳会(広島 古田比呂子報 ちづ子 真由美 花 ひとし ふさえ 劦 子 生 ともだちがじゅうさんにんできたよ 亡夫と駈けた不要不急の旅恋し 立つより返事その通りになりました 完璧が難しいな半分こ 栄光の過去が時々しゃしゃり出る 星光る亡夫から届くメッセージ 懸命に生きても残る悔いの数 そろそろと歩いて亀の速いこと キンモクセイ香る思い出セピア色 天空の花園にいるのでしょうか母 墓石に語りかけても光るのみ おばちゃん元気大阪弁が光る 島めぐりまぶしく光るてんま船 若いっていいね光をたんと撒く ポジティブに生きる悔いなどないように 大好きな父に懺悔の墓洗う 出し切って悔いは無いと前を向 そろそろと登っていつか天辺へ 着々と準備しながらタイミング つきまでいこう みんなでケンケンパ 葉の裏で感染防ぐかたつむり 吾子だけが光って見える舞台上 d か

> 白旗の裏に真っ赤なべ口を描く 文系と言うが理数が出来ぬだけ 星が降るもうそれだけの里になる 本音ならさっきとばしたシャボン玉 エンディングノートあちこち酒のシミ みちを 人生の灰汁が出て来る押し洗い 田舎道お父と牛の影を踏む 一引く二答えをゼロにする自然 佳句地十選 竹千賀子

若き日の日記辿れば呻き声 ひとつまみ程の味方が居てくれる

牧 野

芳

光

(11月号から)

松 原 寿 子

ひとつまみ程の味方が居てくれる

開くまで押し続けてる子の大志 心のほつれ治せる愛というくすり 試されていると気づかず好きになる ちかのしんぞうドッキンドッキンいっている ち 百の窓百の形のある暮らし 赤ん坊好きでぐずってるんじゃない 言い足らず胸に残っている炎 ひさ乃 日出男

ち

よく喋るきっと何かがある女

何気なく見せる笑顔に惚れている

かずお

は
はび
¥
×
4
中
氏
Ш
川柳会
~
大
阪
तंक
藤原
凉
120
太
Z
子報
746

目に見えぬ縁の紐にからまれる

ぐれた子と母とを繋ぐ紐がある 荷造りの紐解き親の心知る 伴走の紐がだんだん重くなる ワクチンをしても心の紐解けず 靴紐はお年寄りにはファスナーで いさお ひとみ ダン吉 冬のト

マリオネットの紐がもつれて愛不信 紐の長さだけの自由を妻がくれ 孫が来てマスクの紐がゆるくなる スニーカー僕はこだわるカントリー

> 久仁雄 美代子

あかね

寝たきりの何もごせえと言わぬ父 ごせえとは言いたくないが欲しい天 褒めはやす後はごせえと嫁話

恵美子

みゆき

君は努力したかごせえと言う前に

ごせい=(因幡方言 くれ・下さい)

地球儀を回せば戦争と平和 洗濯機回し掃除していた若かった クルクルクルあなたが見えるまで回す 回転木馬カメラ構えて待つ笑顔 喜寿過ぎて卓球ゴルフ目が回る 目が回る体温越える炎天下 回り道今日も会えるかあの人に 回覧板三軒回って直ぐ我が家 目が回るそんな多忙がなつかしい あれこれと出番あり過ぎ目が回る 年金に見合う長さの靴の紐 紐よりも強かったのは赤い糸 緩い目に紐で結んである夫

> 扶美代 ちづる かつ美 こみつ

さくら

お説教たびたびすると無視される またしても登った梯子外される 江戸川の乱歩読んでた青年期 茶柱がたびたび立って不吉感 依存症に付ける薬はありますか たびたびの母の口出し蝉しぐれ

よしこ

校門が閉まる腕白走り込み 飲み足りず最終便をやり過ごす 何もかもわざと遅れて人目引く 神の目の死角で罪が増えている 包丁の音が弾んでいく祭

遅れても好きな女なら我慢する ノロノロで横綱射止め花咲かす

回春子

月

シルク 千鶴子

文

止めてえな笑えん駄洒落しょっちゅうや

奇跡の風信じて止め処ない時間 けったいな奴だが性格は真面目 すべて見ていた奇跡の松にある祈り 奇人ではないが半歩すれてきた 奇妙でもなぜかひかれる人が好き コロナ終息地味と奇抜な知恵出して オリンピック奇跡をおこす選手達 何よりも自分信じた金メダル まぐれでも勝ってかぶとの緒をしめる お化け屋敷奇怪求めて友と入る

日出男

過去を脱ぎ夕日の赤に焼べました

人生航路時に振り出しまで戻る アナログでないといけない安来節

みつ子

アナログで昭和の灰汁がまだ抜けぬ

久仁子

ほのか

幸いな事にコロナにまだ会わず 人生の遅れは死ぬるまで続く 黒枠の写真に詫びる親不孝

102

小谷

小雪報

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下

ご奇特な人で私と五十年

自分に勝つそれを念じて写経する

ふりこ

回り道した娘が今はいいママに の回るほどいそがしいワイドショー 専

努力した汗を奇跡と言う他人

大輪 富美子 小

Ħ

みつこ

正さねば日本丸の右回り この辺で回れ右してやり直す

たびたびも事によります重い腰

たびたびが信用無くすハメになる

たびたびの珍味に飽きて水を飲む

7

								650				196 :=			39	1645	Been	15 <u>0</u> 224	752	¥2		1276	535
一番に聞きたい事が言い出せず	血と汗でトップ争うアスリート	悶々と微熱の続く片想い	一枚のカードが喋り出す秘密	酒呑んで泣けば英五の顔浮かぶ	天井のしみしか見えぬトップの座	富柳 会(大阪) 山野	1	乗り遅れとぼとほ歩く田舎道	ふる里の米のうまさを知るかまど	稲穂垂れふるさと想う赤とんぼ	いろいろの意見持ち寄る五目飯	秋ですネ新米食べる舌つづみポン菓子が対児の記憶呼ひ覚ます	還暦の子より米寿の母元気	ロボットにやがて育児も奪われる	大器晩成そろそろ兆し欲しい齢	夕食を作る間もなく介護の手	座禅会間もなく心澄んで行く	収穫期新米食べるのは間近	合否見る間もなく時打つ鼓動	もう出前間もなく着くと不愛想	又災害間もなく日本沈没か	返信が遅れるとすぐ鳴る電話	手をかざし遅れたバスにはよ来てな
一文	壽峰	高鷲	和 子	武人	惠	寿之報		凱柳	無龍限枝		哲子	千螻代虻	隆浩	八千代	毅	由紀女	白兎	房子	厚子	茶人	節 子	真理子	蟹郎
酒三合退屈な日を締めくくる	呼名なく噛み殺してる生欠伸	退屈は蓄え出来ぬのが不便	退屈を味わうことのできる幸	恋人のあくび最後だなと思う	朝刊を朝から五回読みました	小鼻ひくひくはったりとすぐ判る	始めから大きな話目が泳ぐ	しわんぽがこれ見よがしののし袋	はったりをきかせる元気失せました	逃げ腰ではったりかます八に熊	虎印ははったりでないタイガース	南大阪川柳会松岡	天辺の椅子に座っている孤独	素っぴんの私魔除けに玄関に	日常の些事ほっこりとなる暮らし	曲り角あなたの風になる覚悟	秋晴れをお預けにするふくらはぎ	岩場越えトップは間近か尾根の先	頂上から錦秋見事山の色	夕陽からもらう明日の道標	特養は幼児帰りの遊戯会	捨てられた愛の炎か曼珠沙華	顎引いて口角あげていい遺影
楓楽	克己	篤	大子	あや子	昌紀	いさお	よしみ	俊雄	峰子	直子	国和	篇報	寿之	圭	章子	常男	隆充	正義	由夏	清	欣之	かこ	あかり
しなやかな心で余生暮らしたい	転ぶなと足に号令掛けながら	さべらほく川林全(馬耳)役庫	為又一後要	雲ぷかり今日は信じていいらしい	オクラ噛みつつラジオ体操第二	糞度胸お節の予約する9月	ミサイルより民の暮しで自慢せよ	落ち着けば今日でなくても明日でよい	もう一度巡り逢ったら騒ぐ過去	世が世ならアンタなんかと口利かん	青白い閃光八月の悪夢	ノーベル賞いただきましたダイオード	青白く光る新米の収穫	青白い友にまたねと言って去る	幽霊はビタミンDが皆不足	新型コロナ自粛で顔が青白い	焦げついた噂の真意さぐりたい	潮どきの別れ話が焦げくさい	六日九日焦土と化した原爆忌	問題を煮詰め過ぎると焦げつかず	焼モチを焦がす女のデリカシー	焦げるほど海で焼きたい自粛中	コロナ自粛退屈そうな靴の減り
宣子	多美子	ガス幸	公之の数	ダン吉	一筒	柳右子	一歩		常男		柳伸	勝蕉弘子	シマ子	実	東風	ルイ子	弘委智	敏治	満作	亜成	志華子	ひさ乃	弘 子

秋祭り月下に響く囃子声	だらけずに凛凛しく老いを迎えたい	ウォークで柿の木見上げ食べ頃だ	大好きな立秋過ぎて秋深し	パラ水泳ベストを尽くすタッピング	出し抜けにリタイヤすると貴方言う	無礼者誠意尽くして陳謝せよ	14. 千川村(大阪) 和口 コ	恵コ	政治家の仕事日本を直す事	ひさかたの五七五で指まどう	欲が出て山菜とりに行く八十路	年と共歩幅がせまくなりだした	背が縮み子供目線に近づいた	断捨離をもったいないが邪魔をする	この頃は遺言めいた日記書く	朝顔も咲き切りました秋の風	ワクチンも二度あることは三度あり	令和さまどうかさわやか日々であれ	そこはかとなくただ漂う秋の鬱	録画したドラマ三倍速で見る	都会には舞い星空と旨い水	流す汗ビールで補充されている	うまいと聞いたら我慢はしておれぬ	看事での牛交当に当モーカ
旼	靖	和	悦	清	景	正	五字幸	是	雨	日枝子	治	恵	久	俊	令位子	博	美	菜	千	美	紀の治	瑞	宏	てスし
ŧ	子	代	夫	75	子	子			奇	字	代	子	直	久	子	子	穂	4	代	緒	治	枝	之	l
ひっそりとしていたいのに係が来る 断	なんとなく内緒話が長電話	金持ちの悩みを聞いてホッとする	川柳あまがさき(兵庫)大浦		秋が来た森羅万象パラダイス	年金はほどよい暮しの昭和人	謙遜は第二の自慢と言った亡母	パソコンと話す診察顔も見て	初ひ孫こわごわ抱っここの婆八十路 美智子	銀杏の御下がり貰う神の杜	保証人軽いサインの重いこと	稲穂の波消えて野面が顔を出す	妻病んでコツコツンと胡瓜切る	酷暑の日氷を齧って脳天キーン	深呼吸わたしを少し入れ替える	満月を片手で拝み雨戸引く	川林さらから(美国)		畳紙を開くと亡母の残り香が	大地けりリヤカー押した雨上がり	サヨナラ勝ち余韻持ち寄る縄のれん	刈り入れ後田圃の案山子我が身かな	深い	スーノラの公音ををしれ表音
が新	柳	菊	老音幸	n E	す	凛	几	智	美	(長)	良	重		善	稠	(北) 哲	利臣幸		淳	五	弘	な克	_	ŀ
禄	明	江	¥	校	すみえ	繒	代	智恵子	智子	夫	子	男	剛	輔	民	男	*	Ř	司	月	光	Ξ	彌	315
一目敦解敦すぐに選挙カー	帰宅して一目散に先ずトイレ	感染のこわさしみじみコロナの世	マスク顔日常茶飯なりました政治家に全く不向きなお人好し		一目散逃げているのはうちの犬	川村石の軸(大阪) 川ズ	I K	やさしくなれとひらがなにした娘の名前	ひっそりと暮していてもゴミは出る	孫去んで今日で連休すみました	笑顔だけ出し惜しまない節約家	口きかず買物済ますセルフレジ	要らんこと言うて墓穴を掘っている 谷	埋める穴掘る場所探す廃炉ゴミ	井戸掘ってアフガンの地に骨埋める	手術後の体重計が寂しそう	臆病な人がひっそり金貯める	病癒え居場所なくした千羽鶴	スマホだけ光らせひとり夜の底	CO2で炭坑節が歌えない	長くないだけでスピーチ喜ばれ	秋風と律儀に咲いたひがん花	おしゃれする言葉使いも品が良く	サード サンド サンド ノラープラーしき
言	亜	笑	やすの	泰	博	信于幸		かずお	宏	耕	久仁雄	正	(谷)	42	英	Œ	健	紀	紀	(入)修	和	初	照	
-						12	205	-			4			2011										- 13

金子美千代報

川柳茶ばしら(愛知)

お洒落して残る余生にはずみつけ

お日さまの匂い楽しむ布団干し ロボットで受付済ませ待つ座席

SNSバイトの誘い腰を引く まみ子 三樹夫

衣食住足りてここまで来れた幸

次々と故障家電もわたくしも 千鶴報

美千代

かつ子

和歌山三幸川柳会 四川

言い勝って夕陽が重い帰り道 四度目は許してくれぬ仏さま 悔しさで口重くなる銀メダル 仏さま心の中に居てござる 成功談深い努力の花でした 大丈夫まだ未知数の明日がある 免許証返納すれば事故はない 重荷にはならぬ笑顔を持ち歩く 線香のかおり先祖と手をつなぐ 昭和史のところどころに深い闇

あき子

ダン吉

ひろ子

いさお

扶美代

真智子

准 俶

日の重さ痛感する齢

頑なな心を解すストレッチ

平等に加齢怯えることはないのです 虚栄心満たした重い請求書

結末を知った団扇が寝てしまう

仏事には母の指図で皆動く 重い荷を物ともしない逞しさ

野仏は猛暑酷寒何の其の たそがれて重心少し低くする 深読みをしすぎてジャンケンに負ける

手の平で重み計って買うキャベ ゲルニカに深い平和の願い観る 百歳の齢重ねた粗衣粗食 仏にはなっても母は母のまま 行間に深いおもいが染みている

高速が出来て野仏眠れない

"

ひろ子

おはようさんまず仏壇に話しかけ 許します優しい嘘とわかるから

美枝子

野仏へペットボトルのお茶そそぐ

残された田んぽどう継ぐ荷が重い

ワクチンの針の深さに先ずびびる 遺産分け最後に残るお仏壇 意味深な笑顔気になるいい女

日出男

母さんに叱られたくて墓参り 深過ぎて物差し足りぬ親心

脇役でとてもかわいいプチトマト 生きてる限り女ですもの目立ちたい 川柳塔さかい(大阪)

憲彦報

立役者黒子の苦労忘れない

目の黒いうちは自説を押し通す

鶴

年金の父に無心をする息子

ゆみ子

ちょっとだけ腹黒くなる時がある 私にはとても優しいろくでなし

万紗子

横綱に黒星つけて殊勲賞

みつこ

黒を黒言える社会を夢みてる

凛として黒がオシャレなお人柄

片隅の寡黙な人が持つオーラ

さくら

満知子

年金で生かされてますすいません ろくでなしの子ほどばあちゃん可愛がる ろくでなし仕事は嫌い酒は好き ろくでなしだけど取柄は人の良さ 子が出来てがらり変わったろくでなし 地球から見ればヒト科はろくでなし ろくでなしですが体は丈夫です ろくでなしの子に最後まで世話になる しっかりと夢を食べてるろくでなし 酒やめた言うて飲むからよけ目立つ 晴天続きガラスの汚れ気にかかる 目立つためわざとカタカナ使ってる 紅一点得意になった日もあった 目立ちますだからしてます総カツラ 脇役で目立たぬように来た米寿 目立ってはいるが退屈してる薔薇

パート出る老母横目に寝て暮らす

105

素頓馬

あっと言う間に三か所も刺す薮蚊	華の頃あっと言う間にすぎて冬	あっ句が出来たメモが出来ない風呂の中	出張のはずの夫が帰宅する	気まぐれな風カーテンとフラダンス	そっと出て虹は気まぐれすぐ消える	120年目気ままに咲く竹の花	気まぐれな風が運んだホームラン	気まぐれがさらに度を増す昨日今日	ふと寄って獺祭お初めぐり逢う	学校へさあ仕事へと月曜日	句を拾う歩み秋風心地よく	待ち受けを月の写真にしたスマホ	酒飲まぬ子どもがコロナ知事に問う	アフガンの民のこころに生きる医師	ふるさとの母は達者か月仰ぐ	城北川村金(ブロ) 近恵		他愛なく血圧上がる老いの恋	田んぽアート景気づけにとおらが村	大概の健康器具は置いたまま	魂まで決して売らぬ帯を解く	黄昏れても煙たがられる親仁さん	頼られると健気に尽くすお人好し	旅楽し景色写真をおみやげに
久美子	俊雄	福貴子	千賀	志華子	志 華 子		満作	優	義明	満知子	弘委智	かずお	五月	野靍	星雨	幸	正報		美津子	みつ江	進	八千代	清	光雄
小荷物の再配達は土曜でも	郵便を待った楽しみ同じ今	郵便箱出入りの度に期待する	おじいちゃん好きと孫からラブレター	加吉川林会(川耳) 竹作 明	Ť	ひらめいた妙手に一つ歩が足りぬ	情報に溺れぬ浮き輪欲しいもの	躓いた段差に歳を笑われる	一票を投じ静かに茶を啜る	コロナ自粛投句ばかりで会えぬ友	昔ワクワク今イライラの老夫婦	友と会い腹の底から笑いたい	いのちには終りがあると知る卒寿	たらればの約束ばかりさすコロナ	朝までの記憶ばっちり不眠症	百歳の母も未来の話する	三回目何時やと医者に聞きに行く	熱があったら来ないでくれという主治医	ぼくの医者がぼくより先に逝くなんて	名医にも見せはしません臑の傷	カルチャーを一つ減らして医者通い	子ども好きでなければならぬ小児科医	あっそうとつれない返事誕生日	あつ笑ろた母が私に手を振った
惠	恭	雄	完	灰汽车		-	篤	博	肇	堅	廣	朝	ルイ子	利	実	洋	郁	賢	黒	和	峰	宏	Œ	万紗子
子	子	大	司			歩	My	815	66	坊	光	子	子	子	~	志	夫	子	兎	夫	子	造	彦	子
急かされて不本意ながらハイと言う	気持ちだけ急いでヒザが泣いている	締切日明日に迫ってペン走る	川柳塔まつえ吟わ(島根) 林見 「地		猪が名指しでやって来る畑	名指しされ眠気吹っとび足震え	賭なのか当て馬なのか名指しされ	気に入りの人を選んで名指しする	名指しされビンタ張られた初年兵	菅さんは名指しで非難されている	人のあら目くじら立てて攻め立てる	目くじらを立てると皺が増えますよ	糖尿病目くじら立てて見張られて	お隣が目くじら立てた境界線	曽孫でも目くじら立てて叱ってやる	頭出す杭が派閥に叩かれる	窓開けて身を乗り出して客を待つ	寂しさに口ついて出る独り言	入るより財布破れたように出る	さあ選挙黒幕闇の金を出す	手紙出す相手次々もういない	白旗を出す坂道の足と腰	明日知れぬ軍事郵便待った日々	若い頃郵便待ったどきどきと
豊	知恵子	あきら	柳步幹	ž Z	照	凱	大	酔芙蓉	重	けいこ	道	風	玲		紀美恵		祐			次	さちこ	麦	日出子	智恵子
仙	子	5	71	K	彦	柳	鯰	蓉	忠	ح	春	露	子	子	恵	夫	子	江	枝	男	٤	青	子	学

母の日に貰った紙の金メダル 千代	花束を贈られて社を放り出され 俊雄	数かずの情けを受ける八十路坂 福弘 子	あの人が来ると賑やか輪広がる みよし	嫁入りの時に貰ったレシピです 敦子	忘れない117が原点だ 義明	積み上げた人生壊す天災よ 堅 坊	天災と人災の間に猿惑う 靖 夫	病む妻に我はうろうろしてるだけ 昭九朗	限りある命を抱いて橋の上修	貰える物なんでも貰い新世帯 哲子	蝉だけが賑やかに鳴く街となる 正 和	団体が着いて賑やか外国語 邦 男	人間が天災創る温暖化 一 徳	震度7今も体が覚えてる 新録	童心が芽生える駄菓子昼のオマケ 雅 乃	無名でも国を賑わすメダリスト 弘委智	土石流ローンの残る家に岩 哲 男	失恋も天災だったことにする ひとみ	目の前で電車のドアが閉まったの 恭 子	ありのまま歩きなさいと辻地蔵 光 久	女子会の隅に無口な人がいる 紀 華	幸せになれと貰ったこの命 野 薫	言い訳にママが笑えば許される 利子	走きあかれ東ムで借した神の声
時々は相手の立場になってみる	寝込まれて大黒柱妻と知る	頼られて大黒柱になってくる	度量ある柱にいつも人が寄る	変化などびくともしない俺がいる	定年の大黒柱二度の職	単身赴任我が家を遠くから支え	現役時代絶えずリーダー自負してた	折れはせぬ未だ支えてる老いの骨	我が家での大黒柱お母ちゃん	幸せにするよと言った人どなた	これからの余生楽しみ過去消去	一切をキャンセル肩の荷を下ろす	お喋りへ言うた秘密は取り消せぬ	人生のキャンセルまだまだしたくない	百万円キャンセル出来ぬ墓事情	託された命燃え切る曼珠沙華	時々は歳を忘れてときめいて	転落の吃水線にあるスマホ	婆ちゃんがいつの間にやら所帯主	約束の小指の先を反故にする	川村おやかれ(大阪) 籍島 東	叩るらばり(こえ) 変形	到来物と言われいただく気の軽さ	現べカにメランにてこく専門の声
一	常男	亜成	寿子	高志	和織	千 賀	武彦	郁夫	壽峰	賢子	一文	寿之	堅坊	銀杏	尚世	信子	千鶴子	欣之	勝弘	弘委智	思一幸		氷筆	里雀
へそくりを夏痩せさせたお盆玉	まだ生きるへそくりたんと残ってる	へそくりを見つけた妻は知らぬ顔	へそくりは昔女で今男	へそくりが死語になったひとり者	世界中隠し口座が蔓延し	改ざんの出来た給与の明細書	へそくりが百万切ったどないしよ	へそくりは聖書で神が守ってる	川柳さんだ(吳庫) 泥井		物忘れしては時々立ち止まる	嬉しさに語尾がピョンピョン飛び跳ねる	コロナ禍を憂い真っ赤に彼岸花	ビールつぐ話の続き聞きたくて	自粛自粛人恋しさを募らせる	迷いなき秋の入り口赤トンボ	晴天に秋深くなり庭の花	子の笑顔秋風に乗り赴任地へ	笛吹いて飛んで来るのはよその犬	大関から序二段 綱へはいあがる	転落への道はじぐざぐ傷だらけ	組体操一番上に孫がいる	転落しても落し穴には底がある	口郷に作い任せと発表さ
	健	光	哲男			俊	勝	修	使		鈍甲	仁	賢	弘子	かずお	あかり	ルイ子	高	博泉	清	玲子	かすみ	弘	†

る
 長柳会(大阪) 辻村 ヒロ報 上口報 上ンドロール今日の余韻に浸る酒自粛中人恋しくて長電話 とロノド越しの余韻に浸る酒自粛中人恋しくて長電話 中積みの長さ苦労が友となり たけし 存職の母にこっそりついて行く下積みの長さ苦労が友となり たけし 清価の母にこっそりついて行く事情がすンボのもんじゃ戸籍入りでおおったりと検事と手形切る判事もの忘れ書いたつもりのメモ探す 千代 遺言状妻が下書きしてくれる 正博 はったみと終活しよう隠居部屋 精博 こっそりと検事と手形切る判事もの忘れ書いたつもりのメモ探す 千代 ガーマンが指揮棒振れば乱れない 孝 前面の笑みを涙の球児たち皇籍がナンボの過んじゃ戸籍入り くにお 満面の笑みを涙の球児たち皇籍がナンボの過ぎた日々ともこ 腹の底言い尽くせない自尊心 さってりと検事と手形切る判事を行に戻くす振り なお 直樹 人知れず対価求めず流す汗人知でも水でもかぶります 孝代 対面で初めて分かる人に良さを情ばかり尽くしきれずの過ぎた日々ともこ かっくりと仮面を外す仕舞風呂 重査に尽くし難いは大地震 幸子 のっくりと仮面を外す仕舞風呂 三面鏡開けて今日の顔つくる 三面鏡開けて今日の顔のとる 三面鏡開けて今日の顔のとる 三面鏡開けて今日の顔のとる 三面鏡開けて今日の顔のとる 三面鏡開けて今日の顔のとる この音楽は いまり さいま は着ける 大阪 神経 は着ける 大阪 神路 は着ける 生き抜けと力を尽くす 振り かっくりと 仮面を外す仕舞風呂 ショパン間 きがは かり直 かり音が は かり は かり音が は かり は か
村 と口報
ショパン開き余韻噛みしめ帰り道 エンドロール今日の余韻に浸る酒 ノド越しの余韻嫋嫋白い泡 み あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子 様 御の母にこっそりついて行く こっそりと検事と手形切る判事 代 耳元でソッと呟く内緒事
ショパン聞き余韻噛みしめ帰り道 洋 ー エンドロール今日の余韻に浸る酒 由 更 ノド越しの余韻嫋嫋白い泡 純 園
裕和ひ朝克征ま志己太高信万りゆ壽冬直和純由洋本本本でスコンカース
The second secon

南方へ旅立つ燕また会おう	台風はいつも南で発生し	南下したもみじが列島染めている	南極の氷もピンチ温暖化	キタよりもミナミの方が庶民的	幸せが舞い込みそうな南風	川村はすみよし(大阪)田中代み三幸	一角をトタミノスジョウン	路地裏に戻れや子等のさんざめき	平和とは言えない核がある限り	ミャンマーにいつか届けよ民主主義	総理など替えても何も変わらない	広いねえ玉造の地興味湧く	おむかえに電動ペダルぐいとママ	誤爆から新たな増悪悲しみが	船出した新内閣を見極める	早よ見たいオール野党のワンチーム	約束の軽さへ小指あきれてる	幸せにできるかどうかいえません	約束は嫌いドタキャンされそうだ	約束はお食事だけのはずでした	約束の日に確認の要る加齢	カレンダーに書けない約束をする	約束の数ときめきを抱いている	面倒でもやればいつかは花が咲く
江里子	としお	久美子	憲彦	勝弘	進	幸		鈍甲	保州	清	ダン吉	和	風子	古池蛙	しげ子	奨	千代美	博美	瑠美子	心平太	敏治	恵美子	紀乃	栄子
奥さまのニュースソースは美容院	五紙読んで一呼吸おいてから決意	生き字引き豊富なネタハスマホから	テロップに半分ほどは追いつけず	富士山は日本が誇るランドマーク	情報が行列つくる旨い店	情報を集めるための飲み会か	どんな日もニコニコマーク忘れまい	ノーマークだから気楽にいきてます	新記録出してマークがきつくなる	五輪マークコロナの風にやっと耐え	ライバルを意識するから精がでる	ブルースカイに不変のマーク五色の輪	雨マーク続く心配な裏山	マークしたあの服やっとバーゲンに	マークした刑事の勘は揺るぎない	よその犬うちの門扉にマーキング	花丸が思い出せないスケジュール	裏技もとことんマークする勝負	囁きが世論生み出すツイッター	ボチボチおいでと耳打ちする閻魔	その声で囁かれたらたまりません	囁きも束になったら世は変わる	耳もとで明日があるさと風の声	南方の亡父をまだ待つ母白寿
保州	ゆみ子	いさお	千代美	福貴子	史郎	裕之	朝子	比呂志	志津子	俊雄	行兵衛	理恵	克己	たかこ	佳子	萠	雅美	ふりこ	堅坊	真澄	まつお	一步	はな	寿之
お日さまがストンと落ちて気忙しい	夕暮れて一つになったシルエット	なぜだろう夕暮れ時に元気湧く	夕暮れの鴉のカアが佗しくて	川林恵井寺(大阪) 金才してお幸		蓋してもしても擡げてくる噂	難問は解けたにっこり青い空	さあどうぞお風呂のような我家です	落ち葉掃く虫の音拍子とってくれ	何万回書いても下手なわたしの名	上手下手有って人生やじろべえ	深窓でにっこり笑う罪と罰	苦境から抜け出すまでは生き地獄	生きるとは走る止まるの繰り返し	鈴虫に心癒やされコロナ砲	赤ちゃんのにっこりだけは世界一	ごろごろと喉を鳴らして甘え下手	年金の減りは長生きして埋める	ノ属可見川村名(大阪)中国		情報が多すぎるから斜め読み	早急の情報ほっとする仮設	質問に個人情報だと拒絶	風聞を確かめたくて酒を注ぎ
シルク	俶	勝	かずお	4	(c)	欣	寿	か	卓	あかり	壽	涼	高	耀	和	清	惠	常	清幸		篤	ひろ子	玄也	哲夫
ク	子	弘	お			之	之	٢	郎	h	峰	子	鷲		雪	VID5	-08 7 0)	男			10047C)	子	也	夫

進みゆく秋はことさら人恋し 真っ赤から影絵へ夕ぐれのアート 夕暮れは明日の命を考える 躓いた石の由来を聞かされる 席どうぞ躊躇しないで甘えてる 逃げ足の速い二歳に追い付けず 秋夜長いつもの友は吟醸酒 辞書繰って妥協許さぬ律義者 糟糠の妻のどうぞに逆らわず 投げつけて元には戻れない禁句 かけっこで園児の笑顔はじけてる やっぱりな上等な出汁味納得 走り来た人生いまだ後を見ず 感染の数にワクチン追い付かぬ 亡母の味にやっと追い付く祭ずし 追い付いて追い越す父はまだ遥か 本命がトップ捉えてあと五百 追い付けばまた離される棒グラフ 家事全般姑に追い付けないままに 読み終えて本はふわりと夕暮れる 夕焼け小やけぬくいご飯が待っている オッサンは夕暮れが好き酒が好き 一等に追い付く筈で駈けている 一中もくせい川柳会(大阪)初代 (水) 正彦報 ヨシェ 多美子 いさお ひろ子 シマ子 久仁雄 ちづる みつ江 瑠美子 扶美代 みつこ まつお 母さんの名残ふんわり桐箪笥 伴走の絆の紐が奇跡生む 期限切れお先にどうぞ召し上げれ 出掛かった本音が又も巣に返る メロスには負けぬとこの世走りぬく 諦めてなんかいないと吠えてみる 齢不問心躍ればペン走る 転ぶたび大きくなっていく子供 やれズーム孫の笑顔に癒される 世界では譲る精神粗持たぬ 私より年寄りに席ゆずられる 飲ん兵衛にどうぞどうぞと縄のれん 辛いけど倖せになる途中なら 独り居は自由不便のくりかえし 衛星画像見て納得をする予報 打開策考えながらパセリ剥ぐ いい人と言われたこともあるのです 無理しても娘の笛に踊る母 意地のある生き様見せたいい最期 銀杏からしゃきと胸を張れという 小走りに秋の風行く水面揺れ 納得をしながらどこかふてくされ 走る跳ぶ泳ぐ見事だパラ選手 大久保眞澄報 (岩) (初)正 福正 眞 ひとみ 千賀子 美津子 ふりこ 弘委智 代 もしも来世あるなら恩師一目でも もしもヒトいなけりゃ青いまま地球 踏み出せばもしもは花も実もつける 他愛ないもしもで揉める新所帯 匂い立つ愛の余韻を抱きしめる 失恋の名残へ風はやさしすぎ 愛されたん名残をさがす秋の指 転がった缶にうっすら紅の跡 即興で聴いたショパンの良き名残 本気ならごちゃごちゃ言わずやりなはれ 膝詰めで本気ですかと問う本気 戯れで君が好きとはよう言わん 休肝日いつも崩れてしまいます 仕事だぞ本気にならずどうするか まよいなく本気になって育てたい ポストコロナ固い握手が出来るかな 冤罪で拘束あなたどうします 同意書にもしものサイン字が震う 振り返りあなたの余韻確かめる 最後かもしれぬあなたの手の温み 路地にまだお互いさまという名残り しあわせを目指した名残リング跡 湯に踊る子等の真白き水着跡 美学かも名残惜しまれバット置く なごり雪」もう口ずさむ汽車がない (平美智子 すみれ シマ子 すみれ 惠美子 かずお

夫

平凡に賞罰なしで来た長寿 ゆっくりと話せばいつか分かるはず 平行線少し狂って結ばれた 平行のまま線路は日本駆け巡る おっとりと先争わぬ品の良さ 品のよさきれいな足のくずし方 こつこつといい汗かいて生きてい こつこつと菊花展迄愛を込め エレベーター行き先ボタン非接触 心太のようにはいかぬ子の巣立ち 保証印黙って押してくれた義父 押し寝したズボン悲しい二重線 噛み合わぬ一服お茶が解きほぐす 伴走のあなたにあげる金メダル 距離詰めて接しはしない処世術 る 磯 千賀子 洋 美津子 宏 明

六甲川柳会(兵庫 糀谷 和郎報

試される本気まだまだ歩かねば 新総理本気で聞いて民の声 玉の輿本気で蹴った泥の舟

老い二人ボヤキ油を差しながら 白過ぎて九九がしっかりまだ言える

子

奥深い人間性が惹きつける 三度目の五輪見るまで生きてやる

みつこ みほ子

> アナログの温もり孫に教えたい 今だから言える恐ろしい話 ビヤホール再会祝う大ジョッキ 楚楚とした仕草に宿る品の良さ

さり気なくあなたがそこに居るだけで ひとみ IE. IE.

付き合って下さい僕は本気です

いさお

ああきっと私のことを言っている

物臭が急に本気で写経する 真剣な目差し子らの好奇心

老老介護本気になった夫婦愛 本気です」妻を口説いた言葉です

> ひろ子 ふりこ

リハビリの足に試練の向い風 よくしゃべる人だホントは寂しがり 叶えたい未来予想図握りしめ

思い出を無惨に砕く家じまい 解除後を見据えて励む趣味数多

背徳を選びながめている破滅

洋次郎

美恵子 廣

0865 - 62 - 6200

各課題毎に、天位獲得者3名のうちから 1名に句碑を贈呈。

催 井 笠 Ш

第 66回 井笠川柳誌上大会 蘖

課題と選者

厂魔 法

野村 賢悟・野田てるを・三宅保州 冗 談

みぎわはな・前川 淳・福本 清美

応募要領

賞

便箋または所定の用紙に各題2句(計4句) を列記

郵便番号・住所・氏名・電話番号・所属 柳社を明記

応募料と共にご送付ください。

未発表句に限る。複数投句は不可。

投 句 料 1000円 (定額小為替または現金書留) 応募者全員に発表誌(令和2年2月発行予 定)を送付

締 切 令和3年12月28日 (火) 消印有効 投 先 ₹ 714 - 0081 岡山県笠岡市笠岡 2289 句

電話・FAX

川柳句集『師弟』50句(平成11年3月発行)

子煩悩がっ

たんがったんしてくらし

をみん

なだまし

て南に居

の子とい 1

0

があ

っておそろしく

Ш

僕の

枕は

何処へいた

ナス

で父の腕前

疑うな

スピー 父の

チを考へ

ながらテキを切り

眼鏡

鰯

雲ほど並べ

たり

が来

て笛 は

太鼓を恋しが

立ちたくて立ちたくて蛇木に登り

そら

飲む会

0

ガ

+

は箸で裏返

屍る

V

るいとありにけり

î

鮎 3

で値

切ることはな

並

U ま

<

聖

きりぎりすちょんと男は立ち上

る

0

神様気をとら

n

名を呼

びすてにするまひごの

ピー 婆さん ル 博士今度は民主主義を売り を見 親類 0 泡 を吹い 限 よと脱税 あ り死にたがり死にたがり て話をそらす気か まれるな となり てゐたり にけ h

生

郎

I

高

薫

風

生み 人質 邪ひ 相も肝腎や蜘蛛殺される は 品がもうおまへんと言われそう のやうにとられ 変りゃ君まで大臣 ただけ 5 て学者い と使える金 だけだが僕 が男がし て七十余年をウロ 並が少し欲 でなびて来 ・ジジむ 春が来 春が チ z = か U す

> 草の 長靴 ひた走 弱肉 妻よ子よ水 芽が 強 0 出 る 食 つうて犬 る男 欲 て立 出 鰐 方どうしてもこける 7 を が 0 皮 エンゲー たぞおしっこさせながら の深さが臍を越れ 七才七十 0 0 より出るごとし 仏陀の 鞄持 てから速 り換え 凄 かろう ジリングだよ ち 相 のが 似 3

底 根 都 7 C 3 きか平 侮 げくるりと能 でとう無言 る子が叛 役者 電話にも

第36回 国民文化祭・わかやま2021 (11月14日)

第36回 国民文化祭・わかやま2021 黒潮薫るみかんの里 有田市 「川柳の祭典」選考結果、事前参加は1489名、当日参加は218名。大会各賞は下記のとおり。(太字は同人)

入賞句·

風

評

有

田市長賞

が漁師の網をすり抜ける

有田市議会議長賞

温暖化鯨も泣いているのかい 一帯一路パンダが旗を振っている 一帯一路パンダが旗を振っている 一帯一路パンダが旗を振っている 和歌山県川柳協会会長賞

クチンとみかんを食べて立ち向かう和歌山県教育委員会教育長賞

歌声

はテナー鯨は平和主

和歌山県議会議長賞

木簡も書簡もにんげんの橋だ

和歌山県知事賞 国民文化祭実行委員会会長賞 とびっきりの時代遅れは愛される

文部科学大臣賞

Ш 福 福 茨 北 広 和 T 愛 青 歌山 梨 森 岡 岡 城 海 島 葉 知 県 県 県 県 県 道 県 県 県 県 片 た 髙 古 小 H T. 小 北 むら h 辺 畑 林 瀨 谷 野 濹 原 ともみち 与志 あきこ 龍 信 霜 晃 哲 おさ虫 太郎 郎 石 淳 魚 男

二次選者 小島 蘭幸・田中 新一・矢沢 和女・佐藤 美文・荻原美和子

11010年度《令和1年度》 一川柳塔社総務部報告

・「第26回川柳塔まつり誌上大会」を開催。

・「第9回春の川柳塔まつり誌上大会」を 参加者551名。

*藤井寺市市民文化功労賞 * 本社句会月間賞永久保持者

鈴木いさお

木本

朱夏

主な受賞・表彰

実施。666名の応募を頂いた。

*全日本川柳協会 (一社)

第19回功労賞表彰

西出

出版・句集の刊行 *全日本川柳協会 (一社) マスコミ柳壇 *第7回詩歌文学館館長賞 指導者十年以上表彰 西出 新家

完司

*澤井敏治川柳句集

一鹿の声

*藤井 智史川柳句集 **「カオス」**

*山下 愚蛙の戯言 凱柳川柳句集

(5名)

山中 康子 令和2年8月18日没

加川 靖鬼 令和2年10月28日没 令和2年10月9日没 令和2年9月16日没 88歳

選

小池正博・阪本高士・小島蘭幸 浪越靖政·髙瀨霜石·尾藤川柳

他

新同人(令和元年10月~令和3年9月) 吉岡 令和3年3月10日没 95歳

磯本 洋一(羽曳野市 正美(神戸市 永井 加藤江里子(奈良市 松柏 (今治市

英也(枚方市 斎藤 隆浩(神戸市

山本三樹夫(名古屋市 耕三(三原市 羽奈 石田 孝純(大阪市 和子(尼崎市

厚江(尼崎市 汪(鳥取県 大羽 雄大(倉吉市

住吉美和子 (三田市 大内せつ子(松山市 久直(境港市 小畑 勝正 博美 (大阪市 優子 (三田市 定弘 (阿南市 (神戸市

昭美 (三田市 和織(寝屋川市 弘 (神戸市 藤井美智子(丹波篠山市 信子(寝屋川市

> 第14回 「ふるさと」川柳募集案内

題

複数応募可・清記選 一口2句・12人による共選

切 浅利猪一郎 1月31日(消印有効)

投句料

等使用・2句を1枚の用紙に記入 1000円(切手不可 ★添付の誌上大会投句用紙他便箋

最優秀賞 1点 樺細工色紙掛・仙北市産品

柳誌「湖」14号 優秀賞 2~10位 (仙北市産品)

(2022年4月発行予定)

投句先・問合せ

秋田県仙北市ひのきない T014-0602 字長戸呂85

浅利猪一郎方

電話 川柳「湖」(うみ) 第14回「ふるさと」川柳事務局 0187-48-2236

民会館で開催。 同人成績 参加者的 ました。

観覧車ぐるりと告白が 小島 蘭幸

実る

染の雲まつ マツタケはあるし新米 丹下 凱夫

第72回

やま川柳誌上大会」。 大内せつこ ī 天 貰ったし 位

永見

心咲

★「第65回井笠川柳会誌 襤褸のいのちまで纏う のはわたし ★「令和三年度川柳研究 ストライキ 両ひざが申し合わせて

上大会『蘖』」。参加者39 位(句碑獲得者 同人成績。 誌上大会」。参加者羽名。

同人成績

智史 高瀬 霜石

藤井

居てくれるただそれだ き合った 緞帳が降りる女神と抱 永井 松柏

けで良い案山子

笹重

ている案山子

位

ふるさとの明日を信じ カンナの緋抱いて母に 平井美智子 ですか ご同輩あなたも工事中 クである ▽ご芳志お礼△ 霜石 から・ ○10月号、P44

にご芳志拝受。(敬省略 ○「第27回川柳塔まつり い、清算金をご寄付頂き 〇11月号、

P 11

ŀ.

段10

西出風楽→西出楓楽。

栃尾奏子 藤田武人

江島谷勝弘 内藤憲彦 木本朱夏

○10月号、P27下段22行 ▽削除△ 作者の申し出により

削除。 ▽訂正とお詫び△

絶海のノコギリ岩がボ 日、今村和夫→今村和男· ○8月号、P67中段11行 2行目。不満がち→不満

「京都塔の会」(会長 となる→老婆ひょいと眠 老婆ひょいと眠れる美女 9行目、

会」は10月10日、

笠岡市

・桝本宏子様)解散に伴

れる森の美女となる

〇 発

表

★「第15回岡山県川柳大

は母の乱

十月波与生。P85下段3 淳 司。 から令和。P67作家番号 目、平和から令和→平成 下段13行目、坂上敦司→ 12下段4行目、月並与生 P99上段13行目、 三田市 吟。3段目12行目、相手16上段1行目、競銀→競 ▽新誌友紹介△ 紹介者

哲男

第12回 高田寄生木賞

「川柳に関する」論文・エッセイ 評論・作家論・川柳の方向性やあり方、

川柳と社会や個人との関わり等)

〇選 切 2022年 野沢省悟

◎応募規定 (バソコンかワープロ使用・縦書き・ 未発表に限る。4000字以内 2月末日

20字)

送り先 T038-0004 青森市富田2-7-43 野沢方

高田寄生木賞 1名

川柳触光舎

0

賞金 触光」74号 3万円

W 部 ょ お 知

川柳塔本社令和4年1月旬会は、 上本町アウィーナ大阪での 開催を予定しております。 実に23か月ぶりの顔を合わせての 句会です。兼題等は下記をご参照下さい。

なお、広い会場を用意しておりますがマスク着用、手指の消 毒等、お守りのうえご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

令和4年1月6日 H 眛 (木) 13 時 40 分締切 13 時開場

場 上本町アウィーナ大阪3F葛城の間 所 参 加 費 1000円

席 題 上田ひとみ 選 兼 顯 「置 < 1 石田 降彦 選 兼 宏造 選 題 「怪 10 藤井 兼 松岡 篤 題 選 「た 兼 西出 楓楽 選 題 か が 兼 題 「気 合 新家 完司 選 Val (各題2句出し)

(状況の変化により大幅な変更も考えられます。その場合はご容赦ください。)

*

男女を問わず ちしています

投参締 句

投句用紙 加 切

ポスト

自由吟

題と選者(各題2句)

第

10

回

卑弥呼の里誌上川柳大会

津田 暹 大西

令和4年1月15日(金) T842-0103 1000円 専用用紙(コピー可)またはA4大用紙 佐賀県神埼郡吉野ケ里 村山 横尾 阪本 濱山 信雄 高士 哲也 (切手不可) 木本 赤松ますみ 鈴木 樋口 大曲2426-2 由紀子 消印有効 朱夏 順子

共選

各題特選1句·有田焼 0952-52-1061 一万五千円相

TEL

FAX

卑弥呼の里川柳会

真島久美子

各題佳作5句·図書券

その他サプライズ賞あり) たくさんのご参加をお待

— 117 —

発表誌呈

句会名	日 時 と 題	会場と投句先
ほたる 川 柳 同好会	14日(火) 13時30分締切 湯・待つ・参る	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール蛍池 蛍池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曽根2-4-1 木野黒兎
川 柳 あまがさき	10日(金) 14時締切 おだやか・転機・ほくほく 自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階阪急武庫之荘駅南へ5分〒661-0953 尼崎市東薗田町3-49-5 藤井宏造
川柳大阪	15日(水) 事務局必着 誌上句会 けじめ・雪・マスク	〒636-0144 奈良県生駒郡斑鳩町稲葉西2-4-23 中原比呂志 田 0745-75-3655
川 柳 たちばな	17日(金) 13時45分締切 席題・印象吟・寄る・窓	関平コミュニティーホール 阪急「園田」駅 〒 661-0953 尼崎市東園田町 3-49-5 藤井宏造
岸和田川柳会	18日(土) 枝・装う・今更・トリック	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
和 歌 山 幸 会	18日(土) 13時15分締切 師走・忙しい・終わり 投句締切9日	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
川 柳 塔 みちのく	18日(土) 17時締切 始末・ロウソク・祈願・嗜み	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 ねやがわ	19日(日) 顔馴染み・弁解・恋人 閉じる・自由吟	投句先 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳藤井寺	19日(日) 14時締切 てきばき・大阪・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪川柳会	20日(月) 14時締切 流す・由々しい・わくわく・ 雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊 中もくせい 川 柳 会	20日(月) 13時50分締切 ゴール・押す・重い・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曽根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
はびきの 市 民 川 柳 会	26日(日) 14時締切 元気・砕く・こんこん・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 塔 すみよし	休 会	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
川柳さんだ	再会します 21日(火) 13時締切 愛嬌・汚い・デザート・願う 自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔なら	2日(木) 年輪・ほんのり・添う 誌上	〒636-0341 磯城郡田原本町薬王寺150-21 中堀 優
城 北川柳会	4日(土)14時締切 借りる・なんで・予想・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江鳥谷勝弘
倉 吉川柳会	4日(土) 14時締切 閉める・明日・足す・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川 柳 塔 え 社	4日(土) 13時30分締切 蓋・足・遠い・ピンチ	投句先 〒690-1233 松江市美穂関町笠浦221-1 相見柳歩
おりひめ☆ ひこほし 川 柳 会	7日(火) はじめまして・キラキラ・真っ白 投句料: 420円分の切手	〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこほし川柳会』 藤田武人 TEL・MI 072-395-5453
川柳塔さかい	8日(水) 投句締切 ゆっくり・ふんばる・最後 折句:さ・つ・ま	投句句会へ変更
六 甲川柳会	9日(木) 誌上句会 四角・なぞる・ほちぼち・全力 自由吟	〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
あかつき 川 柳 会	10日(金) 14時締切 やれやれ・落・発見	大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F) メトロ[谷町六丁目]駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川 柳とんだばやし富柳会	11日(土) 餅・ゆっくり	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ 200 m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
川柳塔打 吹	11日(土) 13時30分締切 掃除・困る・ようやく・席題	倉吉市上灘町 9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川 柳 会	12日(日) 14時締切 地図・スタミナ・祝う・雑詠	八尾市安中町3-5-1 渋川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川 柳 塔 わかやま 吟 社	12日(日) 14時10分締切 兼 題=干す・布・ピアノ 課題吟=悲	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 界市西区浜寺瀬訪森町東2-208-5 桒原道夫
川 柳 ふうもん 吟 社	12日(日) 9時30分から 第40回没句供養大会 上書き・矛盾・あせる・苦手・ 命がけ・昨日・敗者復活吟	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
西宮北口川 柳 会	13日(月)14時締切 席題・粘る・耳・リセット 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにしのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦

★遠い灯は 後記

理子さんから西出楓楽さ ★初歩教室担当が居谷真 人を想えと れた、 た。 ん」と自慢すると先生は、

ということを知っておら ねん」とニコニコと仰っ 森英恵の特徴が蝶々 ダンディーな紳士

であられた。川柳塔に毎

さん独特の視線は同人に 真理子さ 真理子 載しているが、今月の句 月栞句集『水鶏笛』 の中に「大臣に紐がつい を掲

ひと

ました。楓楽さん、よろ しくお願いいたします。 長年有り難うござい があったが、「大臣に紐 けた。先ごろ衆議院選挙 てる阿呆らしさ」を見つ

も好評でした。

繊維街にあった。 社句会会場は大阪市東 区通称どぶ池と呼ばれた ★今から三十数年前の本 地下鉄 微苦笑。 がついてる」とは、 わりがないようで思わず 今も政治家の本質には変 昔も

だった。 立ち込め、 れないが会場には紫煙が てすぐという便利なビル 谷町4丁目2番出口を出 仁も…。栞主幹はいつも 酒をストローで楽しむ御 今からは考えら 紙パックのお が、「高校生のころに岩 でもこの世で一番面白 スト伯」のことを書いた 小説と思っています」 波文庫で読みました。 ★11月号に『モンテクリ 30代のころ読みました

感

謝

来ると考えております。

指導頂き、

はじめて輝くことが出

ざいました。 のたくさんのご投句ありがとうご おりひめ☆ひこぼし誌上大会へ

の柳社へ配って下さった方々。そ 川柳塔柳友の方々からの心強い わざわざコピーまでして他

ے

さな赤ちゃん星です。みな様に支 に感謝しての大会誌発刊でした。 当会はまだ生まれたばかりの小 助けて頂き、 そしてご

頂いた先輩陣のアドバイス。全て して何より迷った時、 困った時に のだと…もっと大切にすれば のだと、感謝するべきことだった 一ツーツが当たり前ではなかった 手、天の句への賞賛の歓声。その のります。 合わすことなく、淋しい思いがつ コロナ禍の中、ずい分とお顔 句会会場での談笑、

顔で伝えさせてください。 溢れる感謝を今一度とびきりの笑 かったと胸が痛みます。 次にみな様にお会いする日には

しまう読書の楽しさ。 公に魅入られて没頭して 大阪市西区)で開催され 西堀江書林俱楽部 現 題。 戦前 戦後の 女湯、 面 すき焼

家は魔法使いかも知れな ように惚れ込むのは、 り。実在している人物の 13のデューク東郷しか ローしかり、 の探偵、 イモンド・チャンドラー フィリップ・マー 劇画ゴルゴ 作 た。 溪花坊氏は綿入、松葉杖 □六大家で本社句会に一 樽・忠義が互選でした。 元紋太氏は子持ち、 岸元水府氏は女の子、 お題は、麻生路郎師は靍、 選者と 本田 相 どもり、醜男、未亡人、 と思うお題。 □現在ではどうなのかな P K O 再軍備、十七八、用心棒、 トンプクなど。 乗車拒否など。 艾、ピストル、 戦前では、 戦後は、

29日川柳雑誌社創立句会 1924年(T13)1月 村田周魚氏は1回でした。 田雀郎氏が2回 すが、次の機会にします。 ず先生にご挨拶をした。

ス、森英恵ですね

どメールを頂いた。主人

のがさみしかった…」な

り頁が少なくなっていく るのが楽しみだった。残 よ。寝床で毎日頁をめく

の本社句会から第2弾。

府氏が7回、川上三太郎

ました。まだまだありま 愛人、不細工などがあり 狂人など。戦後は、浮気、

元紋太氏32回、岸元水

番多く出席されたのは、

「川柳雑誌·川柳塔社

今日のワン

私は句会場にはいると先

番前の席におられた。

61

Ш 柳 塔

社

(電話

06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

https://senryutou.net

きりとりせん

日

作品募集

愛水川 一路集 インスピレーション・ナビ(2句 步教室 (2句) 檬 染煙柳 (2句 抄 帖抄塔 2月号発表 (8句) 「ずばり」 理 淡 ほっこり」(3 曲 1, 句 棄 新川小 月 保 能村大 15 \mathbb{H} 原 家上島 H 田西 締 道完大蘭 切 霜 代 夫司輪幸 石 子博世

初歩教室

ほっこり」

は3月号発表

扣

4

選選選

共

選

選選選

本社句会欠席投句のお薦め

- *幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚 に一句ずつを書き、裏面に題とお名前 を記入のこと。
- *投句料は500円。または84円切手6枚。
- *句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

₹543-0052 定 一〇二二年(令和三年)十二 一 半 年 年 分 分 振替 〇〇九八〇一四一二九八四七九番 (阪市天王寺区大道一— 価 発行所 編集人 発行人 八 (〇六)六七七九二 九千八百円 五 Ш 美木小 百 円 花野ビル20 研 柳 島 (送料 月 円 174 朱和 H 100 送料共 间 円 発行 社 夏 幸

お知らせ

安全に 手洗 い 定 するこ お含みおき下さい。 上 です。 本本 なおコロナ感染症拡大の状況に 町ア 11 変更の場合もありますことを、 社 お過ごしください とな 者が うがい、 詳 月 :細は15頁をご参照くださ^イーナ大阪にて開催の予 減 句 く三密を避け、 少し は、 換気を忘れず、 7 11 ます 月 6 が、 マ 日 ス 油 **未** ょ 断

> 本社2月句会 7日(月)午後1時から

兼題「買 う」「語 る」「エネルギー」 「つるつる」「記 録」

川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10 TEL (06) **4800-3018** FAX (06) **4800-3028** E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp Ш

塔





〒649-0141 和歌山県海南市下津町小南 349

beetrus@nifty.com

TEL & FAX 073-492-1692

http://www.hashizume-nouen.com

E-mail